

ANNUAL REPORT

2013 – 2014

No. 37



Division of Policy and Planning Sciences,
Faculty of Engineering, Information and Systems,
University of Tsukuba

筑波大学システム情報系社会工学域は、社会問題（経済、経営、都市・地域等に関わる諸問題）を理工学的（分析的、数理的、計量的）アプローチによって解明し、政策的および計画的な意味合いを見出すという研究上の共通目標をもつ研究者の組織である。2014年5月現在の本域所属の教員は、教授26名、准教授24名、講師3名、助教9名の合計62名、連携大学院教員8名（教授6名、准教授2名）を加えると70名である。それぞれの構成員は、国際的に認められる質の高い研究成果を上げるように、また良き教育者であるように努めている。

本専攻教員の2013年度中の研究・教育活動は、以下のように総括できる。

(1) 研究活動

本域の研究活動は、2013年度も全分野（社会経済、経営工学、都市計画）にわたって活発に展開した。論文・著書に関しては、最も重視している審査付論文数が高水準を維持している。競争的研究資金の積極的導入に努め、外部研究資金を着実に獲得している。2012年度の科学研究費の採択本数は21件（基盤(A)1件、基盤(B)3件、基盤(C)12件、挑戦的萌芽3件、若手2件）、継続21件（基盤(A)2件、基盤(B)5件、基盤(C)9件、挑戦的萌芽3件、若手5件）と合わせると39件となる。

また、研究教育活動をさらに加速させるために組織力を保持するグループ研究を促進している。2014年5月現在、リサーチユニット12件、リサーチグループ13件にて本域教員が代表者となっている。

(2) 教育

本域の教員が関連する大学院教育組織は、システム情報工学研究科博士後期課程社会システム・マネジメント専攻、リスク工学専攻に加えて、同研究科博士前期課程の社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻、リスク工学専攻、生命環境科学研究科環境科学専攻である。学類教育組織は、理工学群社会工学類、および社会・国際学群国際総合学類である。

これら教育組織ではカリキュラム等教育体制を定期的に見直してきた。加えて、社会システム・マネジメント専攻、社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻では、2008年度より院生活動支援プロジェクトを実施し、自前の予算で学生による国内外の研究発表を経済的に支援してきた。また、社会システム・マネジメント専攻では、2007年度から開始した「社会人のための博士後期課程早期修了プログラム」履修生として社会人を継続的に受け入れている。さらに、社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻さらには社会工学類の一部の講義では、教育の高度化を目指し、グループ作業、フィールドワーク、インターンシップなどを積極的に取り入れている。

なお、社会工学同窓会、社工都市計画同窓会等を通じた卒業生との交流も本学では最も活発である。特に、2008年から社会工学類の優秀な卒業生3名に与えられる倉谷賞は社会工学類生の研究活動を大いに鼓舞している。

(3) 国際交流などの社会貢献

教育や研究以外にも、様々な学内外貢献を行っている。本学国際交流協定においては、本域として責任を持っているものとして、清華大学（中国）、台北大学（台湾）、漢陽大学校（韓国）、南オーストラリア大学、南オーストラリア・フリンダース大学、アデレード大学（以上オーストラリア）、ウィーン経済・経営大学（オーストリア）との協定であり、中国科学研究院（中国）との協定に参加している。

これらの大学・研究機関とは、若干名ながら研究者および学生の交流・交換が続いている。その他の機関からの外国人研究者の受け入れや本域教員の海外派遣は極めて多く、国際的な研究交流が盛んであることを示している。

さらに、実学も重視し自治体や企業などとの連携も含め多様な社会貢献、地域貢献を行っている。たとえば、2011年3月の東日本大震災を受け本学が茨城県内5市（北茨城市、高萩市、神栖市、潮来市、鹿嶋市）と震災復興に関する協定を締結した。この際には、大学側として本域教員が中心的役割を果たした。また、多数の出張講義・公開講座、本学主催の高大連携シンポジウムの開催など本学社会連携活動へ大いに貢献した。

（4）組織

本域教員の流動性が高く、それに伴い審査付学術論文を重視する採用・昇任人事が経常的に行われてきた。しかし、昨今の採用人事制度の変更に伴い、優秀な人材を確保・維持していくためには、組織力のより一層の強化が求められる。

本域教員は、様々な研究分野・職歴・国籍をもつ。多様な教員間の活発な交流が、相乗効果により研究成果の向上をもたらしている。本域の更なる成長のためには、研究・教育意欲を刺激するような環境と開かれた運営体制を整備し、中長期的視野に立ち有能な人材を確保することが必要である。同時に、研究、教育、学内外の貢献に関して定期的な記録と自己評価・点検により、社会的説明責任を果たさなければならない。本年度より、社会システム・マネジメント専攻、社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻を改組し、社会工学専攻が発足した。社会的知識・論理的思考力・各種の工学スキルを持って社会問題を解決できる、豊かな人間性を兼ね備えた視野の広い人材を育成していきたい。

新たなスタートに向け、本報告書が構成員及び関係者の意識向上に貢献できれば幸いである。

2014年6月16日

社会工学域長

社会システム・マネジメント専攻長

社会工学専攻長

大澤 義明

大学院の歴史

| | |
|-------|---|
| 1973年 | 筑波大学開学 |
| 1976年 | 大学院、経営・政策科学研究科が発足する。 |
| 1977年 | 学部組織、第三学群社会工学類が発足する。 |
| 1978年 | 大学院として、博士課程(5年一貫制)の研究科である社会工学研究科が発足する。計量計画学専攻、経営工学専攻、都市・地域計画学専攻の3専攻から構成された。 |
| 1994年 | 社会工学研究科の都市・地域計画学専攻で、連携大学院方式が発足する。 |
| 1997年 | 社会工学研究科の改編がなされ、社会経済システム専攻、システム情報数理専攻、都市・環境システム専攻、計量ファイナンス・マネジメント専攻の4専攻体制となる。 |
| 2000年 | 社会工学研究科がシステム情報工学研究科に編入され、社会システム工学専攻と計量ファイナンス・マネジメント専攻の2専攻に改編される。社会システム工学専攻は社会経済システム分野、システム情報数理分野、都市・環境システム分野の3分野で構成される。 |
| 2001年 | 経営・政策科学研究科が従来の経営科学分野と政策科学分野を、MBA、ビジネス情報数理、社会経済システム、都市計画の4コース制に改編する。 |
| 2005年 | <p>5年一貫制博士課程が区分制博士課程(2年の博士前期課程と3年の博士後期課程)に移行し、社会システム工学専攻と計量ファイナンス・マネジメント専攻は博士前期課程の社会システム工学専攻と博士後期課程の社会システム・マネジメント専攻に改編される。社会システム工学専攻は、社会経済システム分野、システム情報数理分野、都市・環境システム分野、計量ファイナンス・マネジメント分野の4分野で構成されることになる。</p> <p>経営・政策科学研究科は、博士課程前期課程の1専攻としてシステム情報工学研究科に編入され、経営・政策科学専攻となる。同年度の入学者から、修士(ビジネス)を取得するMBAコースまたは修士(公共政策)を取得するMPPコースのいずれかを選択することになる。</p> |
| 2006年 | 社会システム工学専攻が、社会経済システム分野、経営工学分野、都市計画分野の3分野に再構成される。 |
| 2007年 | 理工学群社会工学類へと改編される。 |
| 2013年 | 社会システム・マネジメント専攻、社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻が、1つの専攻へと改編されることが決まる。 |
| 2014年 | 社会工学専攻(社会工学学位プログラム、サービス工学学位プログラム)が発足する。 |

I. リサーチユニット

筑波大学リサーチユニット・社会工学域教員代表者(2014/5/23 現在)

| 課題名(領域) | 概要 | 代表者 |
|-----------------------|---|-------|
| サービス組織の経営学(人社系) | サービス提供を本業とする経営組織体の生成・成長・成功メカニズムを、戦略・組織・IT・顧客の組織化・業績評価という5つの焦点から実証的に研究する。 | 岡田 幸彦 |
| サービス資源の最適配分(理工系) | 最適化モデル、確率モデル等の数理モデルを用いて、サービス産業および自治体における、人・モノ・情報等のサービス資源の最適な配分方法に関する研究を行い、サービス事業者が提供するサービスの品質とその効率性の向上を目指す。 | 吉瀬 章子 |
| コンパクトシティ(理工系) | 人口減少や環境問題への対応に向け、都市をコンパクト化することの必要性が広く認知されるようになってきた。本研究グループはその研究上、および実務上の課題に応えるため、本学内外の幅広い専門家より構成されている。 | 谷口 守 |
| 都市・地域の経営とデザイン(理工系) | 分野横断的・国際的な視点から、従来までの都市計画・地域経営・まちづくり分野等の再構築を図り、都市・地域の経営・デザインに係る新たな方法論を創出するとともに、関連研究・教育の成果の発信・共有に係る国際的拠点を形成することを目的とする。 | 有田 智一 |
| 医療サービス科学(複合系) | 本学附属病院とシステム情報系の連携により、患者と病院スタッフの満足度の実証的研究を基に、数理最適化アルゴリズムを適用して、入院患者に手術室と空き病床を割当てるソフトウェアシステムを研究開発する。 | 高木 英明 |
| 空間情報科学(複合系) | 地理情報科学と都市工学の空間情報解析融合技術を戦略的に活用していくことを目指して、応用志向型、かつ科学的知見の政策立案への戦略的活用を意図した空間解析手法の高度化の追求のための研究活動を行う。 | 鈴木 勉 |
| 都市のOR(複合系) | 本ユニットは、都市のORを研究領域とする。都市現象に関する諸課題など社会的・地球規模的な課題解決にオペレーションズ・リサーチ手法を駆使して取り組む研究者に対し、研究発表の機会や議論の場を提供するのである。 | 大澤 義明 |
| 東アジアの伝統的民家・集落と環境(複合系) | 日本を含む東アジアにおける伝統的民家・集落・環境の相互関係についての学際的フィールド研究を実施する。現状での共時的な相互関係の理解を出発点として、東アジア全域にわたる木造文化の歴史的展開過程に関する知見を得る。 | 藤川 昌樹 |
| 経済実験・社会シミュレーション(複合系) | 相互依存的意思決定状況の下で生じる社会現象をどの程度予測できるかという問いは、研究の健全性を確保するために重要である。本プロジェクトの目的は、経済実験や社会シミュレーションによって、人間の経済行動とそこから生じる社会現象の予測に対するゲーム理論の適用可能性を探ることである。 | 秋山 英三 |

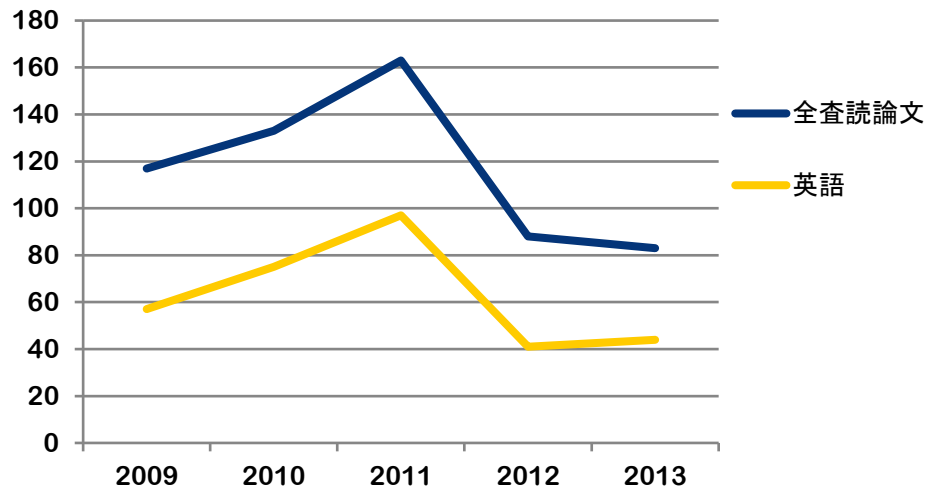
| | | |
|-------------------------------------|--|--------|
| 価値創造(複合系) | ビッグデータが注目される中、複数の情報を組みあわせて価値を創出するプラットフォームの構築が重要となっている。我々のグループでは、実データを用いた検証に基づき、数理的手法を駆使した価値創造のための新たな方法論の確立を目指す。 | 繁野 麻衣子 |
| 生態系サービス研究(複合系) | 研究グループは社会工学域の以下の3名の教員が中心となっている。代表の吉野はリモートセンシングデータ解析による地域の環境評価、特に土地利用分析を専門としている。中核教員の村上は、緑地計画をベースに環境デザインに精通している。また、もう1名の中核教員の甲斐田は、環境の経済価値評価ならびに開発プロジェクト評価を専門としている。本研究グループは、共通の研究対象地に対して、これら3名の教員の研究専門分野と得意な研究ツールを互いにオーバーラップさせることにより、研究対象地における環境問題の解決をはかり、さらに生態系サービス水準を向上させる管理政策の提言が可能である。具体的には、本研究グループは、地域環境から我々が享受している生態系サービスの持続的維持、管理、有効利用を図るため、問題・課題の発見、現状把握、変化過程のモニタリング、様々な視点からの評価、実際の政策提言を行う課題を研究テーマとして活動する。 | 吉野 邦彦 |
| マネジメント・サイエンス、経済学、心理学にわたる共同学際研究(複合系) | 社会工学域所属の5名の教員によるマネジメント・サイエンス(組織行動論・ファイナンス・マーケティング)および経済学(産業組織論)分野の共同学際研究 | 金澤 雄一郎 |

筑波大学システム情報系リサーチグループ・社会工学域教員(2014/5/23 現在)

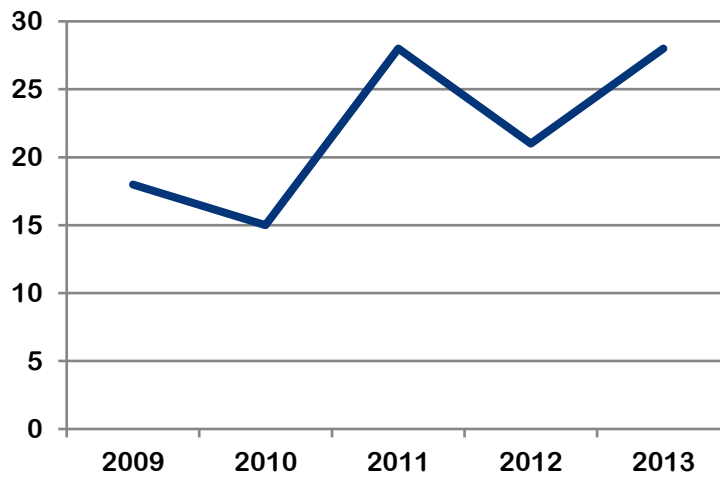
| 課題名 | 概要 | 代表者 |
|-------------------------------------|--|--------|
| 国際金融システム・政策協調の将来を考える | 国際経済の分野(例 経済統合、リスク・シェアリング、貧困問題で、世界水準の研究活動を積極的に展開することにより、将来的には国内・アジア地域の一大研究拠点となることを目標とする。 | 永易 淳 |
| 組み合わせ理論の符号やセキュリティ問題への応用 | 有限体や有限幾何を用いて、各種の組合せ的デザインの構成をしたり、符号、暗号・認証システム、あるいは実験のための計画などを作る研究をおこなう。 | 藤原 良叔 |
| 低成長時代における縮小型都市計画学の構築 | 本研究グループは、既存都市の縮小を図りながら、如何に持続可能かつ魅力的で快適な都市空間を創造するかに関する研究を行うものであり、社会工学域に所属する都市計画・環境科学関係の研究者により構成されている。 | 藤川 昌樹 |
| 顧客志向ビジネス・イノベーションの研究 | 数理科学・経営学・実践知識の融合により、顧客志向・従業員満足に基づくビジネス・イノベーションを実現する「つくば発サービス科学」を確立し、スマート社会に貢献する研究・人材育成を推進する。 | 張 勇兵 |
| 社会・経済システムの行動論的・心理学的アプローチ | 本グループでは、経済学のみならず、意思決定論、社会学、心理学の専門家が協力し、実験、調査、シミュレーションなどの多面的なアプローチにより経済エージェントの限定合理性が社会経済システムに及ぼす影響について解明する。 | 石井 健一 |
| 持続可能な社会構築のための政策 | 東日本大震災、ポスト京都等の様々な難題のもと、持続可能な社会構築のための政策設計は喫緊の課題である。当政策には、単なる経済効率性や環境保全の観点を超えた視点が求められている。以上の問題意識から、本リサーチグループにおいては、環境経済学、都市環境計画、社会基盤計画、交通計画等の立場から、持続可能な社会を実現するための政策について分析を行う。 | 奥島 真一郎 |
| 地理情報の解析と視覚化 | 数理科学、都市計画、地理情報システムの専門家が計算幾何学、まちづくり、データマイニング、最適化などの多様な切り口から地理情報について横断的に情報交換し、研究手法の社会への普及を図る。 | 大澤 義明 |
| 社会における人間の心的内部構造—理論・実験・シミュレーションによる研究 | プレイヤー達がどのようにして経験・記憶から社会構造を理解するかは、ゲーム理論と経済学の基本問題である。この基本問題を理論・実験・シミュレーションなどの様々な観点から研究するのが、本プロジェクトの目的である。 | 秋山 英三 |

| | | |
|----------------------------------|--|---------|
| エレクトロニクス産業の技術経営とビジネスモデル・イノベーション | 半導体産業を念頭に、1). 複雑化した生産システムの統合的オペレーション管理システムの構築・実装・効果の実証を目指す。次に、2). 1)と技術価値評価等を基幹技術として、バリュー・チェーンを革新する戦略的な製品/プロセスとサプライ・チェーンの統合的設計(=ビジネスモデル・イノベーション)の研究へ展開し、事例の蓄積を進める。 | 住田 潮 |
| マネジメント・サイエンス、計量経済学、心理学にわたる共同学際研究 | 社会システム・マネジメント専攻所属の5人の教員によるマネジメント・サイエンス、計量経済学、心理学を統合した共同学際研究。 | 金澤 雄一郎 |
| ミクロ計量経済学的分析手法の開発と応用 | 本研究は、大規模調査から得られた横断面データおよびパネルデータを用いて個人や家計の選好パラメータを推定する新たなミクロ計量経済学的手法の開発と、日本のデータを用いた実証分析を行うことを目的としている。 | 大久保 正勝 |
| 被災地復興と地域減災のための都市リスク評価 | 本都市リスクリサーチグループは、都市に潜む様々なリスクを評価し、実質的な都市防災に資することを目的として活動している。そのために、学術的な調査研究のみならず、自治体・住民・地域の防災活動や防災教育に関する支援も行う。 | 梅本 通孝 |
| ソフトコンピューティング | ソフトコンピューティング(SC)に基づく知的情報処理に関する研究拠点形成を目指している。SCに基づく多目的知的情報処理システムの構築も目標としている。2011年度から3年間のSC研究を中心とする二国間共同研究にも力を入れる。 | イリチュ 美佳 |

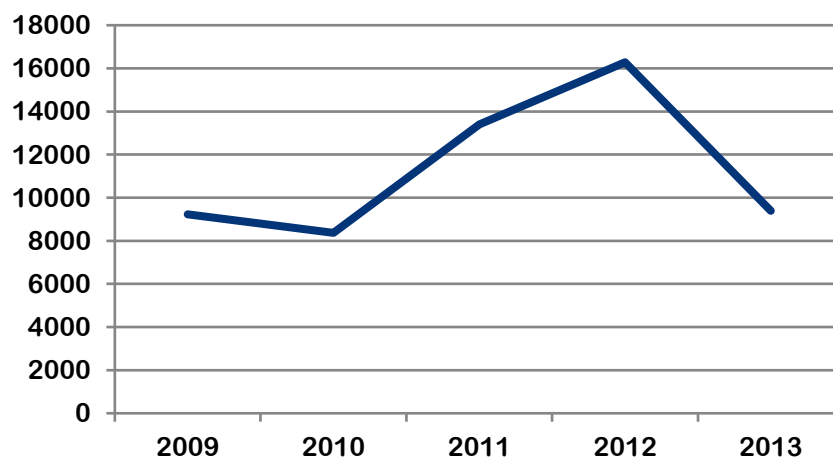
教員過去5年間の論文数



教員過去5年間の著書数



科研費合計額(単位:万円、直接+間接経費、代表者が社工教員)



II. 教員一覽

| 教授 | | |
|------------|---|--|
| 氏名 | 専門分野 | 研究テーマ |
| 秋山 英三 | 進化ゲーム論、力学系、エージェントシミュレーション | 力学系としてのゲームの研究 |
| 浅野 哲 | 計量経済学、ミクロ計量経済学 | ミクロ経済学的分析手法の開発と応用 |
| 有田 智一 | 地域科学、都市計画 | 産業集積、都市・地域政策、都市計画制度 |
| 石田 東生 | 都市交通計画、社会基盤施設計画、交通需要予測 | 公共交通の成立性、自動車保有と世帯交通活動、社会資本整備と合意形成 |
| 糸井川 栄一 | 都市リスク管理 | 都市防災に関する数理化と都市の災害脆弱性評価 |
| 大澤 義明 | 都市計画、地域科学 | 都市計画、社会工学、地域科学 |
| 金澤 雄一郎 | 統計学、データ解析 | 離散選択モデル、共分散構造分析、ノンパラメトリック密度関数・回帰関数推定論、欠損値のある場合の統計解析、生存時間解析 |
| 岸本 一男 | 数理工学 | デジタル幾何、立地問題と合理的選挙、株価変動解析、フラクタルの解析 |
| イリチュ(佐藤)美佳 | 多次元データ解析、統計科学 | 類似度の潜在構造モデルに基づくクラスタリング、ファジィクラスタリング、多相・多元データ理論 |
| 繁野 麻衣子 | 数理計画、組合せ最適化 | 組合せ最適化、ネットワーク最適化のアルゴリズム開発 |
| 鈴木 勉 | 立地分析、計画リスク、リスク管理型都市公共サービス | 立地・輸送におけるリスク分析、都市インフラストラクチャーの維持管理、防災・防犯・救急医療システム評価、都市成長と計画における不確実性 |
| 住田 潮 | 確率過程・応用確率論、情報システム/マルチメディア、ネットワーク、国際経営比較 | 集合値関数の構造解析、情報システムの性能評価、応用確率モデルのビジネス分野への適用 |
| 高木 英明 | 通信ネットワーク、確率モデル、待ち行列理論 | サービス科学、待ち行列理論とその応用、多重サービス高速通信ネットワークの性能評価 |
| 谷口 守 | 都市計画、交通計画、環境計画 | 社会・交通基盤整備に関する研究、都市の環境に関する研究、都市・地域計画制度に関する研究 |
| 張 勇兵 | 分散システム、通信ネットワーク、性能評価 | WDM光通信ネットワークにおけるルーティング方式、移動エージェントによる分散処理システムの構築、移動通信システムにおける周波数資源の最適割り当て方式に関する研究 |
| 堤 盛人 | 不動産、空間統計、地理情報科学 | 不動産価格・資料、空間的自己相関、空間統計学、空間計量経済学、応用都市経済モデル、社会資本ストック推計、プロジェクトファイナンス、建設関連業、無電中化 |
| 中村 豊 | 意思決定理論 | 測定論の基礎、不確実性下の意思決定 |

| | | |
|--------|--------------------------|---|
| 橋本 昭洋 | 国際金融、金融ファイナンス、計量経済 | 社会システム分析、公共部門意思決定、評価・決定方法論、非画一的総合評価 |
| 藤川 昌樹 | 日本建築史・都市史 | 歴史的市街地の保存、前近代東アジアの居住環境史、日本近世都市・住宅の空間構成に関する研究 |
| 藤原 良叔 | 組合せ理論とその応用 | 周波数ホッピング系列、符号と暗号、Galois Field Package の開発、バランスド・アレイの構成法 |
| 繆 瑩 | 組合せ論、離散数学、符号理論、暗号理論、通信方式 | 完全差集合族とそのレーダー配列への応用、デジタル指紋符号の構成法および追跡アルゴリズムの開発、ペイジアンネットワークの遺伝子情報解析への適用、組合せデザイン理論を用いた情報通信・情報セキュリティのためのシーケンス構成問題 |
| 山本 芳嗣 | 数理計画 | 大域最適化、組合せ最適化、アルゴリズムの開発 |
| 吉瀬 章子 | 数理計画、オペレーションズ・リサーチ | 錐計画問題に対するアルゴリズムの開発と応用、相補性問題に対する数値的アルゴリズムの開発、データ解析、サービス科学における最適化モデルの適用 |
| 吉野 邦彦 | リモートセンシング、地域環境工学 | デジタル画像処理による植物群落草冠の立体構造モデル化、生物多様性保全のための環境政策に関する研究、土地被覆・土地利用変化が地域生態系に及ぼす影響に関する研究、植物群集の分光反射特性に関する研究ーリモートセンシングを用いた詳細植生図作成のための基礎的研究、衛星リモートセンシングデータを用いた東南アジアにおける熱帯泥炭湿地林の環境評価、リモートセンシングによる湿原の詳細植生図の作成と景観生態学的分析 |
| 渡辺 俊 | 建築計画、都市計画、設計学 | ポスト定住化社会における時空を超えたアクティビティの流動化実態に関する実証的研究、拡張現実技術を利用した実空間景観シミュレーションシステムの開発、東アジアの伝統的都市の再開発手法に関する研究、地理情報システムに関する研究、建築CADシステムに関する研究 |
| 渡辺 真一郎 | 組織行動論 | 職務満足と生活満足の関係、ワーク・ファミリー間相互作用の比較文化的研究、個人ー仕事環境間のダイナミック相互作用 |

| 准教授 | | |
|--------|--------------------------------|---|
| 氏名 | 専門分野 | 研究テーマ |
| 生稲 史彦 | イノベーションマネジメント、技術マネジメント、製品開発論 | コンテンツ産業及びサービス産業における開発マネジメント、技術経営、イノベーション・マネジメント |
| 石井 健一 | コミュニケーション、情報社会 | キャラクターの消費行動、海外における日本アニメの受容、インターネット、携帯電話など通信メディアの利用、日本メディアの海外における普及と消費行動 |
| 石川 竜一郎 | ゲーム理論、ミクロ経済学 | 社会構造の認識の形成とその変遷、情報社会的価値、家計内在配分に出産が与える影響 |
| 上市 秀雄 | 意思決定論、認知心理学、社会心理学 | 犯罪不安に関する認知・感情プロセスのモデル化とその応用、慢性ストレスがヒトの生理心理状態に与える影響とその対処法、意思決定における後悔の時間的变化と回復方法、進路意思決定における認知・感情課程のモデル化、逸脱行動が生起するプロセスと矯正方法に関する研究、環境ホルモンのリスク認知プロセス |
| 大久保 正勝 | マクロ経済学、計量経済学 | 異時点間の消費決定に関する実証研究 |
| 太田 充 | 地域科学、都市経済学、都市計画 | 通信技術革新と都市空間構造の自己組織化 |
| 岡田 幸彦 | 会計学、サービス工学 | サービス原価企画の理論的・実証的研究、サービス科学教育のための”知の体系”の創造 |
| 岡本 直久 | 交通計画、観光計画 | 道路パフォーマンス指標の開発、コンテナ港湾機能配分に関する研究、観光交通の需要分析 |
| 奥島 真一郎 | 環境経済学、政策分析 | 分解分析手法の開発、モラルモチベーションと環境政策、エネルギー貧困 |
| 木島 陽子 | 経済発展論 | 発展途上国における貧困がいかんして削減されるかを現地調査により収集した家計データを用いて実証分析を行う |
| 倉田 久 | サプライチェーン・マネジメント、オペレーション管理 | サプライチェーン・マネジメントの視点からオペレーションとマーケティングの連携の研究 |
| 高橋 正文 | 派生証券評価、金融リスク管理 | デリバティブ等の確率モデル評価、証券価格変動解析、市場及び信用リスクモデルの評価・管理手法の研究 |
| 高橋 義明 | 幸福度研究、行動経済学(消費者問題)、応用計量経済 | 幸福度概念の各国間比較(インド、タイ、ブータン、フィリピンなどでの現地調査)、制度が個人の意思決定に与える影響(裁判制度など)、地域づくりにおける幸福度指標の意義・課題 |
| 谷口 綾子 | 都市交通計画、態度・行動変容研究、リスク、コミュニケーション | 都市交通計画における態度・行動変容研究、モビリティ・マネジメント、リスクコミュニケーション |

| | | |
|-----------------------|---------------------|---|
| TURNBULL,Stephen John | ゲーム論、情報経済、実験経済 | オープンソース及びフリーソフトウェアのミクロ経済学的分析、コンピュータネットワークの経済学的効果 |
| 永易 淳 | 国際金融、金融ファイナンス、計量経済 | 金融・為替政策の分析、経済・金融危機、金融資産価格変動の分析と予測、投資家の行動分析 |
| 八森 正泰 | 離散数学、組合せ論 | トポロジ的組合せ論におけるトポロジ的手法、組合せ的構造に関する研究 |
| 原田 信行 | 中小企業経済学、計量経済学 | 中小企業の動態および政策に関する理論・実証分析、日本経済・産業の実証分析、計量経済学 |
| 藤井 さやか | 都市計画、まちづくり法制、住環境整備 | 計画的住宅地の持続可能性に関する研究、ICTを活用したまちづくり・地域活性化に関する研究、市民・事業者による多様な都市計画提案を活用した持続可能な空間形成手法に関する研究、住民組織による居住環境管理の実態と支援方策に関する研究 |
| 松原 康介 | 都市保全計画、都市計画史、地中海都市論 | 中東・北アフリカ地域の都市保全 |
| 村上 暁信 | 園芸学、造園学 | ランドスケープ計画、都市と農村の一体的整備手法、緑地の環境保全機能、都市化と環境変化、気候風土と景観 |
| 桃田 朗 | マクロ経済理論、人口経済学 | 人口問題を考慮したマクロ経済理論の構築、およびその応用可能性に関する研究 |
| 渡邊 直樹 | ゲーム理論、ミクロ経済学 | 特許ライセンス、入札、投票、交渉 |

| 講師 | | |
|-------|----------------------------|-------------------------------------|
| 氏名 | 専門分野 | 研究テーマ |
| 有馬 澄佳 | コンピューターデバイス、生産管理、オペレーション管理 | QCDモデルに基づく装置および生産ラインの設計・運用方法 |
| 梅本 通孝 | 都市・地域の低頻度リスク対策 | 住民避難、災害時情報伝達、施設周辺地域の原子力災害対策、災害リスク認知 |
| 近藤 文代 | 時系列解析、統計解析、マーケティングデータ分析 | 日次POSデータの価格反応モデル分析 |

| 助教 | | |
|--------|--------------------------------------|--|
| 氏名 | 専門分野 | 研究テーマ |
| 牛島 光一 | 都市経済学、健康の経済学、教育の経済学 | マイクロデータを用いて子供の人的資本への投資に関する実証研究 |
| 太田 尚孝 | 都市計画、都市計画史、都市再生・地域再生、防災まちづくり、ドイツ都市研究 | 東日本大震災の都市・地域再生、セグリゲーション問題と解決方法、人口減少、需要縮小時代の都市と地域のあり方、日独の計画文化 |
| 甲斐田 直子 | 環境経済・政策学 | 環境保全行動と社会システム分析、国際協力プロジェクト評価 |
| 川村 大伸 | 品質管理、応用統計学 | 製品およびサービスの品質評価、実験計画法、統計的工程管理 |
| 竹原 浩太 | 金融工学、数理ファイナンス、応用確率解析 | 金融工学、数理ファイナンス、金融派生証券(デリバティブ)、ファイナンスにおける解析的/数値的手法、確率解析 |
| 山本 幸子 | 建築計画、地域計画 | 建築ストックの管理・活用手法の検討、地域施設計画、都市・農村交流によるまちづくりに関する研究 |

III. 教員別の教育研究業績

| | | | |
|------------|------------------------------|-----|----|
| 氏 名 | 秋山 英三 | 職 名 | 教授 |
| 専攻（博士後期課程） | 社会システム・マネジメント専攻 専任 | | |
| 専攻（博士前期課程） | 社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻、専任 | | |
| 担当学類 | 社会工学類 専任 | | |
| 研究分野 | 進化ゲーム理論、エージェント・ベースド・シミュレーション | | |

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類

社会工学実習／プログラミング実習／進化ゲーム理論／社会工学における戦略的思考
大学院前期課程／応用ゲーム理論

◆ 指導学生数：

社会工学類 1 名／社会システム工学専攻 4 名／社会システム・マネジメント専攻 3 名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- 基盤研究（C） 集団間の競争とゲームの構造がリーダーシップの進化に与える影響の分析（代表）
- 基盤研究（A） 帰納的ゲーム論：信念・知識の起源と進化、その限定性と行動・意志決定との相互関係（代表者：金子守）

◆ 著書・論文等：

- ・ Akiyama, E., R. Ishikawa, M. Kaneko, and J. J. Kline, ``Inductive game theory: A simulation study of learning a social situation," in Hardy Hanappi (ed.), Game Theory Relaunch, Chapter 3, pp. 55-76, InTech, March 2013.
- ・ 秋山英三, 沼澤政信, 「シミュレーション学からの接近」, 『グローバルな危機の構造と日本の戦略』（吉田和男, 藤本茂 編）, 第 II 部 第 4 章, 230-251, 晃洋書房, (2013), 2013 年 11 月.
- ・ 秋山英三, “少数派ゲーム --- 参加者の能力の分布が社会全体の効率に与える影響,” 「ゲーム理論アプリケーションブック」(中山幹夫, 武藤滋夫, 船木由喜彦 編), 第 10 章, 209-233, 東洋経済新報社, (2013), 2013 年 11 月.
- ・ Yonenoh, H. and Akiyama, E., "Selection of opponents in the Prisoner's dilemma in dynamic networks: An experimental approach", Journal of Theoretical Biology, forthcoming.

◆ 学会発表等：

- ・ Eizo Akiyama, "Emergence of Social Hierarchy in Evolving Population of Interacting Agents", 11th RISS International Conference - Understanding Complex Society from Agent-Based Simulation, The Research Institute for Socionetwork Strategies, Kansai University, Osaka, Japan, February 27, 2014.

◆ その他：

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

- ・ 全学 社工専門教育用技術審査委員会
- ・ 全学 全学入試実施委員会 委員
- ・ シス情系研究倫理委員会 専門委員会
- ・ 社会工学関連 三専攻 改組検討委員会 委員
- ・ 社会工学関連 三専攻 施設委員会 委員

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

- ・ 社会工学類 入試実施委員会 委員長
- ・ 社会工学類 施設委員会 委員

4. 学外の社会貢献

◆ 学会

- International Workshop on Game Theory, Epistemic Logic, & Related Topics (August 27-30 2013, Tsukuba), Program Committee Member
- ネットワークが創発する知能研究会 2012 プログラム委員, 2012 年 8 月 29 日（水） - 8 月 31 日（金）, 立正大学.
- JAWS2012 (Joint Agent Workshops and Symposium 2012) プログラム委員, 2012 年 10 月 24 日（水） - 26 日（金）, ヤマハリゾートつま恋

| | | | |
|------------|--|-----|----|
| 氏 名 | 浅野 哲 | 職 名 | 教授 |
| 専攻（博士後期課程） | 社会システム・マネジメント専攻 専任 | | |
| 専攻（博士前期課程） | 社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻、専任 人文社会科学研究科経済学専攻 兼担 | | |
| 担当学類 | 社会工学類 専任、社会学類 兼担 | | |
| 研究分野 | 計量経済学 | | |

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
大学院 計量経済学／社会経済の課題と方法／ファイナンス：理論と実践
社会工学類 計量経済学
- ◆ 指導学生数：
博士後期 社会システム・マネジメント 1名／博士前期 社会システム工学1名/ 経営・政策科学 1名／社会工学類 3名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
「家計規模の経済の推定」全国消費者実態調査報告個票データから消費者需要システムを推定し、家計人員数、家計属性が家計の消費行動に与える影響を計量経済モデルにより分析する。
- ◆ 著書・論文等：
- ◆ 学会発表等：
Estimating Economy of Scale in Household Consumption:
A Microeconomic Analysis of Japanese Household Data
Jiayi Wu（呉 佳一）との共著
日本経済学会 富山大学 2013 年 6 月 22 日
- ◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
専攻運営委員会、就職委員会

4. 学外の社会貢献

- ◆ 日本経済学会運営委員（2012 年から）

| | | | |
|------------|------------------------|-----|----|
| 氏 名 | 有田 智一 | 職 名 | 教授 |
| 専攻（博士後期課程） | 社会システム・マネジメント専攻 専任 | | |
| 専攻（博士前期課程） | 社会システム工学専攻、経営政策科学専攻 専任 | | |
| 担当学類 | 社会工学類 専任 | | |
| 研究分野 | 産業集積、都市・地域政策、都市計画制度 | | |

1. 教育

◆ 担当授業科目：

社会工学類：社会工学実習、都市と地域の経営行政論、都市計画マスタープラン策定実習、現代まちづくりの理論と実践、東京の都市学、都市構造論、都市・地域・環境を巡るⅡ（全学）、建築関連法規（世話人教員）

社会システム工学専攻：国際交流ワークショップⅠ、国際交流ワークショップⅡ

経営政策科学専攻：行政と政策決定、都市地域経営とまちづくり、都市開発プロジェクトマネジメント、住宅・建築・まちづくりに関する今日的課題と対策（世話人教員）

◆ 指導学生数：

社会工学類 2 名 社会システム工学専攻 5 名、社会システム・マネジメント専攻 1 名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費補助金基盤研究 B「都市プランナーの職能・専門性の変容と再構築に関する国際比較研究」（研究代表者）

科学研究費補助金基盤研究 A「老朽化する都市インフラの選択集中整備に関する理論・実証研究」（研究分担者）

民間都市開発推進機構都市再生研究助成「東日本大震災後の沿岸観光地における津波被災リスク軽減策と観光業再生のあり方に関する研究—茨城県大洗町を事例に一」（研究分担者）

◆ 著書・論文等：

1)北崎朋希、有田智一(2013)「全国における都市再生特別地区の指定手続きの実態と課題 - 都市計画素案作成に関する協議プロセスに着目して-」都市計画論文集、pp. 639-644.（査読付き）

2)岩倉圭介、有田智一、藤井さやか(2013)「葬儀場の立地調整における条例等の役割に関

する研究 -用途地域制の補完機能に着目して-」都市計画論文集、pp. 645-650. (査読付き)

3)小田真太郎、有田智一、藤井さやか(2013)「土地分有方式を活用した市街地再開発事業に関する研究 -住工混在地区の事例を対象として-」都市計画論文集、pp. 291-296. (査読付き)

4)吉川重和、有田智一、藤井さやか(2013)「郊外戸建住宅地における高齢期の住み替えの課題と民間事業者による促進策の可能性に関する研究 -多摩田園都市を対象として-」都市計画論文集、pp. 963-968. (査読付き)

5)松浦きらら、藤井さやか、有田智一(2013)「児童の遊び場としての UR 団地屋外空間の設計指針と利用実態に関する研究」都市計画論文集、pp. 285-290. (査読付き)

6)有田智一. (2013)「企業城下町の空き家問題：地域社会の構造転換の文脈から：特集 空き家問題にどう向き合うか」、都市問題、104(4):2013.、pp.90-97.

7)有田智一 (2013)「アメリカの土地利用規制における裁量審査手続きの事例」、日本建築学会編(2013)『成熟社会における開発・建築規制のあり方：協議調整型ルール of 提案』,pp167-184. 技報堂出版株式会社

8)有田智一 (2013)「用途が主たる調整対象となる協議調整型ルール」、日本建築学会編(2013)『成熟社会における開発・建築規制のあり方：協議調整型ルール of 提案』,pp213-225. 技報堂出版株式会社

◆ 学会発表等：

(学会発表)

小田真太郎、有田智一、藤井さやか(2013)「土地分有方式を活用した市街地再開発事業に関する研究 -住工混在地区の事例を対象として-」日本都市計画学会第 48 回学術研究論文発表会、平成 25 年 11 月 9 日、法政大学

(その他)

講演会講師：栃木県市町村土地利用計画研修会講師：平成 25 年 11 月 5 日 (火)、栃木県庁

平成 25 年度防災・日本再生シンポジウム「東日本大震災からの教訓 -若い力とともに地域の絆を高める-」(県北(北茨城)震災復興シンポジウム) パネルディスカッション・コーディネーター、2013 年 12 月 1 日 (日) 13:30~16:30 北茨城市市民ふれあいセンターホール

講演会講師：第 2 回「茨城県の将来像セミナー」講師：平成 26 年 1 月 23 日 (木)、茨城県庁

Special Lecture: Tomokazu Arita, Hisako Koura, Masami Kobayashi, “Tohoku Tsunami: Recovery Planning Issues, and the challenges of Japanese Urban Planning and Design Issues in the 21st Century,” March 11th 2014, at Room 225, Department of Urban and Regional Planning, University of Illinois, Urbana-Champaign.

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
産学リエゾン共同研究センター運営委員会委員
全学アドミッションセンター（AC 入試）専門委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
大学院 3 専攻合同入試実施委員会委員
社会工学類カリキュラム委員
社会工学類 2 年生クラス担任
社会工学類学生担当委員
学園都市アーカイブ TF 座長

4. 学外の社会貢献

- 東京都住宅政策審議会委員
- 東京都建築審査会委員
- 東京都江戸川区都市計画審議会委員
- 埼玉県八潮市まちづくり・景観推進会議委員
- 千葉県松戸市建築審査会委員
- 茨城県土浦市行財政改革推進委員会委員長
- 茨城県土浦市都市計画マスタープラン策定委員会委員長
- 茨城県土浦市中心市街地活性化基本計画策定委員会委員
- 茨城県日立市住生活基本計画策定委員会委員長
- 日本建築学会法制委員会委員
- 日本建築学会用途規制再構築検討小委員会主査
- 都市住宅学会関東支部常議員
- 都市住宅学会学術委員会委員
- 都市住宅学会学会賞委員会委員
- 財団法人再開発コーディネーター協会試験講習委員会委員

| 氏 名 | 有馬 澄佳 | 職 名 | 講師 |
|------------|-------------------------------|-----|----|
| 専攻（博士後期課程） | 社会システム・マネジメント専攻 専任 | | |
| 専攻（博士前期課程） | 社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任 | | |
| 担当学類 | 社会工学類 専任 | | |
| 研究分野 | 生産システム工学、技術経営とビジネスモデル・イノベーション | | |

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類： 生産・品質管理／経営工学基礎演習／マネジメント実習／経営の科学 III
／問題発見と解決、大学院： オペレーション管理

◆ 指導学生数： 13名

社会工学類 6名 / 社会システム工学専攻 4名/ 経営・政策科学専攻 3名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- ・ 科研費補助金 若手（B）（研究代表者：有馬澄佳，H25～26年度（2年），416万円）「共創ビジョンに基づく半導体産業のビジネスモデル進化と、知財・人材の組織的流動化」
- ・ 科学技術振興機構（JST） 復興支援プログラム（A-STEP シーズ顕在化タイプ）（研究代表者：有馬澄佳、企業代表者：売賀賢介，H24年10月1日～H25年9月30日（1年），800万円）
- ・ 産学連携推進プロジェクト（知財活用）（H25年4月～H26年3月，80万円）

◆ 著書・論文等：

査読付学術雑誌掲載論文

- ・ Kobayashi, T. Kuno, S. Arima, "Re-entrant Flow Control in Q-time Constraints Processes for Actual Applications," Proceedings of IEEE International Symposium on Semiconductor Manufacturing 2013, TR1 (pp.1-4), IEEE, Sep. 2013.
- ・ N. Toyoshima, W. Ke, T. Hasegawa, S. Arima, " Proactive Control of Engineering Operations and Lot Loadings of Product-mix and Re-entrant in Q-time Constraints Processes," Proceedings of IEEE International Symposium on Semiconductor Manufacturing 2013, TR6 (pp.1-4), IEEE, Sep. 2013.

◆ 学会発表等：

- ・ Kobayashi, T. Kuno, S. Arima, "Re-entrant Flow Control in Q-time Constraints

- Processes for Actual Applications,” Joint Symposium of e-Manufacturing and Design Collaboration 2013 and International Symposium on Semiconductor Manufacturing 2013, Sep. 6th, 2013. (於: The Ambassador Hotel HsinChu, Taiwan).
- ・ N. Toyoshima, W. Ke, T. Hasegawa, S. Arima, ” Proactive Control of Engineering Operations and Lot Loadings of Product-mix and Re-entrant in Q-time Constraints Processes,” Joint Symposium of e-Manufacturing and Design Collaboration 2013 and International Symposium on Semiconductor Manufacturing 2013, Sep. 6th, 2013. (於: The Ambassador Hotel HsinChu, Taiwan).
 - ・ 代工琢磨, 有馬澄佳「環境配慮製品の継続発展型購買モデルの構築と検証」, 日本経営工学会春季大会, 2013 年 5 月 18 日～19 日. 於: 慶応大学日吉キャンパス(以下同様)
 - ・ 瀧上圭太, 有馬澄佳「日米欧の研究開発コンソーシアムの比較分析に基づく日本のエレクトロニクス産業への提言」, 日本経営工学会春季大会, 2013 年 5 月 18 日～19 日.
 - ・ 門馬祐輔, 有馬澄佳「東日本大震災時の支援物資物流問題を対象とした 4 M I (*) 因果分析と今後に向けた支援方式の提案」, 日本経営工学会春季大会, 2013 年 5 月 18 日～19 日.

◆ その他:

2013/04-2016/03 産学連携推進プロジェクト (アントレプレナーシップ・知財教育)

「社会起業家精神に基づく日本版技術経営=ビジネスモデル・イノベーションの教育体系の構築～21 世紀: 知識社会において」(有馬澄佳)

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献:
全学学生相談室員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献(委員会等):
大学院新入生オリエンテーション委員, 学類広報委員, 学生相談室員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 日本経営工学会 春季大会 セッション・チェア 1 件
- ◆ JEITA DFM 小委員会 客員
- ◆ 講演会・パネリスト等(企業向け): 有馬澄佳 「日本の半導体事業の事例分析と提案」, 「研究開発コンソーシアムの国際比較」, リソグラフィー戦略会議 2013, DNP 創発の杜(箱根研修センター), 2013/04/27-/28.
- ◆ ほか、地域振興事業等に対するアドバイスなど.

| | | | |
|------------|----------------------------|-----|-----|
| 氏 名 | 生稲 史彦 | 職 名 | 准教授 |
| 専攻（博士後期課程） | 社会システム・マネジメント専攻 専任 | | |
| 専攻（博士前期課程） | 社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任 | | |
| 担当学類 | 社会工学類 専任 | | |
| 研究分野 | 開発マネジメント、技術経営（MOT）、イノベーション | | |

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 経営学、マネジメント実習

大学院 経営戦略、マーケティング、ビジネス戦略—理論と実践

◆ 指導学生数：

学類 6名／大学院 2名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費補助金（若手研究(B)）「アジア圏におけるデジタルコンテンツ市場の成立可能性(課題番号：23730363)」(研究代表者)

グローバルビジネスリサーチセンター オンライン・ソフトウェア研究会幹事

グローバルビジネスリサーチセンター コンテンツビジネス研究会幹事

グローバルビジネスリサーチセンター コンテンツ産業研究会幹事

◆ 著書・論文等：

- ・ Fujita, H., and Ikuine, F. (2013). Free and open source are not necessary conditions of successful development: The case of "Hidemaru Mail". *Annals of Business Administrative Science*, 12, 151-166. doi: 10.7880/abas.12.151
- ・ Ikuine, F., and Fujita, H. (2013). Endless development is the best quality assurance: The case of "Hidemaru - Mail", *Annals of Business Administrative Science*, 12, 251-263. doi: 10.7880/abas.12.251
- ・ Fujita, H., and Ikuine, F. (2013). Open Source, a Phenomenon of Generation Changes in Software Development: The Case of Denshin 8 go. *Annals of Business Administrative Science*, 13, 1-15. doi: 10.7880/abas.13.1
- ・ 河島伸子, 生稲史彦編著(2013)『変貌するコンテンツ産業—創造性と多様性の模索』ミネルヴァ書房.
- ・ Wada, T., Ichikoji, T., and Ikuine, F. (2014). Platform paradox. *Annals of Business Administrative Science*, 13, 91-103. doi: 10.7880/abas.13.91

◆ 学会発表等：

- ・ Wada, T., Ichikoji, T., and Ikuine, F. (2013). *Strategic cluster formation triggered by establishment of a global platform and horizontal coordination in a cluster: A case of videogame industry cluster in Fukuoka city*. ABAS Conference 2013 Winter, 14th February 2013, GBRC, Tokyo.
- ・ Ikuine, F., and Fujita, H. (2013). *The precept from open source movement: The danger of buried source code in the case of "Denshin 8 go"*. ABAS Conference 2013 Spring, 17th May 2013, GBRC Tokyo.
- ・ 生稲史彦(2013)「開発生産性のディレンマ」組織学会研究発表大会, 2013 年 6 月 16 日. 専修大学.
- ・ Ikuine, F. (2013). *The product development productivity dilemma: The case of the home video game*. Paper accepted for presentation at the 2013 Academy of Management Annual Meeting, August 9-13, Orland, USA.
- ・ 一小路武安, 和田剛明, 生稲史彦(2013)「革新的イノベーションを実現するマネジメントの探求—ソーシャルゲームの事例に基づく考察」一橋大学イノベーション研究センター『IIR サマースクール 2013』, 2013 年 8 月 27 日.

◆ その他：

組織学会高宮賞著書部門, 2013 年 6 月 15 日.

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

改組コア会議オブザーバー

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

社会システム情報研究科 修士論文委員

社会工学類 FD 委員

4. 学外の社会貢献

◆ 非常勤講師

東京大学 経済学部 非常勤講師（情報経営論）

文京学院大学 経営学部 非常勤講師（コンテンツ・情報産業史）

| | | | |
|------------|-------------------------|-----|-----|
| 氏 名 | 石井 健一 | 職 名 | 准教授 |
| 専攻（博士後期課程） | 社会システム・マネジメント専攻 専任 | | |
| 専攻（博士前期課程） | 社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任 | | |
| 担当学類 | 社会工学類 専任、比較文化学類 兼任 | | |
| 研究分野 | 消費者行動・メディア利用 | | |

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類 社会調査・実習／文化行動論
 - 大学院 社会・市場調査論
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類 6人／社会システム工学専攻 5人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 科学研究費(B) 日中の相互国家イメージと「国家ブランディング」の可能性（研究代表者）
 - KDDI 財団「SNS 利用の比較文化的研究」（研究代表者）
- ◆ 著書・論文等：
 - ・ Facebook 利用者の日米台比較一個人情報の開示とネットワークの同質性を中心に— 情報通信学会誌 31(4) pp. 37-48 審査付
 - ・ 「モバイルは他のメディアとどう違うのか」松田美佐・土橋臣吾・辻泉編 『ケータイの2000年代』東京大学出版会 担当 pp. 43-64
 - ・ Nationalism and preferences for domestic and foreign animation programmes in China. International Communication Gazette 75(2) pp. 225-245 審査付
 - ・ 「韓国における外国イメージ調査」第一次報告書 Department of Social Systems and Management Discussion Paper Series 1304 （石井健一；小針進；渡邊聡）
 - ・ 「台湾における外国イメージ調査」第一次報告書 Department of Social Systems and Management Discussion Paper Series 1305
- ◆ 学会発表等：
- ◆ その他：

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
学類広報委員

4. 学外の社会貢献

◆ 情報通信学会研究企画委員

◆ Mobile Media & Communication (Sage Publications) editorial board member.

| | | | |
|------------|-------------------------|-----|-----|
| 氏 名 | 石川 竜一郎 | 職 名 | 准教授 |
| 専攻（博士後期課程） | 社会システム・マネジメント専攻 専任 | | |
| 専攻（博士前期課程） | 社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任 | | |
| 担当学類 | 社会工学類 専任 | | |
| 研究分野 | ゲーム理論、実験経済学、資産価格理論 | | |

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類：ゲーム論、微積分 1、経済学入門 II

大学院：ミクロエコノミクス

◆ 指導学生数：

学類：2 名／社会システム工学専攻：2 名 社会システム・マネジメント専攻：2 名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- ・ 若手研究 (B)：意思決定における高次認識の役割：帰納的アプローチ、研究代表者
- ・ 基盤研究 (A)：帰納的ゲーム理論：信念・知識の起源と進化、その限定性と意思決定・行動との相互関連、研究分担者
- ・ 挑戦的萌芽研究：公共施設配置における住民投票の意義 - 投票制度は経済効率をどの程度悪化させるのか、研究分担者
- ・ 公益財団法人稲盛財団研究助成金：時価会計制度がもたらす金融危機波及に関する研究、研究代表者
- ・ 日本証券財団：資産価格バブルの発生メカニズムの実験経済学による分析、研究分担者.
- ・ 二国間交流事業共同研究（日仏）フランス国立科学研究センター（CNRS）：状況認識と行動学習の相互作用に関する 2 国間比較、研究分担者.
- ・ 二国間交流事業共同研究（日仏）フランス国立研究機構（ANR）：エージェントシミュレーション研究に関する認識論的基礎付け、研究分担者.
- ・ シンガポール経営大学経済学部 Short-term Research Collaboration Program、研究分担者.
- ・ 大阪産業大学共同研究プロジェクト、研究分担者.

◆ 著書・論文等：

著書：

1. 船木由喜彦・石川竜一郎 共編著「制度と認識の経済学」NTT 出版.

査読付学術雑誌掲載論文：

1. Yoichiro Fujii and Ryuichiro Ishikawa, (2013) “Revision of beliefs with perceived experiences,” *Annual Research Bulletin of Osaka Sangyo University*, No. 5 (March): 45-70.
2. Tomoki Fujii and Ryuichiro Ishikawa, (2013) “Arrow-Fisher-Hanemann-Henry and Dixit-Pindyck option values under strategic interactions,” *Strategic Behavior and the Environment*, Vol. 3(3), 169-183.
3. Tomoki Fujii and Ryuichiro Ishikawa, (2013) “How does childbirth alter intrahousehold resource allocation? Evidence from Japan,” *Oxford Bulletin of Economics and Statistics*, Vol. 75(3), 362-387.
4. Eizo Akiyama, Ryuichiro Ishikawa, Mamoru Kaneko, and Jeffery Jude Kline, (2013) “Inductive game theory: A simulation study of learning a social situation,” in Hardy Hanappi (ed.) *Game Theory Relaunched*, Chapter 3, pp. 55-76, InTech.
5. Tomoki Fujii and Ryuichiro Ishikawa, (2013) “A note on separability and intra-household resource allocation in a collective household model,” *Review of Economics of the Household*, Vol. 11(1), 143-149.

◆ 学会発表等：

- ・ 13th Society for the Advancement of Economic Theory (SAET) conference, Paris, France, 2013 年 7 月.
- ・ Asian Meeting of the Econometric Society 2013, Singapore, 2013 年 8 月.
- ・ Third International Workshop of Mathematics and Management, Shanghai, 11 月 2 日.
- ・ 公益社団法人 計測制御自動学会 第 19 回創発シンポジウム 創発夏の学校 2013 チュートリアル講演「市場を創る：制度設計の心得」（招待講演）

◆ その他：

特になし

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

特になし

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

大学院；

- ・ カリキュラム委員会
- ・ 社会工学関連 3 専攻改組検討委員会

学類：

- ・ 数学プレースメント委員長

4. 学外社会貢献

- ・ 2nd International Workshop on Game Theory, Epistemic Logic, & Related Topics、運営委員.
- ・ 14th SAET (Society for the Advancement of Economic Theory) Conference、運営委員.
- ・ 高大連携活動：茨城県立竜ヶ崎第一高等学校，出張講義，2013 年 6 月

| | | | |
|------------|------------------|-----|----|
| 氏 名 | 石田 東生 | 職 名 | 教授 |
| 専攻（博士後期課程） | 社会システム・マネジメント 専任 | | |
| 専攻（博士前期課程） | 社会システム工学 専任 | | |
| 担当学類 | 国際総合学類 専任 | | |
| 研究分野 | 交通計画・国土計画・都市計画 | | |

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 社会基盤と国土/都市計画事例講義および実習/社会システム工学特別研究

大学院 社会資本ストック管理政策/社会システム工学特別演習 II/社会システム工学特別演習 I/社会システム・マネジメント特別演習 I /経営・政策科学特別研究/特定課題研究/経営・政策科学特別演習 II/社会システム・マネジメント特別演習 II /経営・政策科学特別演習 I/社会システム・マネジメント特別研究/プロジェクト評価演習/

◆ 指導学生数：

社会工学類 2人／社会システム工学専攻 4人／社会システム・マネジメント専攻 1人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

◆ 著書・論文等：

・社会資本施設の老朽化と点検・維持・更新：一般社団法人日本建設機械施工協会誌：建設機械施工 Vol.65 No.10 October 2013, 3頁

・国土幹線道路部会中間答申をどう読み解くか：一般財団法人 運輸調査局：運輸と経済 第73巻 第9号8 2013年9月

◆ 学会発表等：

・福田大輔，洪子涵，石田東生，岡本直久：都市高速道路における交通状態推定問題ならびにセンサー配置問題の対するデータ同化アプローチ，土木計画学研究発表会・講演集，Vol.48，CD-ROM 講演番号：176，2013年11月

・西濱大貴，岡本直久，石田東生，谷口綾子：カーシェア・つくばの利用経験に伴う行動変化に関する分析，土木計画学研究発表会・講演集，Vol.48，CD-ROM 講演番号：27，2013年11月

・一丸結夢，石田東生，岡本直久：重要インフラ上の横断構造物の維持管理に関する研究，土木計画学研究発表会・講演集，Vol.48，CD-ROM 講演番号：92，2013年11月

- ◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 - ・つくばエコシティ推進グループ委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - ・博士論文委員会 委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ シーニックバイウェイ北海道推進協議会：シーニックバイウェイ北海道のルート審査委員会（国土交通省北海道開発局） 委員
- ◆ 国土交通省道路局：道路占用の対価の在り方に係る専門部会 委員
- ◆ 国土交通省道路局 国道・防災課：新道路技術会議 委員
- ◆ 国土交通省 政策統括官：第5回全国幹線旅客準流動調査委員会 委員
- ◆ 国土交通省国土技術政策総合研究所：国土交通省国土技術政策総合研究所評価委員会 委員
- ◆ 財団法人 国土技術研究センター：平成23年度（第13回）研究開発助成審査委員会 委員
- ◆ 財団法人道路空間高度化機構：道路空間高度化研究会 委員長
- ◆ 一般財団法人計量計画研究所：道路交通センサスに関する懇親会 委員長

他

| 氏 名 | 糸井川 栄一 | 職 名 | 教授 |
|------------|---|-----|----|
| 専攻（博士後期課程） | リスク工学専攻 専任 社会システム・マネジメント専攻 兼担 | | |
| 専攻（博士前期課程） | リスク工学専攻 専任 社会システム工学専攻 兼担 経営・政策科学専攻 兼担 | | |
| 担当学類 | 専 社会工学類 | 兼 | なし |
| 研究分野 | 都市災害リスク管理、地域安全計画 | | |

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 微積分 II／都市計画実習／都市防災計画／都市構造論／都市計画事例講義および演習

大学院前期課程 都市リスク管理特論／都市リスク分析演習

◆ 指導学生数：

社会工学類 2人／リスク工学専攻前期課程 9人／リスク工学専攻後期課程 2人／

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

(1) 奨学寄付金：一般財団法人 民間都市開発推進機構，東日本大震災後の沿岸観光地における津波被災リスク軽減策と観光業再生のあり方に関する研究—茨城県大洗町を事例に—（代表）

(2) 受託研究：神栖市，地域のマンパワーの活用による地震・津波リスク低減に関する研究（代表）

◆ 著書・論文等：

(1) 陳雅ウン・糸井川栄一・梅本通孝(2013)：「学校防災教育の地域への効果波及に関する研究」，都市計画論文集，Vol. 148，No. 1，pp. 39-49

(2) 伊能沙知・梅本通孝・糸井川栄一・太田尚孝(2013)：「津波ハザードマップの理解と避難行動意図に関する研究—茨城県神栖市を対象として—」，地域安全学会論文集，地域安全学会，No. 21，pp. 229-239

(3) 吉田太一・梅本通孝・糸井川栄一・太田尚孝(2013)：「海水浴客の津波避難行動特性に関する研究—大洗サンビーチ海水浴場を対象として—」，地域安全学会論文集，地域安全学会，No. 21，pp. 149-158

(4) 幸晋之介・糸井川 栄一・梅本通孝(2014)：「大規模建築物の自衛消防活動におけるヒューマンエラーの要因分析」，日本建築学会環境系論文集，第 79 巻，第 695 号，pp. 1-10

- (5) 糸井川栄一編(2013)：「リスク工学シリーズ9 都市のリスクとマネジメント」，コロナ社
- ◆ 学会発表等：※国内外学会発表などの実績
 - (1) 糸井川栄一・中野慎吾・梅本通孝・太田尚孝(2013)：「津波浸水想定と住民の行動意向を考慮した避難リスク評価ー茨城県神栖市を対象としてー」，地域安全学会東日本大震災特別論文集，地域安全学会，No. 2，pp. 33-36
 - ◆ その他： ※受賞、特許等などの実績
なし

3. 学内運営

- ◆ 系や全学組織等の業務への貢献：
 - システム情報系研究者倫理検討委員会／システム情報系技術職員委員会
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - 社会工学類 施設委員会
 - リスク工学専攻 GP 達成度評価実施委員会委員長／GP アクション委員会委員／大塚キャンパス対策委員会委員／施設委員会委員長／インターンシップ担当

4. 学外の社会貢献

- ◆ 学会活動（役員/委員、論文査読等）、学外から委嘱された委員、兼業など.
 - (1) 地域安全学会 理事／副会長／査読
 - (2) 日本建築学会 防火本委員会 委員／広域避難小委員会主査／査読
 - (3) 日本都市計画学会 査読
 - (4) 国土交通省 「建築防火基準委員会」 委員(2011～)
 - (5) 独立行政法人建築研究所 客員研究員（2008～）
 - (6) 損害保険料率算出機構 「地震火災の延焼危険評価手法の高度化」 委員会委員(2011～)
 - (7) 東京消防庁 「第21期火災予防審議会」 委員（2013～）
 - (8) 茨城県 「茨城県地域防災計画改定委員会」 委員(2011～)
 - (9) 神栖市 「神栖市 PFI 事業審査委員会」 委員(2013～)
 - (10) 神栖市 津波避難訓練講師（2013）
 - (11) 鹿嶋市 「鹿嶋市学校防災教育推進委員会」 委員長(2012～)
 - (11) 公益財団法人 東京防災救急協会 調査研究専門委員（2004～）
 - (12) 株式会社 三菱総合研究所 「地震火災による人的被害発生機構の解明に関する調査研究委託」 検討会委員長(2013)
 - (13) 株式会社 マス都市建築研究所 「密集市街地の協調的建て替えルール策定ガイドラインに関する意見聴取会」 委員（2013）
 - (14) 株式会社 イオタ 「地域防災学習交流会：災害時要援護者への対策」 講師(2013)

| | | | |
|------------|-------------------------|-----|-----|
| 氏 名 | 上市 秀雄 | 職 名 | 准教授 |
| 専攻（博士後期課程） | 社会システム・マネジメント専攻 専任 | | |
| 専攻（博士前期課程） | 社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任 | | |
| 担当学類 | 社会工学類 専任 | | |
| 研究分野 | 意思決定論、認知心理学、社会心理学 | | |

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 経済行動論／社会経済システム情報実習／社会工学における戦略的思考：理論、実験、および演習／戦略行動システム演習

大学院 消費者心理分析

◆ 指導学生数：

社会工学類 2名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

1. 科学研究費補助金基盤研究（A）「患者の満足とスタッフの適正労働を実現する地域基幹病院の医療サービス科学」（研究分担者）
2. 科学研究費補助金基盤研究（C）「慢性ストレスがヒトの生理心理状態に与える影響とその対処法」（研究分担者）

◆ 著書・論文等：

1. 上市秀雄・楠見孝（2013）. リスク認知（16章）矢守克也・前川あさ美（編著）「災害・危機と人間—発達科学ハンドブック7」新曜社，pp.165-172.

◆ 学会発表等：

1. Ukai, T., Hori, M., Hoshimoto, H., Ueichi, H., Kurata, H., & Okada, Y. (2013). Simulation of Outpatient Flow at the University of Tsukuba Hospital. The Decision Science Institute 2013 Annual Meeting (Baltimore, USA), 37.
2. 上市秀雄・三浦広大・岡田幸彦（2013）. 逆紹介された患者の転院受諾に感情・認知要因が及ぼす影響. 日本心理学会第77回大会発表論文集，164.
3. 織田弥生・上市秀雄・菊地賢一（2013）. メーキャップとスキンケアに関する意識の男女比較. 日本心理学会第77回大会発表論文集，158.
4. 今井葉子・角谷拓・上市秀雄・高村典子（2013）. 生態系サービスの認知が保全の行動意図におよぼす影響：社会心理学からのアプローチ. 日本生態学会第60回全国大会，323.

◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
大学院予算委員，学類就職委員，学類3年クラス担任，経営政策科学専攻クラス担任

4. 学外の社会貢献

- ◆ 高大連携
福島県立磐城桜が丘高等学校 出張講義
- ◆ 学術論文査読
心理学研究
社会心理学研究
リスク研究学会誌

| | | | |
|------------|-----------------------------|-----|----|
| 氏 名 | 牛島 光一 | 職 名 | 助教 |
| 専攻（博士後期課程） | 社会システム・マネジメント専攻 専任 | | |
| 専攻（博士前期課程） | 社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任 | | |
| 担当学類 | 社会工学類 専任 | | |
| 研究分野 | 応用計量経済学、都市経済学、教育の経済学、健康の経済学 | | |

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類：統計学Ⅱ/都市と環境の経済学/地域科学演習
大学院：地域データ分析
- ◆ 指導学生数：
社会工学類 1名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
科学研究費 研究スタート支援「医療政策・教育政策による人的資本蓄積のミクロ計量分析」（代表）
- ◆ 著書・論文等：
書評：「柿崎一郎『鉄道と道路の政治経済学 タイの交通政策と商品流通 1935～1975年』（京都大学学術出版会 2009年）」、『応用地域学研究』掲載予定。
- ◆ 学会発表等：
・「子供の健康の評価と母親の教育水準の関係」、第8回「実証的なモラル・サイエンス」研究集会、於 筑波大学、2014年3月8日。
・「子供の健康の評価と母親の教育水準の関係」、The 1st International Conference on Global Aging Tsukuba, University of Tsukuba、2014年1月24日。
- ◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
特になし
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
・修士論文委員会（都市計画分野）

4. 学外の社会貢献

特になし

| 氏 名 | 梅本 通孝 | 職 名 | 講師 |
|------------|---------------------------------------|-----|----|
| 専攻（博士後期課程） | リスク工学専攻 専任 社会システム・マネジメント専攻 兼担 | | |
| 専攻（博士前期課程） | リスク工学専攻 専任 社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任 | | |
| 担当学類 | 社会工学類 | | |
| 研究分野 | 都市地域の低頻度リスク対策 | | |

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：社会工学実習／東京の都市学／都市防災計画／都市計画事例講義および実習／地域科学演習
- ◆ 指導学生数：
社会工学類 1人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：

神栖市まちづくり推進事業「地域のマンパワーの活用による地震・津波リスク低減に関する研究」（共同研究者）

一般財団法人都市開発推進機構 都市再生研究助成「東日本大震災後の沿岸観光地における津波被災リスク軽減策と観光業再生のあり方に関する研究－茨城県大洗町を事例に」（共同研究者）
- ◆ 著書・論文等：

梅本通孝：住宅用火災警報器の設置要因に関する構造分析－茨城県下4市の住民調査に基づいて－，日本建築学会計画系論文集，Vol.79, No.699, pp.1089-1097, 2014.（登載決定・印刷中）

幸晋之介，糸井川栄一，梅本通孝：大規模建築物の自衛消防活動におけるヒューマンエラーの要因分析，日本建築学会環境系論文集，Vol.79, No.695, 2014, pp.1-10, 2014.

吉田太一，梅本通孝，糸井川栄一，太田尚孝：海水浴客の津波避難行動特性に関する研究－大洗サンビーチ海水浴場を対象として－，地域安全学会論文集，No.21, pp.149-158, 2013.

伊能沙知，梅本通孝，糸井川栄一，太田尚孝：津波ハザードマップの理解と避難行動意向に関する研究－茨城県神栖市を対象として－，地域安全学会論文集，No.21, pp.229-239, 2013.学会発表等：

UMEMOTO Michitaka: A State and Issues of Continuous Habitation in a Tremendous Liquefaction Area by the 2011 Tohoku Earthquake: Based on Questionnaire in Hinode District, Itako City, Proceedings of International Symposium on City Planning 2013,

<http://www.cpij.or.jp/com/iac/sympo/13/ISCP2013-83.pdf>, Sendai, Japan, August 23, 2013.

梅本通孝：原子力災害時の避難，糸井川栄一編，都市のリスクとマネジメント，コロナ社，pp.139-158, 2013.

土方孝将，糸井川栄一，梅本通孝，太田尚孝，雨宮護，島田貴仁：住宅侵入盗被害傾向と被害宅未施錠傾向に関する研究：茨城県下の市街地を対象として，環境心理学研究，環境心理学会，2014.（収録決定）

◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
全学 学生生活支援室 室員
研究科 研究科倫理委員会 委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
リスク工学専攻 GP 実施委員会
リスク工学専攻 広報委員会 委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 学会活動
日本自然災害学会編集委員会 委員
日本建築学会防火委員会広域避難小委員会 委員
地域安全学会論文集 査読者
日本建築学会論文集 査読者
- ◆ 学外から委嘱された委員
茨城県稲敷市都市計画審議会 会長
茨城県稲敷市市街地液状化対策事業計画策定検討委員会 委員
東京消防庁火災予防審議会調査研究委員会 委員
茨城県北茨城市立関南小学校 防災アドバイザー
- ◆ 講演等
平成 25 年度神栖市津波避難訓練講演会，神栖市，2014. 3. 23
平成 25 年度東京都地域防災学習交流会 F コース，町田市藤の台防災会，2014. 3. 9
平成 25 年度東京都地域防災学習交流会 F コース，八王子市日吉町一丁目町会，2014. 3. 1
神栖市立軽野東小学校防災講演会，神栖市，2014. 2. 20

平成 25 年度東京都地域防災学習交流会 F コース，練馬区田柄第 2 防災会，2014. 2. 11

平成 25 年度東京都地域防災学習交流会 F コース，八王子市諏訪連合町会自主防災会，2014. 2. 9

平成 25 年度東京都地域防災学習交流会 F コース，中野区新中野町会，2014. 2. 7

平成 25 年度東京都地域防災学習交流会 F コース，日野市三沢台自治会，2014. 1. 25

平成 25 年度東京都地域防災学習交流会 F コース，昭島市福島連合町会，2014. 1. 25

平成 25 年度東京都地域防災学習交流会 F コース，町田市小野路町内会，2013. 1. 11

北茨城市立関南小学校避難訓練防災教室，北茨城市，2013. 10. 9

平成 25 年度東京都地域防災学習交流会 F コース，羽村市栄町第一町内会，2013. 9. 6

平成 25 年度東京都地域防災学習交流会 F コース，八王子市廿里町自主防災会，2013. 9. 1

平成 25 年度東京都地域防災学習交流会 F コース，西東京市レーベンハイム東伏見壺番館防災研究会，2013. 8. 25

平成 25 年度東京都地域防災学習交流会 F コース，多摩市エステート聖ヶ岡 3 団地管理組合，2013. 8. 4

平成 25 年度東京都地域防災学習交流会 F コース，昭島市郷地東町連合自治会，2013. 7. 24

平成 25 年度東京都地域防災学習交流会 F コース，世田谷区喜多見北部町会，2013. 7. 19

神栖市立柳川小学校防災講演会，神栖市，2013

| | | | |
|------------|-------------------------|-----|-----|
| 氏 名 | 大久保 正勝 | 職 名 | 准教授 |
| 専攻（博士後期課程） | 社会システム・マネジメント専攻 専任 | | |
| 専攻（博士前期課程） | 社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任 | | |
| 担当学類 | 社会工学類 専任 | | |
| 研究分野 | マクロ経済学、計量経済学 | | |

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類 マクロ経済学、マクロ計量分析、情報リテラシー演習
大学院 マクロ経済学
- ◆ 指導学生数：
社会工学類 2人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
科学研究費 若手研究 (B)「選好の異質性と消費保険のマイクロデータ分析」(研究代表者)
システム情報工学研究科 リサーチグループ (学域)「マイクロ計量経済学的分析手法の開発と応用」(研究代表者)
- ◆ 著書・論文等：
Earnings Dynamics and Profile Heterogeneity: Estimates from Japanese Panel Data.
Japanese Economic Review, forthcoming.
- ◆ 学会発表等：
- ◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
全学委員会：外国語センター学類代表
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
修士論文・特定課題研究委員会 委員

4. 学外の社会貢献

◆

| 氏 名 | 大澤 義明 | 職 名 | 教授 |
|------------|--------------------------------------|-----|----|
| 専攻（博士後期課程） | 社会システム・マネジメント専攻 専任 | | |
| 専攻（博士前期課程） | 社会システム工学専攻，経営・政策科学専攻 専任 環境科学専攻 兼任 | | |
| 担当学類 | 社会工学類 専任 | | |
| 研究分野 | 社会工学、都市計画、地域科学 | | |

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 微積分 I／都市解析／都市構造論／都市計画マスタープラン策定実習／都市計画事例講義および実習／つくばの景観を考える／都市・地域・環境を探索 I, II, III
大学院 都市地域解析学

◆ 指導学生数：

社会工学類 2人／社会システム工学専攻 5人／環境科学専攻 3人／社会システム・マネジメント専攻 3人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- [1]老朽化する都市インフラの選択集中整備に関する理論・実証研究．基盤研究A．
- [2]公共施設配置における住民投票の意義—投票制度は経済効率をどの程度悪化させるのか—．挑戦的萌芽研究．
- [3]筑波大学東日本大震災復興・再生支援プログラム，若い世代のための被災地出張講義プロジェクト．

◆ 著書・論文等：

- [1]小林隆史，南博，大澤義明（2013）：東日本大震災被災地茨城県の将来人口推計—人口減・高齢化の加速—．日本計画行政学会，36(3)，pp. 45-51．
- [2]南博，古藤博，小林隆史，大澤義明（2013）：制度的・地理的隔絶要素に着目した地域間親密度の可視化—関門地域を事例として—．日本計画行政学会，26(3)，pp. 49-57．
- [3]高森賢司，小林隆史，大澤義明（2013）：庁舎建設候補地の比較分析—全体合理性と個別合理性との齟齬に着目して—．都市計画論文集，48，pp. 915-920．

◆ 学会発表等：

- [1]関口悠行，小林隆史，大澤義明（2013）：大学進学の地元志向に関する時空間分析．ホッパレーションズ・リサーチ学会 2013 年秋季研究発表会，pp. 72-73．
- [2]盆子原歩，小林隆史，大澤義明（2013）：自治体規模からみた給油所過疎地に関する研究．ホッパレーションズ・リサーチ学会 2013 年秋季研究発表会，pp. 200-201．

[3]松枝千尋，大澤義明（2014）：施設立地の合意形成に関する解析的研究 - シャープレイ指数による考察. オペレーションズ・リサーチ学会 2014 年春季研究発表会, pp. 214-215.

[4]濱津桃子，大澤義明，小林隆史（2014）：地方分権と地域間税率競争. オペレーションズ・リサーチ学会 2014 年春季研究発表会, pp. 242-243.

◆ その他：

[1]高齢社会をよくする女性の会第 32 回全国大会 in 茨城「次世代につなげるシニアの元気！第一分科会 高齢社会の安心・安全まちづくり」（水戸：茨城県立県民文化センター，2013 年 7 月 13 日）

[2]市民活動の現状と課題（日立市中小路交流センター，2013 年 11 月 9 日）

[3] Service Engineering in Japan（グルノーブル経営学校パリ校，2014 年 3 月 13 日）

[4]平成 25 年度巨大地震プロジェクト報告会「被災地の人口減・高齢化の加速―茨城県を対象として―」（2014 年 3 月 27 日，つくば：筑波大学）

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

教育社会連携推進室長

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

社会システム・マネジメント専攻長，社会工学域長

4. 学外社会貢献

◆ 学会活動

[1] 応用地域学研究・編集長（応用地域学会）

[2] 日本都市計画学会・会長アドバイザー

◆ 自治体

[1] 茨城県リサイクル製品認定審査会・会長（茨城県）

[2] 土浦市中心市街地活性化基本計画策定委員会・委員長（土浦市）

[3] 土浦市かわまちづくり計画策定委員会・委員長（土浦市）

[4] 土浦市公共事業再評価委員会・委員長（土浦市）

[5] 石岡駅橋上化推進検討委員会・会長（石岡市）

[6] 石岡市都市計画審議会・副会長（石岡市）

[7] 石岡市景観調査委員（石岡市）

[8] つくば市ホテル等建設審議会・会長（つくば市）

[9] つくば市建築審査会・会長（つくば市）

[10] 水戸市景観調査委員（水戸市）

[11] 高萩市グリーンタウンてつな粗造成地利活用計画策定検討委員会・委員長（高萩市）

[12] 神栖市庁舎の整備に関する市民懇談会・コーディネイター（神栖市）

[13] 茨城県立土浦第一高等学校・評議員（茨城県教育委員会）

[14] 学校法人茗溪学園・評議員（学校法人茗溪学園）

◆ 出張講義

[1] つくば秀英高等学校（2013 年 5 月 18 日）

| | | | |
|------------|-------------------------|-----|----|
| 氏 名 | 太田 尚孝 | 職 名 | 助教 |
| 専攻（博士後期課程） | 社会システム・マネジメント専攻 専任 | | |
| 専攻（博士前期課程） | 社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任 | | |
| 担当学類 | 社会工学類 専任 | | |
| 研究分野 | 都市計画、まちづくり | | |

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類（社会工学類） 都市防災計画

大学院（リスク工学専攻） 都市リスク分析演習／都市構造システム論／リスクマネジメント序論／リスク工学グループ演習

◆ 指導学生数：

社会工学類 3人／ リスク工学専攻 3人

（※都市防災研究室における 2013 年度の卒論生・修論生として）

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

【研究代表者】

- 1) 2013 年 8 月～2015 年 3 月：一般財団法人計量計画研究所 IBS フェローシップ 「ドイツの地方都市における縮退・都市再生（リノベーション）の取り組み」

【研究分担者】

- 2) 2013 年 8 月～2014 年 3 月：茨城県神栖市政策企画課 神栖市まちづくり推進事業 「地域のマンパワーの活用による地震・津波リスク低減に関する研究」（研究代表者：糸井川栄一）
- 3) 2013 年 10 月～2015 年 3 月：一般財団法人民間都市開発推進機構 都市再生研究助成 「東日本大震災後の沿岸観光地における津波被災リスク軽減策と観光業再生のあり方に関する研究—茨城県大洗町を事例に」（研究代表者：糸井川栄一）

◆ 著書・論文等：

- 1) 太田尚孝・エルファディングズザンネ・大村謙二郎（2014a）「ドイツのコーポラティブハウス（Baugemeinschaft）を用いた都市再生の実態と課題に関する研究—ハンブルグ市を事例に—」都市住宅学, No. 84, 109-114 【査読付き】
- 2) 糸井川栄一・梅本通孝・太田尚孝・檜山貴史・韓海燕（2014b）『地域のマンパワーの活用による地震・津波リスク低減に関する研究 報告書』【調査報告書】

- 3) 伊能沙知・梅本通孝・糸井川栄一・太田尚孝 (2013a)「津波ハザードマップの理解と避難行動意向に関する研究―茨城県神栖市を対象として―」地域安全学会論文集, No. 21, 229-239【査読付き】
- 4) 吉田太一・梅本通孝・糸井川栄一・太田尚孝 (2013b)「海水浴客の津波避難行動特性に関する研究―大洗サンビーチ海水浴場を対象として―」地域安全学会論文集, No. 21, 149-158【査読付き】

◆ 学会発表等：

◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会工学類広報委員会

4. 学外の社会貢献

- ◆ 2013年8月8日～8月10日：高大連携事業への参加「いわき・筑波大学高大連携プロジェクト」
- ◆ 2013年8月31日：筑波大学駅前キャンパス講演「ドイツの国際建築展（IBA）から考えるつくばのこれからの都市づくり」
- ◆ 2013年10月6日/2013年12月1日/2013年12月22日：震災復興シンポジウムのコーディネート（鹿行（鹿嶋）震災復興シンポジウム・県北（北茨城）震災復興シンポジウム・いわき市まちづくり復興シンポジウム）
- ◆ 2014年3月28日：春の大学説明会での模擬講義「震災復興・巨大地震対策にも役立つ社会工学！」

| | | | |
|------------|-------------------------|-----|-----|
| 氏 名 | 太田 充 | 職 名 | 准教授 |
| 専攻（博士後期課程） | 社会システム・マネジメント専攻 専任 | | |
| 専攻（博士前期課程） | 社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任 | | |
| 担当学類 | 社会工学類 専任 | | |
| 研究分野 | 都市経済学、都市計画 | | |

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 都市経済学／地域科学演習／プログラミング実習／都市構造論／社会工学における戦略的思考：理論、実験、および演習／

大学院 地域科学

◆ 指導学生数：

社会工学類 2人／社会システム工学専攻 2人／ 社会システム・マネジメント 2人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

無し

◆ 著書・論文等：

無し

◆ 学会発表等：

Equilibrium Land Use in a Multicentric City, 北米地域科学学会年次大会(アトランタ)、2013/11/14.

Effecency Range of the Agglomeration and Equilibrium Land Use in the Metropolitan Areas, 応用地域学会 (ARSC) 第 27 回研究発表大会(京都大学)、2013/12/15.

◆ その他：

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

無し

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

3 専攻合同予算委員会

4. 学外の社会貢献

◆ 都市住宅学会総務企画委員会委員

| | | | |
|------------|-------------------------|-----|-----|
| 氏 名 | 岡田 幸彦 | 職 名 | 准教授 |
| 専攻（博士後期課程） | 社会システム・マネジメント専攻 専任 | | |
| 専攻（博士前期課程） | 社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任 | | |
| 担当学類 | 社会工学類 専任 | | |
| 研究分野 | 会計学、サービス工学 | | |

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 会計学概論／マネジメント実習／サービスの産業と組織
大学院 財務会計／管理会計／ビジネス戦略：理論と実践

◆ 指導学生数：

学類 社会工学類 2 人
大学院 社会システム工学専攻 8 人／経営・政策科学専攻 7 人／社会システム・マネジメント専攻 0 人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- ・筑波大学リサーチユニット「サービス組織の経営学」 研究代表者。
- ・科研費（基盤 A）「患者の満足とスタッフの適正労働を実現する地域基幹病院の医療サービス科学」（2011～2013 年度、総額 4,914 万円） 研究分担者。
- ・科研費（基盤 A）「サービスコンテンツの作り込みとその経済的効果の測定・評価に関する学際的研究」（2011～2013 年度、総額 4,290 万円） 研究分担者。

◆ 著書・論文等：

- ・中村博之（編著）・高橋賢（編著）・望月信幸・堺昌彦・君島美葵子・諸藤裕美・小川哲彦・金藤正直・木村麻子・岡田幸彦（2013）『管理会計の変革—情報ニーズの拡張による理論と実務の発展』中央経済社。
- ・岡田幸彦・島拓也・中村亮介（2013）「包括利益情報の価値関連法則の探求—表示初年度の経験から—」『産業経理』第 73 巻第 2 号、160-173 頁。
- ・岡田幸彦（2013）「企業のサービス科学」『エストレーラ』No. 231。（招待論壇）

◆ 学会発表等：

- ・Y. Okada, R. Nakamura, and S. Otaka, How do we measure the performance of a Point Alliance Program?, サービス学会第 1 回国内大会。

- ・尻無濱芳崇・岡田幸彦、原価計算・原価管理と業績は本当に関係するのか？—サービス企業への継続調査による追試、日本原価計算研究学会全国大会。
- ・荒井耕・尻無濱芳崇・岡田幸彦、医療法人における管理会計による財務業績改善に関する検証、日本会計研究学会全国大会。
- ・Ukai, T., M. Hori, H. Hoshimoto, H. Ueichi, H. Kurata, and Y. Okada, Simulation of Outpatient Flow at the University of Tsukuba Hospital、The Decision Science Institute 2013 Annual Meeting。
- ・上市秀雄・三浦広大・岡田幸彦、逆紹介された患者の転院受諾に感情・認知要因が及ぼす影響、日本心理学会全国大会。
- ・岡田幸彦、管理会計研究によるサービス開発からの教訓、日本管理会計学会統一論題。（招待講演）

◆ その他：

2013 年度メルコ学術振興財団出版助成（日本会計研究学会スタディ・グループとして）

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 - システム情報工学研究科広報委員会 委員
 - 筑波大学附属病院病床管理 IT 化検討委員会 委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - 社会工学ルネサンス検討委員会 委員
 - 大学院専攻広報・新入生オリエンテーション委員会 委員長
 - 学類広報委員会 委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 統計数理研究所 客員准教授
- ◆ 筑波大学公開講座サービスカイゼン研修コース 講師
- ◆ 産業経理協会原価会計講座 講師

| | | | |
|------------|---------------------------|-----|-----|
| 氏 名 | 岡本 直久 | 職 名 | 准教授 |
| 専攻（博士後期課程） | 社会システム・マネジメント専攻 専任 | | |
| 専攻（博士前期課程） | 社会システム工学専攻、経営政策科学専攻 専任 | | |
| 担当学類 | 社会工学類 専任 | | |
| 研究分野 | 交通、観光、社会資本、プロジェクト評価、港湾・物流 | | |

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類 交通運輸政策／都市計画マスタープラン策定実習／情報リテラシー・演習／都市構造論／東京の都市学／サービスの産業と組織／社会基盤と国土
 - 大学院 交通計画論／プロジェクト評価演習
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類 3人／社会システム工学専攻 2人／社会システム・マネジメント専攻 2人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - ・ 交通関連ビッグデータの社会への実装研究小委員会委員(土木学会)
- ◆ 著書・論文等：
 - ・ 栗原剛、荒谷太郎、岡本直久：地方ブロック別にみた日本人と外国人の観光消費特性に関する基礎的研究，交通学研究，第57号，137頁～144頁，2014年3月
- ◆ 学会発表等：
 - ・ 西濱大貴，岡本直久，石田東生，谷口綾子：カーシェア・つくばの利用経験に伴う行動変化に関する分析，土木計画学研究発表会・講演集，Vol. 48，CD-ROM 講演番号：27，2013年11月
 - ・ 一丸結夢，石田東生，岡本直久：重要インフラ上の横断構造物の維持管理に関する研究，土木計画学研究発表会・講演集，Vol. 48，CD-ROM 講演番号：92，2013年11月
 - ・ 福田大輔，洪子涵，石田東生，岡本直久：都市高速道路における交通状態推定問題ならびにセンサー配置問題に対するデータ同化アプローチ，土木計画学研究発表会・講演集，Vol. 48，CD-ROM 講演番号：176，2013年11月
- ◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 - システム情報工学研究科 企画室員

つくばエコシティ推進グループ委員

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会システム・マネジメント専攻 カリキュラム委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 茨城県公共事業再評価委員会委員：茨城県：委員
- ◆ 京浜港物流高度化推進協議会 委員：財団法人 港湾空間高度化環境研究センター：委員
- ◆ 土浦市公共交通活性化協議会会長：土浦市：会長
- ◆ 取手市都市計画審議会委員：取手市：委員
- ◆ 茨城県移動性・安全性向上委員会委員長：国土交通省関東地方整備局 常陸河川国道事務所：委員長
- ◆ Eastern Asia Society for Transportation Studies：事務局幹事
- ◆ 日本交通学会：編集委員

| | | | |
|------------|-------------------------|-----|-----|
| 氏 名 | 奥島 真一郎 | 職 名 | 准教授 |
| 専攻（博士後期課程） | 社会システム・マネジメント専攻 専任 | | |
| 専攻（博士前期課程） | 社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任 | | |
| 担当学類 | 国際総合学類 専任、社会工学類 兼任 | | |
| 研究分野 | 環境経済学、政策分析 | | |

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 環境政策論（国際総合学類開講社会工学類共通）/環境科学とリスクマネジメント（国際総合学類開講社会工学類共通）/国際社会の持続可能な発展Ⅱ（国際総合学類）/国際学ゼミナールⅠ（国際総合学類）/独立論文（国際総合学類）/国際学ゼミナールⅡ（国際総合学類）/卒業論文（国際総合学類）/都市計画実習（社会工学類開講国際総合学類共通）

大学院 環境政策（社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻共通）

◆ 指導学生数：

国際総合学類 8人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費補助金（若手研究（B））「モラルモチベーションと環境政策」（代表）

受託研究（国立環境研究所）「日本におけるエネルギー貧困の要因分析とエネルギー貧困世帯に配慮したエネルギー・環境政策の定量評価」（代表）

◆ 著書・論文等：

「「理論モデル」・「政策分析」・「政策科学者」 ～政策分析における倫理～」『CCES Discussion Paper Series No. 53』、一橋大学現代経済システム研究センター（CCES）、2013年10月.

“Energy Poverty in Japan: How Does the Energy Price Escalation Affect Low Income and Vulnerable Households?”（共著）Proceedings of the 32nd Annual North American Conference of the International Association for Energy Economics, July 2013.

◆ 学会発表等：

「日本におけるエネルギー貧困問題の可能性」（共同発表）環境経済・政策学会 2013年大会（於：神戸大学）、2013年9月22日.

“Energy Poverty in Japan: How Does the Energy Price Escalation Affect Low Income and Vulnerable Households?”（共同発表）The 32nd Annual North American Conference of the International Association for Energy Economics, Hotel Captain Cook, Anchorage, July 30, 2013.

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
全学キャリア支援室員
社会・国際学群運営委員

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
大学院カリキュラム委員
国際総合学類就職委員（委員長）
国際総合学類運営委員
国際総合学類カリキュラム委員
国際総合学類シス情 TA 担当委員

4. 学外の社会貢献

- 一橋大学経済研究所非常勤研究員
- 一橋大学現代経済システム研究センター主催「第3回サマースクール」講師

| 氏 名 | 甲斐田 直子 | 職 名 | 助教 |
|------------|--------------------------------------|-----|----|
| 専攻（博士後期課程） | 社会システム・マネジメント専攻 専任 持続環境学専攻 兼担 | | |
| 専攻（博士前期課程） | 環境科学専攻 専任 社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任 | | |
| 担当学類 | 社会工学類 専任 | | |
| 研究分野 | 環境経済・政策学、国際環境協力評価論 | | |

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 都市環境評価論／環境科学とリスクマネジメント／Introduction to Urban and Regional Planning／社会調査実習／都市計画実習／都市・地域・環境を探る
大学院 都市環境の課題と方法／Introduction to Environmental Policy／環境科学概論／国際インターンシップ

◆ 指導学生数：

社会工学類 1 名／環境科学専攻 3 名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

特別研究促進費「近年成長が著しい国における学術政策、大学政策、学校教育を通じた人材育成政策に関する調査研究」（連携研究者）

◆ 著書・論文等：

- ・ Kaida, N. and Dang, N. A. (2014). Economic Valuation of the Nha Trang Bay Marine Protected Area: A Willingness to Pay Survey on the Conservation Programs. Journal of Environmental Information Science, 42(5), pp.33-40.

◆ 学会発表等：

- ・ Dang, N.A., & Kaida, N. (2013). Economic Valuation of the Nha Trang Bay Marine Protected Area (MPA): A willingness-to-pay survey. JASID 14th Spring Conference, June 8, 2013, Utsunomiya University.
- ・ 甲斐田直子 (2013) アジア地域ガバナンスにおける環境援助の役割, 環境経済・政策学会 2013 年大会, 神戸大学, 2013 年 9 月.
- ・ Kaida, N. (2013). Socio-economic issues surrounding algae as biofuel: Commercial viability, institutional considerations, and social awareness. UTM-UT Research

Symposium: Algae and Water Treatment Systems, December 17, 2013, Universiti Teknologi Malaysia.

- ・ Kaida, N. (2013). Pro-environmental behavior, happiness, and perceived future happiness among the elderly: An exploratory analysis on Swedish and Japanese survey data. The 1st International Conference on Global Aging Tsukuba, January 24, 2014, the University of Tsukuba.

◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
国際交流協定締結（生命環境系・マレーシア工科大学部局間協定、ガジャマダ大学全学協定）
生命環境系・マレーシア工科大学との学生交流（学生受入れ）
生命環境系・ガジャマダ大学との学生交流（学生派遣・受入れ）
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会工学類：障害学生支援委員会、教育図書委員会、クラス担任（2年生）
社会システム・マネジメント専攻：広報委員会
環境科学・持続環境学専攻：SUSTEP 英語教育プログラム委員会、JDS 委員会

4. 学外の社会貢献

- ◆ 茨城県鹿嶋市学校防災推進委員会委員
- ◆ 茨城県鹿嶋市立平井小学校学校地域防災力強化委員会
- ◆ 岡山県立岡山城東高校 持続可能な開発のための教育（ESD）講演（2014年2月）

| | | | |
|------------|--|-----|----|
| 氏 名 | 金澤 雄一郎 | 職 名 | 教授 |
| 専攻（博士後期課程） | 社会システム・マネジメント専攻 専任 | | |
| 専攻（博士前期課程） | 社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任 | | |
| 担当学類 | 社会工学類 専任 | | |
| 研究分野 | 統計科学（ノンパラメトリック回帰関数・密度関数推定論、欠損値の解析）・ 経済学（産業組織論・需要解析）・経営科学（組織行動論・マーケティング）・ 計量犯罪学 | | |

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類：データ解析・Introduction to Management Science

大学院：データ解析・統計モデルとその理論的基礎・測度論的確率論

◆ 指導学生数：

社会工学類 2 人／社会システム工学専攻 3 人/社会システム・マネジメント専攻 2 人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

以下の 3 つの科学研究費補助金その他に基づき研究活動を行った。

ベイズ理論を用いた MS-AIDS モデルの推定法・モデル選択法の提案とその応用

日本学術振興会科学研究費補助金挑戦的萌芽研究 No.25590051（研究代表者）

看護行動研究への組織心理学的アプローチ

日本学術振興会科学研究費補助金(B) No.23330120（研究分担者）

女子受刑者の刑務所内の反則行為に対する個人及び環境要因の相互作用に関する研究

日本学術振興会科学研究費補助金(C) No.23530898（研究分担者）

◆ 著書・論文等：

1. “Variance-Stabilizing Multivariate Nonparametric Regression Estimation.”
Communications in Statistics – Theory and Method, DOI: 10.1080/03610926.2013.775298,
Published online: December 17, 2013.

2. “Estimating the Markov-Switching Almost Ideal Demand Systems: A Bayesian
Approach.” Empirical Economics, DOI 10.1007/s00181-013-0777-3. Published online:

December 11, 2013.

3. “Variable Selection in a Bayesian Linear Regression Model via Generalized Bayesian Information Criterion,” Discussion Paper Series No. 1316. Division of Policy and Planning Sciences, Faculty of Engineering, Information and Systems, University of Tsukuba,

◆ 学会発表等：

1. “Estimating the Markov-switching almost ideal demand systems: maximum likelihood or a Bayesian estimation?” 京都大学数理解析研究所 RIMS 共同研究会 “Asymptotic Statistics and Its Related Topics,” 3 月 3 日 (月) ~5 日 (水), 京都大学数理解析研究所

2. “Estimating the Markov-switching almost ideal demand systems: a Bayesian approach,” Bayes250, EFaB@Bayes250 and O-Bayes 13, December 15-19, 2013, David L Thomas Center, Duke University, Durham, North Carolina.

3. “On the Effect of Psychological Treatments on Japanese Female Prisoners’ Rule-breaking Behaviors,” American Society of Criminology Annual Meeting, November 20-23, 2013, Atlanta Marriott Marquis, Atlanta, Georgia.

4. “The effect of students’ future image on high school dropouts in US,” Association for Psychological Science 25th Convention, May 23-26, Washington Marriott Wardman Park, Washington, D.C.,

◆ その他：

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

(システム情報系)

システム情報系戦略室委員

システム情報系国際化推進委員会委員

(全学組織)

コモンズジェネラル運営委員会委員

グローバルコモンズ教育部門会議委員
国際戦略室会議委員

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

修士論文・特定課題研究委員会委員
就職委員会委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 1. 独立行政法人日本学術振興会
 - 1-1 アジア研究教育拠点事業事後評価委員
 - 1-2 特別研究員等審査会専門委員
 - 1-3 国際事業委員会書面審査員
- ◆ 2. JABEE（日本技術者教育認定機構）認定工学（融合複合・新領域）分野審査員、
- ◆ Referee Communications in Statistics,
- ◆ Reviewer: Mathematical Reviews

| | | | |
|------------|-------------------------|-----|----|
| 氏 名 | 川村 大伸 | 職 名 | 助教 |
| 専攻（博士後期課程） | 社会システム・マネジメント専攻 専任 | | |
| 専攻（博士前期課程） | 社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任 | | |
| 担当学類 | 社会工学類 専任 | | |
| 研究分野 | 経営工学、品質管理、応用統計学 | | |

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - （学類）社会工学実習，プログラミング実習
 - （大学院）品質管理
- ◆ 指導学生数：
 - （社会工学類）1名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - [1]科学研究費 基盤研究（C）「ヘルスケアにおける統計的データ解析に基づいたケアプラン作成支援」（分担）
 - [2]科学研究費 若手研究（B）「半導体製造工程における統計的工程管理」（代表）
- ◆ 著書・論文等：
 - [1]Suzuki, T., Tsutsumi, Y. and Kawamura, H. (2013): “Viewpoints to characterize precision evaluation methods in binary measurements”, Measurement, Vol.46, 3710-3714.
 - [2]Kawamura, H., Nishina, K., Higashide, M. and Suzuki, T. (2013): “Application of Q Charts for Short-Run Autocorrelated Data”, International Journal of Innovative Computing, Information and Control, Vol.9, No.9, 3667-3676.
 - [3]Ryosuke Ikeda, Hironobu Kawamura, Natsuki Sano, Akira Kotani, Yuzuru Hayashi, and Tomomichi Suzuki (2013): “The Relationship Between Academic Achievement and Experimental Ability”, Proceedings of Asian Network for Quality Congress 2013, CD-ROM.
 - [4]Shuhei Ohta, Hironobu Kawamura, Natsuki Sano, Hitoshi Yokoyama, Haruo Ando, and Tomomichi Suzuki (2013): “Grasping Urban Heat Island Using Geographical Temperature Distribution for the Whole Year”, Proceedings of Asian Network for Quality Congress 2013, CD-ROM.
 - [5]川村大伸 (2013): “日本品質管理学会第 144 回シンポジウム「統計・データの質マネ

ジメント-ビッグデータ時代に問われる情報収集の質とマネジメント-」(ルポルタージュ)”,「品質」, 43, [3], 343-345.

[6]川村大伸 (2013): “製造工程で本当に使える管理図”,「品質」, 43, [3], 337-339.

◆ 学会発表等:

[1]川村大伸, 仁科健, 東出政信 (2013): “多品種少量生産用の管理図”, 第 5 回横幹連合コンファレンス, 60-61.

[2]宮地優斗, 川村大伸 (2013): “過飽和計画における変数選択法の性能評価”, 日本品質管理学会第 103 回研究発表会発表要旨集, 29-32.

◆ その他:

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献:

◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等):

[1] (学類) カリキュラム委員会 議事録担当

[2] (学類) 経営工学主専攻会議 議事録担当

[3] (専攻) 学生相談室 (身障者対応) 委員

4. 学外の社会貢献

◆ 日本品質管理学会 論文誌編集委員会 委員

◆ 日本品質管理学会 国際委員会 委員

◆ 日本経営工学会 生産・物流部門役員会 幹事

◆ ISO/TC69/SC4 国内委員会 委員

◆ (財)日本規格協会 通信講座による品質管理中級コース教材作成委員会 委員

◆ (財)海外産業人材育成協会 セミナー講師

◆ 東京理科大学 非常勤講師

◆ 論文査読

英文誌:

International Journal of Production Research

Journal of Japan Industrial Management Association

査読付国際会議録:

Proceedings of the 11th ANQ Congress

| | | | |
|------------|-------------------------|-----|-----|
| 氏 名 | 木島 陽子 | 職 名 | 准教授 |
| 専攻（博士後期課程） | 社会システム・マネジメント専攻 専任 | | |
| 専攻（博士前期課程） | 社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任 | | |
| 担当学類 | 社会工学類 専任 | | |
| 研究分野 | 開発経済学 | | |

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 国際開発論／経済学入門 III／経済政策分析／社会工学実習

大学院前期課程 国際開発論

◆ 指導学生数：

社会工学類 4人／社会システム工学専攻 1人／経営政策科学専攻 2人

社会システム・マネジメント専攻 0人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 基盤 A（海外学術調査）「サブサハラアフリカのコメ生産拡大に関する実証研究」（分担）

科学研究費 基盤 A「市場制度の発達に関する比較経済発展史的研究：アフリカの米を例にして」（分担）

◆ 著書・論文等：

Yoko Kijima and Dick Sserunkuuma (2013) “The Adoption of NERICA Rice Varieties at the Initial Stage of the Diffusion Process in Uganda” African Journal of Agricultural and Resource Economics 8(1): 45-56

Yoko Kijima and Horacio Gonzalez (2013) “Does Observance of Religious Holidays Affect Agricultural Productivity and Household Welfare? Evidence from Rural Ethiopia” Journal of Development Studies 49 (9): 1188-1201.

Yoko Kijima, Keiji Otsuka, and Koichi Futakuchi (2013) “The Development of Agricultural Markets in Sub-Saharan Africa: The Case of Rice in Uganda” African

Journal of Agricultural and Resource Economics 8(4): 253-64.

◆ 学会発表等： なし

◆ その他：なし

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
全学FD 実行委員会委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
学類：授業評価・FD 委員会委員長
SSM：FD 委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 出張講義（日立北高校）

| | | | |
|------------|-------------------------|-----|----|
| 氏 名 | 岸本 一男 | 職 名 | 教授 |
| 専攻（博士後期課程） | 社会システム・マネジメント専攻 専任 | | |
| 専攻（博士前期課程） | 社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任 | | |
| 担当学類 | 社会工学類 専任 | | |
| 研究分野 | 数理工学 | | |

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
数理解析／微積分Ⅰ／経営の科学Ⅰ／教職実践演習／金融デリバティブ
- ◆ 指導学生数：
社会システム工学専攻 4 名／社会工学類 1 名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
金融マーケットのマイクロストラクチャに関する研究，空間的投票理論に関する研究を行った．国勢調査（昭和 5 年）のデジタル化を完成した
科学研究費 基盤（C）「原理政党」存在下での空間的投票理論とその実証（代表）
科学研究費 基盤（B）戦後日本の政治変動と参議院選挙：市町村別データに基づく実証的研究（分担）
- ◆ 著書・論文等：
査読付き論文：A quantitative model for intraday stock price changes based on order flows, Journal of Systems Science and Complexity, Vol. 27, pp. 208-224.
査読無し論文：1 編
応用数理ハンドブック（薩摩・大石・杉原編）朝倉，2013，空間的投票理論の項の執筆
- ◆ 学会発表等：
日本応用数理学会口頭発表 2 件，国際研究集会「計量・数理政治学のフロンティア」口頭発表 1 件
- ◆ その他：
査読 4 件，経営・財務研究学会討論者 1 件

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
システム情報工学研究科入試実施委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
経営・政策科学専攻入試実施委員長，社会工学類卒業論文梗概集編集委員長

4. 学外社会貢献

- ◆ 日本応用数理学会
日本応用数理学会選挙管理委員長, JSIAM Letters 編集幹事, 日本応用数理学会数理政治研究部会幹事, 電子情報通信学会査読委員
- ◆ 東京大学社会科学研究所諮問委員

| | | | |
|------------|---------------------------------|-----|-----|
| 氏 名 | 倉田 久 | 職 名 | 准教授 |
| 専攻（博士後期課程） | 社会システム・マネジメント専攻 専任 | | |
| 専攻（博士前期課程） | 社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任 | | |
| 担当学類 | 社会工学類 専任 | | |
| 研究分野 | サプライチェーン・マネジメント、オペレーションズ・マネジメント | | |

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類科目：経営工学概論／経営情報システム／サービスの産業と組織
大学院科目：サプライチェーン・マネジメント
- ◆ 指導学生数：学類4年生4名／経営・政策科学専攻2年生5名／社会システム工学専攻0名／社会システムマネジメント専攻0名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
主たる Research interest である製販連携のモデル化の研究に従事し、学会発表、及び学術報告を行った。また公開講座での経験と情報に基づいて社会人工学教育に関する発表にも従事した。同時に、研究分担者として科学研究費補助金 基盤研究 (A)・23241047（研究代表者：高木英明教授）に参加
- ◆ 著書・論文等：
論文（査読付き）
Hisashi Kurata and Seong-Hyun Nam, (2013), “After-sales Service Competition in a Supply Chain: Does Uncertainty Affect the Conflict between Profit Maximization and Customer Satisfaction? “, International Journal of Production Economics, Vol. 144, (1), 268-280.
- ◆ 学会発表等：
Kurata, Hisashi, “Inventory pooling including customers’ response to a retail policy: A modeling approach” Presented at the DSI 44th annual meeting in Baltimore, MD on November 17, 2013.

Takamori Ukai, Masaki Hori, Hiroyuki Hoshimoto, Hideo Ueichi, Hisashi Kurata, and Yukihiro Okada, “Simulation of outpatient flow at the University of Tsukuba

Hospital” Presented with (University of Tsukuba) at the DSI 44th annual meeting in Baltimore, MD on November 16, 2013.

倉田久、高木英明、張勇兵「社会人・学生協働型研修の提案：筑波大学「サービスカイゼン研修コース」の取り組み」、日本工学教育協会 第61回年次大会(会場：新潟大学五十嵐キャンパス)、2013年8月31日.

田中雅敏、倉田久、「信用取引契約を考慮したサプライチェーン・コーディネーションの考察」、オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会 (JOMSA) 年次大会 (会場：大阪市立大学)、2013年6月1日.

倉田久、「店頭在庫が顧客購買に影響を及ぼす場合の在庫プーリング分析 (Study on effect of product-availability conscious customers on inventory pooling)」、日本経営工学会平成25年度春季研究大会 (会場：慶應義塾大学矢上キャンパス)、2013年5月18日.

Kurata, Hisashi, “Who should keep inventory when customers are lead-time conscious? a supplier, retailers, or both?” Presented at the Production & Operations Management Society (POMS) annual meeting 2013, at Denver, Colorado, USA, on May 3, 2013.

◆ その他：

「経営工学100のキーワード導入編：マス・カスタマイゼーションの時代」、筑波大学高大連携「筑波大学宿泊研修」における高校向け模擬授業 (会場：筑波大学本部キャンパス3A棟)、2013年8月9日.

「サービス業の効果・効率向上について」、社団法人いばらき社会起業家協議会主催、第8回いばらき創業塾での招聘講演 (会場：茨城県水戸市三の丸ホテル)、2013年3月6日.

2013年度筑波大学公開講座「サービスカイゼン研修コース」(会場：筑波大学春日キャンパス内メディアホール)、企画者、世話人、講師. 2013年5月14日から7月16日まで、毎週火曜日午後6:30分より開催、全10回.

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
社会工学類：学類カリキュラム委員会委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等)：

社会工学類：学類カリキュラム委員会委員

三専攻：入試実施委員

4. 学外の社会貢献

◆ オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会（JOMSA）、理事（研究）兼発起人

◆ Ad-hoc reviewer（論文査読）

International Journal of Production Economics

International Journal of Production Research

European Journal of Operational Research

| 氏 名 | 近藤 文代 | 職 名 | 講師 |
|------------|---------------------------------------|-----|----|
| 専攻（博士後期課程） | 社会システム・マネジメント専攻 専任 | | |
| 専攻（博士前期課程） | 社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任 | | |
| 担当学類 | 社会工学類 専任 | | |
| 研究分野 | モバイルマーケティング、ベイジアンモデル、POSデータ解析、状態空間モデル | | |

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
マーケティング工学／経営工学基礎演習／サービスの産業と組織／マーケティングサイエンス
- ◆ 指導学生数：
社会工学類 7人／社会システム工学専攻 2人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
科学研究費 基盤研究（A）「データベースマーケティングと消費者理論の融合による CRM の新展開」（分担）
- ◆ 著書・論文等：
 1. Akter, S., Kondo, F. N., and Hani, U. (2013), Mobile Information Services Marketing: An Assessment of Needs, Quality and Satisfaction, Journal of Business and Policy Research, 8(3), pp.221-235.
 2. Kondo, F. N, and Ishida, H. (2014), A Cross-National Analysis of Intention to Use Multiple Mobile Entertainment Services, Journal of Global Information Technology Management (forthcoming).
- ◆ 学会発表等：
国際会議 GITMA2013 にて発表” Perceived Value to Intention to Use Can Be Different by Country in Cross-national Analyses”
- ◆ その他：
国際会議 GITMA2013 にてベストペーパーアワード受賞／指導学生が日本マーケティングサイエンス学会にて審査員特別賞受賞

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
ウィーン経済経営大学（学術協定校）の調停者

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
就職委員会、施設委員会

| 氏 名 | イリチュ（佐藤）美佳 | 職 名 | 教授 |
|------------|------------------------------------|-----|----|
| 専攻（博士後期課程） | リスク工学専攻 専任、社会システム・マネジメント専攻 兼任 | | |
| 専攻（博士前期課程） | リスク工学専攻 専任、社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 兼任 | | |
| 担当学類 | 社会工学類 専任 | | |
| 研究分野 | データマイニング，統計科学 | | |

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 数理統計学／統計 I/ 卒業研究

大学院前期課程 データマイニング/リスク工学前期特別演習 I/リスク工学前期特別演習 II/
リスク工学前期特別研究 I/リスク工学前期特別研究 II/リスク工学グループ演習（分担）

大学院後期課程 リスク工学後期特別演習（分担）/リスク工学後期特別研究

◆ 指導学生数：

社会工学類：5人

リスク工学専攻博士前期課程：1人

短期留学生：1人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(C))

「高次シンボリックデータに対するクラスターワイズ手法の開発とその応用」（代表）

日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(A))

「患者の満足とスタッフの適正労働を実現する地域基幹病院の医療サービス科学」（分担）

日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(B))

「高次元データの理論と方法論の総合的研究」（分担）

筑波大学大学院システム情報工学研究科教育研究費重点配分「ソフトコンピューティング学域」（代表）

◆ 著書・論文等：

(1) M. Sato-Ilic, Two Covariances Harnessing Fuzzy Clustering Based PCA for Discrimination of Microarray Data, Lecture Notes in Bioinformatics, Springer-Verlag, Berlin Heidelberg (Germany), L.E. Peterson, F. Masulli, G. Russo, eds., pp. 158-172,

2013.

(2) M. Sato-Ilic, P. Ilic, Fuzzy Dissimilarity Based Multidimensional Scaling and Its Application to Collaborative Learning Data, *Procedia Computer Science*, Elsevier, Vol. 20, pp. 490-495, 2013.

(3) M. Sato-Ilic, Fuzzy Clustering Based Correlation and Its Application to Principal Component Analysis, the 59th ISI World Statistics Congress, pp. 3893-3898, 2013.

(4) 佐藤美佳, データマイニング・テキストマイニング(第5章, 第7節), 感性工学ハンドブック- 感性をきわめる七つの道具, 椎塚久雄 編, 朝倉書店, 2013

(5) 佐藤美佳, データマイニング(第7.11節), ものづくりに役立つ経営工学の辞典 - 180の知識 -, 日本経営工学会 編, 日本技術士会経営工学部会 ・日本IE協会 編集協力, 朝倉書店, 2014

(6) M. Sato-Ilic, Fuzzy Data Analysis(Chapter 9), EOLSS, 2014. (in press)

◆ 学会発表等：

招待講演

(1) M. Sato-Ilic, Fuzzy Clustering Induced Correlation for Feature Extraction in Lower Dimension Space, London, UK, The 6th International Conference of the ERCIM WG on Computational and Methodological Statistics, 2013.

(2) 佐藤美佳, 分類構造に基づく相関分析, 2013年度統計関連学会連合大会, 2013.

(3) 佐藤美佳, Fuzzy Clustering-based Models and its Applications, 日本行動計量学会岡山地域部会第51回研究会, 2014.

研究会発表

(1)佐藤美佳, Fuzzy Clustering-based Models, 第9回筑波大学ソフトコンピューティング学域セミナー, 2014

◆ その他：

Best Theoretical Paper Award, M. Sato-Ilic, P. Ilic, Fuzzy Dissimilarity Based Multidimensional Scaling and Its Application to Collaborative Learning Data, *Complex Adaptive Systems*, Baltimore, USA, 2013年11月14日.

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

全学入試実施委員会委員（学類）

システム情報工学研究科広報委員会委員長

システム情報工学研究科入試実施委員会委員

システム情報工学研究科技術職員委員会委員

システム情報工学研究科就職委員会委員

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

リスク工学専攻広報委員会委員長

リスク工学専攻就職委員会委員長

リスク工学専攻 M2 主担当

リスク工学専攻入試委員会委員

リスク工学専攻 GP 達成度評価委員会委員

社会工学類入試実施委員会副委員長

4. 学外の社会貢献

海外学術誌編集業務：

Editor in Chief of International Journal of Knowledge Engineering and Soft Data Paradigms, Published by Inderscience Publishers, UK

Regional Editor of International Journal on Intelligent Decision Technologies

Associate Editor of Neurocomputing

Member of Editorial Board for Source Code for Biology and Medicine, BioMed Central, UK

Member of Editorial Board for the International Journal of Hybrid Intelligent Systems

ISI, IEEE 等役員・委員：

Council of International Association for Statistical Computing (a Section of the International Statistical Institute)

Vice Chair of the Fuzzy Systems Technical Committee (FSTC) of the IEEE Computational Intelligence Society

IEEE Senior Member

Co-Chair of Program Committee of the IEEE WCCI2014

Member of IEEE Women in Computational Intelligence Committee

その他

日本統計学会代議員

2013 年度統計関連学会連合大会運営委員会委員長

日本分類学会幹事・運営委員

日本知能情報ファジィ学会理事

| | | | |
|------------|-------------------------|-----|----|
| 氏 名 | 繁野 麻衣子 | 職 名 | 教授 |
| 専攻（博士後期課程） | 社会システム・マネジメント専攻 専任 | | |
| 専攻（博士前期課程） | 社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任 | | |
| 担当学類 | 社会工学類 専任 | | |
| 研究分野 | 最適化 | | |

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 数理最適化法／数理工学モデル化実習／計算機科学／フレッシュマンセミナー
大学院 ビジネス数学／離散数理

◆ 指導学生数：

学類 7人／社会システム・マネジメント 1人／社会システム工学 4人
経営政策科学 5人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 基盤研究（C）「実問題への適応能力のあるネットワーク最適化アルゴリズムと構造解析手法の発展的展開」（代表）

◆ 著書・論文等：

Satoshi TAKAHASHI, Atsuko TAKEFUSA, Maiko SHIGENO, Hidemoto NAKADA, Tomohiro KUDOH, and Akiko YOSHISE: Power efficient virtual machine packing for green Datacenter, International Journal of Next-Generation Computing, 4, 162-181, 2013

Yutaro IKEDA, Ayumi IGARASHI, and Maiko SHIGENO: Applications of popular matchings on campus, International Symposium on Scheduling 2013, 86-90, 2013.

応用数学会：応用数理ハンドブック，朝倉書店，ネットワークフロー執筆担当（2 頁），2013，10 月上旬刊行

繁野麻衣子，松岡博，「手術室のスケジューリング」，オペレーションズ・リサーチ 58 (2013) 628-633.

◆ 学会発表等：

羅松 繁野麻衣子，On the random k-set designs under experimental uncertainty, 日本応用数学会 2013 年会，2013. 9. 9-11，アクロス福岡

三木和貴，宮城智一，繁野麻衣子，コミュニティバスの OD 推定と運行ルート策定，日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会，2014. 3. 6-7，大阪大学

◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
スポーツデー実行委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
大学院 運営委員／学類 1 年クラス担任 入試実施委員

4. 学外の社会貢献

日本応用数理学会論文誌編集委員
日本オペレーションズ・リサーチ学会論文誌編集委員
公開講座「サービスカイゼン研修コース」講師
サイエンスパートナーシッププロジェクト 講師
土浦協同病院ネットワークシステム評価委員

| 氏 名 | 鈴木 勉 | 職 名 | 教授 |
|------------|---|-----|----|
| 専攻（博士後期課程） | リスク工学専攻 専任 社会システム・マネジメント専攻 兼任 | | |
| 専攻（博士前期課程） | リスク工学専攻 専任 社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 兼任 | | |
| 担当学類 | 社会工学類 専任 | | |
| 研究分野 | 立地科学、都市空間構造、持続可能型都市形態、都市リスク分析、地理情報の都市計画への応用 | | |

1. 教育

◆ 担当授業科目：

総合科目 都市・地域・環境を探るⅡ

社会工学類 線形代数Ⅰ／都市構造論／都市計画実習／都市解析／
暮らしのリスクと安心・安全な社会形成

博士前期課程 リスク工学概論／都市機能リスク論／都市・地域解析学／
都市リスク分析演習

◆ 指導学生数：

社会工学類 4人／リスク工学専攻 2人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費補助金（基盤研究(A)）「地理情報科学と都市工学の空間情報解析融合技術の戦略的活用」（代表）

科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究） 「集約型都市構造設計への交通システムのインテグレーションに関する研究」（代表）

科学研究費補助金（基盤研究(B)）「速度マネジメントに着目したエコドライブ普及施策の定量的評価」（分担）

◆ 著書・論文等：

- ・ Yuran Choi and Tsutomu Suzuki, Protection Strategies for Critical Retail Facilities: Applying Interdiction Median and Maximal Covering Problems with Fortification, Journal of the Operations Research Society of Japan, Vol. 56, No. 1, pp. 38-55, 2013.
- ・ 加藤秀樹・安藤良輔・西堀泰英・近藤美則・鈴木勉, エコドライブ活動による日常の運転特性の変化に関する研究—一般乗用車を対象とした兵庫県における事例—, 自

動車技術会論文集, Vol. 44, No. 6, 2013.

- ・ 鈴木勉, 施設の信頼性と最適配置—確率的に機能を喪失する施設へのアクセシビリティを保つ最適配置パターン—, 都市計画論文集, Vol. 48, No. 3, pp. 891-896, 2013.

◆ 学会発表等 :

- ・ Tsutomu Suzuki, Optimal Median Locations of Multiple Unreliable Facilities, presented at the 53rd European Regional Science Association, Palermo, Italy, August 26-29, 2013.
- ・ 笹圭樹・鈴木勉, 道路容量制約下での避難場所割当変更による津波避難時間の短縮効果—茨城県高萩市を対象として—, 日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会アブストラクト集, pp. 62-63, 2013.
- ・ 鈴木勉, 通過交通の侵入を防ぐ住区内道路網設計問題, 日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会アブストラクト集, pp. 48-49, 2013.
- ・ 鈴木勉, 周期的人口分布変動と施設配置, 地理情報システム学会講演論文集, 2013.
- ・ Hideki Kato, Ryosuke Ando, Yoshinori Kondo, Keisuke Matsushashi, Shinji Kobayashi and Tsutomu Suzuki, Comparative Measurements of the Eco-driving Effect between Electric and Internal Combustion Engine Vehicles, presented at the 27th International Electric Vehicle Symposium and Exhibition (EVS27), Barcelona, Spain, November 17-20, 2013.
- ・ Yoshinori Kondo, Hideki Kato, Ryosuke Ando, Yoshihiko Karakama and Tsutomu Suzuki, To What Extent Can Speed Management Alleviate the Range Anxiety of EV?, presented at the 27th International Electric Vehicle Symposium and Exhibition (EVS27), Barcelona, Spain, November 17-20, 2013.
- ・ 鈴木勉, n 方向距離・放射環状距離空間における Weber 点, 日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アブストラクト集, pp. 92-93, 2014.

◆ その他 :

- ・ 鈴木勉, 救急搬送の時間短縮と救急車両・病院の配置モデル, コロナ社, リスク工学シリーズ 第9巻『都市のリスクとマネジメント』(糸井川栄一編), 2014, pp. 28-47, 分担執筆.
- ・ 鈴木勉, 延焼遮断帯の整備プログラム, コロナ社, リスク工学シリーズ 第9巻『都市のリスクとマネジメント』(糸井川栄一編), 2014, pp. 88-103, 分担執筆(共著).
- ・ 鈴木勉, 火山灰災害の社会的影響とマネジメント, コロナ社, リスク工学シリーズ 第9巻『都市のリスクとマネジメント』(糸井川栄一編), 2014, pp. 158-183, 分担執筆.

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
つくばエコシティ推進グループ委員
外国語センター運営委員

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
システム情報工学研究科学務・カリキュラム委員
システム情報工学研究科リスク工学専攻カリキュラム委員長
社会工学類予算委員長

4. 学外の社会貢献

- ◆ 日本オペレーションズ・リサーチ学会研究普及理事，論文誌編集委員，IAOR 委員会委員，国際委員会委員
- ◆ 国土交通省国土技術政策総合研究所技術提案評価審査会委員
- ◆ 常総市公共交通活性化協議会会長
- ◆ 守谷市公共交通活性化協議会委員
- ◆ 神栖市地域公共交通会議委員
- ◆ 筑波研究学園都市交流協議会 3 E フォーラム都市構造・交通システムタスクフォース座長

| 氏 名 | 住田 潮 | 職 名 | 教授 |
|------------|---|-----|----|
| 専攻（博士後期課程） | 社会システム・マネジメント専攻 専任 | | |
| 専攻（博士前期課程） | 社会システム工学専攻 専任 | | |
| 担当学類 | 社会工学類 専任 | | |
| 研究分野 | <div> <div> ・金融工学 ・インターネットを中心とする IT 分析 ・ロジスティクスシステム分析 ・応用確率論 ・組織行動論 </div> <div> ・マーケティング・サイエンス ・生産システム分析 ・国際経営比較 ・応用確率過程論 ・起業と革新マネジメント </div> </div> | | |

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類： 応用確率過程論、

大学院前期課程：e-グローブ・マネジメント／確率システム解析／プロジェクト・マネジメント理論と実際

◆ 指導学生数：

博士： 修了 3 名、指導中 4 名／修士： 修了 9 名、指導中 12 名／学類： 修了 9 名、指導中 12 名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：下記に示す外部競争資金合計 1192 万円を獲得し、企業との共同研究プロジェクト4件とアメリカのユタ大学とのe-MOM 国際比較研究に関する共同研究プロジェクトとを組織し、博士、修士、学類の 40 名を越える学生諸君と共に活発な研究活動を展開した。

- 1) 奨学寄付金：ソシオテック研究所 「グローバル教育の研究」 100 万円
- 2) 委託研究：太陽誘電モバイル・テクノロジー「防御保全の方法論確立」
200 万円
- 3) 奨学寄付金：LIXIL 「市場データ解析」 60 万円
- 4) 科研費 基盤研究 (B) 平成 25 年度～平成 27 年度：
「インターネットにおけるロコミ効果の国際比較」 832 万円

◆ 著書・論文等：

- [1] Chowdhury, S. and U. Sumita, "Diffusion of PV in Japan and Germany-Role of Market-Based Incentive and Research and Development (R&D) Investment," *Journal of*

Technology Innovations in Renewable Energy, Vol. 1, No. 2, pp80-86, 2012

- [2] Kotani, M and U. Sumita, "Structural Analysis of National Brand vs. Store Brand with Stochastic Demands, " *International Journal of Business and Information, Vol 8, No. 1, pp. 1-33, June 2013*
- [3] Sumita, U. and J. Yoshii, "Strategic Flexibility in Exploiting Economies of Scope on 70-30 Principle - A Case Study of Japanese Electronics Industry," *Global Journal of Flexible Systems Management, Vol. 14, No. 1, pp45-55, March 2013*
- [4] Yoshii, J. and U. Sumita, "Impact of Mobile Access to the Internet on Sales Completion Time in e-Commerce with Multiple Classes of Customers," *Proceedings of International Conference on e-Commerce, e-Administration, e-Society, e-Education and e-Technology, Kitakyusyu, April 3-5, 2013*
- [5] Sumita, U. and J. Yoshii, "How to Equip Students with Methodologies and Tools for Capturing Rapidly Changing Environments through Computer Supported Education," *Proceedings of the 5th International Conference on Computer Supported Education, Aachen, Germany, May5-8, 2013*
- [6] Kotani, M. and U. Sumita, "Numerical Exploration of Optimal Pricing Strategy of a Store Brand against National Brands with Stochastic Demands," *Proceedings of International Conference on Business and Information, Bali, Indonesia, July 6-9, 2013*
- [7] Yoshii, J. and U. Sumita, "Development of Marketing Flexibility for e-Commerce by Assessing Impact of Mobile Devices on Sales with Multiple Classes of Customers, " *Proceedings of GLOGIFT 2013, New Delhi, India, December 12-15, 2013* : The paper was selected to be included in an edited volume entitled **"Managing Flexibility: People, Process, Technology and Business"** under the Book Series on Flexible Systems Management (Published by Springer).
- [8] Nour, S, U. Sumita and J. Yoshii, "Development of Enhanced Marketing Flexibility by Optimally Allocating Sales Campaign Days over a Given Period for Maximizing the Expected Total Sales," *Proceedings of GLOGIFT 2013, New Delhi, India, December 12-15, 2013* : The paper was selected to be rewritten for publication in *Global*

Journal of Flexible Systems Management.

- [9] Perera, U., C. Ventiana, D. Mutiara Dian Sari, and U. Sumita, “Analysis of Interrelationships between Application Popularity, Application Stability and Potential Risk in e-WOM,” *to appear in International Journal of Business and Information*
- [10] 石川慎之介, 住田潮, 吉井淳, “地域密着型スポーツクラブのプロ事業化へ向けた意思決定モデル～リアル・ オプション・ アプローチに基づく最適オプション・ 投資戦略の数値解法～,” (、吉井淳との共著), 応用地域学会研究 (Journal of Applied Regional Science)、第 17 号, pp19-32
- [11] 崔鍾午, 住田潮, “日本・韓国における女性フィットネスクラブ会員の身体像に対する運動行動の影響,” スポーツ産業学研究、Vol.23, No.1, 2013

◆ 学会発表等：

- *International Conference on e-Commerce, e-Administration, e-Society, e-Education and e-Technology, Kitakyusyu, April 3-5, 2013*
- *5th International Conference on Computer Supported Education, Aachen, Germany, May5-8, 2013*
- *International Conference on Business and Information, Bali, Indonesia, July 6-9, 2013*
- *Global Compact China-Japan-Korea Youth CSR Conference, July 28-31, Beijing, China*
- *Invited Lecture, William E. Simon Graduate School of Business Administration University of Rochester, Rochester, New York, U.S.A., October 29-November 5, 2013*
- *Thirteenth Global Conference on Flexible Systems Management, New Delhi, India, December 12-15, 2013*

◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献： 特に無し
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）： 特に無し

4. 学外の社会貢献

- 1) JIRCAS 外部評価委員
- 2) ソシオテック研究所 顧問
- 3) 日本能率協会 Professional Leader Course 主任講師
- 4) 多数の専門誌における論文査読
- 5) 多数の企業経営幹部に対する講演活動
- 6) 編集委員 : *International Journal of Business and Information*
- 7) 編集委員 : *Global Journal of Flexible Systems Management*
- 8) International Program Committee, *International Conference on e-Commerce, e-Administration, e-Society, e-Education and e-Technology, Kitakyusyu*, April 3-5, 2013
- 9) International Program Committee, *International Conference on Business and Information*, Bali, Indonesia, July 6-9, 2013

| | | | |
|------------|---|-----|----|
| 氏 名 | 高木 英明 | 職 名 | 教授 |
| 専攻（博士後期課程） | 社会システム・マネジメント専攻 専任 | | |
| 専攻（博士前期課程） | 社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任 コンピュータサイエンス専攻 兼担 | | |
| 担当学類 | 社会工学類 専任 | | |
| 研究分野 | 応用確率過程、待ち行列理論、サービスサイエンス | | |

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
経営・政策科学専攻 サービス科学：理論と実践／特定課題研究
- ◆ 指導学生数：
経営・政策科学専攻 7 人／社会システム・マネジメント専攻 2 人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
科学研究費補助金，基盤研究(A)「患者の満足とスタッフの適正労働を実現する地域基幹病院の医療サービス科学（研究代表者）」
- ◆ 著書・論文等：
 1. Hideaki Takagi and Yutaro Taguchi, Analysis of a queueing model for a call center with impatient customers and after-call work, *International Journal of Pure and Applied Mathematics*, Vol.90, No.2, pp.205–237, 2014.
 2. Hideaki Takagi, Waiting time in the $M/M/m/(m+c)$ queue with impatient customers, *International Journal of Pure and Applied Mathematics*, Vol.90, No.4, pp.519–559, 2014.
- ◆ 学会発表等：
 1. Kazuo Misue, Yuta Kanai, and Hideaki Takagi, Visualizing the overview of temporal patterns of patients' activities, *2013 Workshop on Visual Analytics in Healthcare (VAHC2013)*, Washington Hilton Hotel, Washington, D.C., U.S.A., November 16, 2013.

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 - システム情報系長、大学執行役員
 - システム情報工学等技術室長
 - 筑波大学出版会 運営・編集委員
 - 北アフリカ研究センター運営委員・研究員

利益相反委員会委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 北陸先端科学技術大学院大学 アカデミックアドバイザー
- ◆ 独立行政法人森林総合研究所 本所コンプライアンス推進委員会委員
- ◆ 筑波大学産学連携会 会長補佐
- ◆ 日本オペレーションズ・リサーチ学会監事、
サービス・イノベーションへの数理的アプローチ研究部会主査
- ◆ Performance Evaluation 誌 編集委員

| | | | |
|------------|-------------------------|-----|-----|
| 氏 名 | 高橋 義明 | 職 名 | 准教授 |
| 専攻（博士後期課程） | 社会システム・マネジメント専攻 専任 | | |
| 専攻（博士前期課程） | 社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任 | | |
| 担当学類 | 社会工学類 専任 | | |
| 研究分野 | 行動経済学、幸福度研究、消費者教育 | | |

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類 公共システム演習
 - 大学院 地方行財政論
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類 2 名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：

幸福度測定における文化差の原因の解明（フィリピン調査の実施など）、持続可能社会と幸福との関係、消費者市民社会における教育の役割
- ◆ 著書・論文等：

（査読付論文）

Uchida, Y., Takahashi, Y., & Kawahara, K. Changes in hedonic and eudaimonic well-being after a severe nationwide disaster: The case of the Great East Japan Earthquake. *Journal of Happiness Studies*, Volume 15, Issue 1, pp 207-221, 2014.

高橋義明, 海外諸国における消費者相談, *国民生活研究*, 53(2), pp 33-66, 2013.

高橋義明, 消費者教育は進化していくのか, *消費者教育*, 33, pp 11-18, 2013.

（一般論文）

高橋義明, 政策指標としての幸福度, *季刊環境研究*, No.172, pp 110-120, 2014.

高橋義明, 欧州連合における貧困・社会的排除指標の数値目標化とモニタリング, *海外社会保障研究*, No.185, pp 4-25, 2013.

高橋 義明, 諸外国における食品表示をめぐる法と政策, *現代消費者法*, 民事法研究会, 21 号, pp 97-102, 2013.

高橋 義明, 世界の消費者法, *現代消費者法*, 20 号, pp.97-102, 2013.
- ◆ 学会発表等：

Takahashi, Y., “Does the digital age change the meaning of happiness among the

elderly?” World Social Sciences Forum, Montreal, Canada, October 13-15, 2013.
Takahashi, Y. “Happiness, ideal happiness, and reference point: Asian cases,” The
10th Biennial Conference of Asian Association of Social Psychology, Yogyakarta,
Indonesia, August 21-24, 2013.

- ◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

4. 学外社会貢献

- ◆ 独立行政法人国際協力機構 JICA 研究所共同研究者
- ◆ 日本消費者法学会理事
- ◆ 日本消費者教育学会関東支部理事

| | | | |
|------------|------------------------|-----|----|
| 氏 名 | 竹原 浩太 | 職 名 | 助教 |
| 専攻（博士後期課程） | 社会システム・マネジメント専攻 専任 | | |
| 専攻（博士前期課程） | 社会システム工学専攻、経営政策科学専攻 専任 | | |
| 担当学類 | 社会工学類 専任 | | |
| 研究分野 | 数理ファイナンス、金融工学、応用確率解析 | | |

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類：数理工学モデル化実習／応用確率論／経営の科学 2／問題解決と発見／情報リテラシー・演習

大学院：投資科学／ファイナンス：理論と実践／プロジェクト・マネジメント：理論と実践

◆ 指導学生数：

卒業研究：2名／修士：社会システム工学専攻1年 1名／社会システム工学専攻2年 1名／経営・政策科学専攻1年 1名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- ・ 「患者の満足とスタッフの適正労働を実現する地域基幹病院の医療サービス科学」，科研費基盤研究A・一般，研究分担者（代表者：筑波大学 高木英明教授）
- ・ 「インターネットにおけるロコミ効果の国際比較」，科研費基盤研究B・一般，2013-2015，研究分担者（代表者：筑波大学 住田潮教授）
- ・ 「老朽化する都市インフラの選択集中整備に関する理論・実証研究」，科研費基盤研究A・一般，研究分担者（代表者：筑波大学 大澤義明教授）

◆ 著書・論文等：

Kohta Takehara,

“An Asymptotic Expansion Approach with Markovian Projection,” working paper.

◆ 学会発表等：

◆ その他：

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

大学院：カリキュラム委員会

経営・政策科学専攻：革新的教育プロジェクト「GPA 導入に向けた適正評価モニタリングシステムの構築と運用」

学類：社会工学類・経営工学主専攻平成 23 年度入学年次クラス担任（渡辺真一郎教授と共同）

プレイスメントテスト実施委員（石川准教授と共同）

4. 学外の社会貢献

◆ 所属学会

日本ファイナンス学会，日本金融・証券計量・工学学会，日本 OR 学会，日本統計学会（役員等はない）

◆ 論文査読実績

和文誌：現代ファイナンス

英文誌：Asia-Pacific Financial Markets, International Journal of Theoretical Finance, Mathematical Finance

◆ 土浦市教育委員会学校給食センター基本構想策定委員会委員

| 氏 名 | 谷口 綾子 | 職 名 | 准教授 |
|------------|----------------------------------|-----|-----|
| 専攻（博士後期課程） | リスク工学専攻 専任 社会システム・マネジメント専攻 兼任 | | |
| 専攻（博士前期課程） | リスク工学専攻 専任 社会システム・マネジメント専攻 兼任 | | |
| 担当学類 | 社会工学類 専任 | | |
| 研究分野 | 都市交通計画、態度行動変容研究、災害リスク・コミュニケーション | | |

1. 教育

◆ 担当授業科目：

【学類】 都市計画実習，交通運輸政策，暮らしのリスクと安心・安全な社会形成，

【大学院前期課程】 都市安全管理特論，リスク工学特別演習，リスク工学基礎，
都市リスクコミュニケーション，リスクマネジメント序論

◆ 指導学生数：リスク工学専攻 3名／社会工学専攻 1名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

1. 平成 24 年度日本学術振興会特定国派遣研究者：カールスタッド大学(スウェーデン)における在外研究：研究テーマ「Psychological and cultural factors in altruistic behaviour in public transport」
2. 平成 22-25 年度 科学研究費(若手 B)(代表) 子育てバリアフリーの実現に向けた子連れ外出の難易度認知に関する研究
3. 平成 22-25 年度 科学研究費(基盤 A(分担)) 市民生活行動学の構築による部門横断型まちづくりのための政策意思決定方法論の開発
4. 平成 22-25 年度 科学研究費(基盤 B(分担)) シティズンシップ教育アプローチによるMM教育のカリキュラム構築
5. 平成 24-26 年度 科学研究費(基盤 B(分担)) 子育てしやすい働き方の探求と実現のための施策の立案および評価に関する研究

◆ 著書・論文等：

- (1) 都市のリスクとマネジメントー環境リスクとモビリティ・マネジメントー (分担執筆，2 章第 1 節担当)，コロナ社，共著，2013.
- (2) Taniguchi, A., Fujii, S., Azami, T., Ishida, H. (2014) Persuasive Communication Aimed at Public Transportation-Oriented Residential Choice and Promotion of Public Transport, Transportation, Volume 41, Issue 1, pp. 75-89.

- (3) 谷口綾子, 川村竜之介, 赤澤邦夫, 岡本ゆきえ, 桐山弘有助, 佐藤桃: 大学生の服装と景観・授業態度との関連分析 ―筑波大学の事例―, 土木学会論文集 D3 (土木計画学), Vol. 69, No. 5, (土木計画学研究・論文集第 30 巻), pp. I_309-316, 2013.
- (4) 川村竜之介, 谷口綾子: まちなかの居場所が生活の質・地域への意識に与える影響に関する研究, 土木学会論文集 D3 (土木計画学), Vol. 69, No. 5, (土木計画学研究・論文集第 30 巻), pp. I_335-344, 2013.
- (5) 谷口綾子, 林真一郎, 矢守克也, 伊藤英之, 菊池輝, 西真佐人, 小山内信智, 藤井聡: 小学校における土砂災害避難行動誘発のための授業プログラム構築とその効果分析, 災害情報, No. 11, pp. 43-54, 2013.

◆ 学会発表等:

- 1. Friman, M., Taniguchi, A., Grääs, C. (2013) Satisfaction with travel, goal achievement, and voluntarily behavioral change, 10th Biennial Conference on Environmental Psychology, Magdeburg, Germany.
- 2. Taniguchi, A., Fujii, S., Osanai, N., Ito, H. (2013) Individualised risk communication of sediment-disaster evaluated using a psychological process model, 3rd International Conference on Disaster Management and Human Health: Reducing Risk, Improving Outcomes, selected proceedings, WIT Transactions on the Built Environment (ISSN: 1746-4498, Digital ISSN: 1743-3509).

◆ その他:

- (1) 谷口綾子: モビリティ・マネジメントとまちづくりーひとりひとりの振る舞いがまちを変えるー, 土地総合研究, pp. 46-52, 2014.
- (2) 谷口綾子: ライフスタイルの変化と交通 ―「健康」になれる交通体系を目指してー運輸と経済 2 月号, pp. 67-70, 2014.
- (3) 谷口綾子: 環境配慮行動, 土木学会 100 周年記念事業, 印刷中
- (4) 谷口綾子: 子連れ外出に対する意識の世代間ギャップ, 交通工学, vol. 49, No. 1, 2014 年 1 月号, pp. 4-9, 2014.
- (5) 谷口綾子: ベビーカー連れは有料? 無料? ～スウェーデン, カールスタッド市のバス運賃変更施策～, 運輸政策研究, Vol. 16 No. 2, pp. 58 - 61, 2013.
- (6) 谷口綾子: 災害避難を考える ～クロスロードと雨量・避難情報・対処行動のカード教材～, 教室の窓 2013 年 4 月号 vol. 39 (東京書籍), pp. 38-39, 2013.
- (7) 谷口綾子: 車依存からの脱却 ～MM (モビリティ・マネジメント) のポイント～四国運輸研究, 第 30 号, pp. 5-14, 2013.

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
つくばエコシティ推進グループ：キャンパス交通システムの利用促進
筑波大学カーシェアリングシステム「カーシェアつくば」の導入，マネジメントと利用促進
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
リスク工学専攻：広報委員，FD 委員

4. 学外の社会貢献

◆ 講演・パネルディスカッション

- (1) 東北運輸局 東北 E S T 創発セミナー における基調講演 タイトル「モビリティ・マネジメントによる公共交通の利用促進 ～スウェーデンの事例を中心に～」 2013 年 11 月
- (2) 東北運輸局 東北 E S T 創発セミナーにおけるパネルディスカッション「秋田発！健康で低炭素な公共交通の推進を目指して」座長 2013 年 11 月
- (3) JICA 平成 25 年度 JICA 集団研修「総合都市交通計画・プロジェクト」における講演 タイトル「Mobility Management - essence and key points」 2013 年 10 月
- (4) 北陸信越運輸局(長野市) 地域交通システム再構築促進セミナー（応用編）における基調講演 タイトル「モビリティ・マネジメントの概要とポイント」 2013 年 10 月
- (5) 北陸信越運輸局(松本市) 地域交通システム再構築促進セミナー（応用編）における基調講演 タイトル「モビリティ・マネジメントの概要とポイント」 2013 年 10 月
- (6) 北陸信越運輸局 北陸信越 E S T 創発セミナー「環境にやさしい『自転車』を活かしたまちづくりを目指して」（金沢市）におけるパネリスト 2013 年 10 月

◆ 委員会(政府・地方自治体等)

- 国土交通省運輸審議会 運輸安全マネジメント部会 専門委員 2014 年 2 月～
- 三条市・見附市 健幸都市実現を支える都市集約化のあり方研究会 2013 年 9 月～
- 三重県総合交通ビジョン懇話会 委員 2013 年 10 月～
- 長岡市 長岡都市圏交通円滑化計画策定委員会 委員 2012 年 11 月～
- 静岡県 道路技術審議会 委員 2012 年 10 月～
- 内閣府 民間資金等活用事業推進委員会委員 2012 年 1 月～
- 横浜市都市整備局 「次世代の総合的な交通体系検討会」 委員 2011 年 12 月～
- 高岡市 地域公共交通活性化会議 委員 2010 年 9 月～
- 那珂市 地域公共交通活性化会議 委員 2012 年 2 月～
- 国土交通省鉄道局都市鉄道課 「東京圏における鉄軌道整備の現状把握と今後の方向性の検討に関する調査委員会」 委員 2011 年 9 月～
- 富山市役所 富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会 委員 2011 年 10 月

～

- 札幌市役所 「札幌らしい交通環境学習検討委員会」委員 2011 年 8 月 17 日～2014 年 3 月 31 日
- 新潟県三条市 スマートウェルネス三条推進会議委員 委員 2011 年 9 月～
- 静岡県庁 伊豆地域の道路整備のあり方検討会 委員 2011 年 7 月～
- 龍ヶ崎市公共交通活性化協議会 委員
- モビリティ・マネジメント教育普及検討委員会 委員 交通エコロジー・モビリティ財団 2009 年 1 月～
- 茨城県かすみがうら市 総合交通会議 委員 2008 年 10 月～
- 秦野市 TDM 計画 小学校における TDM 教育 アドバイザー・講師
- 交通政策審議会 環境部会 臨時委員、国土交通省(2007 年 4 月～)
- EST 普及推進委員会 委員 主催：交通エコロジー・モビリティ財団

| 氏 名 | 谷 口 守 | 職 名 | 教授 |
|------------|------------------------|-----|----|
| 専攻（博士後期課程） | 社会システム・マネジメント専攻 専任 | | |
| 専攻（博士前期課程） | 社会システム工学専攻、経営政策科学専攻 専任 | | |
| 担当学類 | 社会工学類 専任 | | |
| 研究分野 | 都市地域計画、交通計画、環境計画 | | |

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 都市計画実習／都市計画原論／都市構造論／東京の都市学／総合科目「都市・地域・環境を語る」

大学院前期課程 都市計画の課題と方法／社会資本ストック管理政策

◆ 指導学生数：

社会工学類 3人／社会システム工学専攻 10人／

社会システム・マネジメント専攻 1人／研究生 1人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 挑戦的萌芽研究「サイバースペースを考慮したトータルスペース・マネジメント手法の開拓」（代表）

科学研究費 基盤研究(A)「交通まちづくりの計画手法に関する研究」（分担）

委託研究 「震災による買い物環境の変化と、将来に向けた買い物利便性の確保と向上について」（代表） 福島県いわき市：大学等と地域の連携したまちづくり推進事業

研究助成金 「都市再構築に向けた被災地域の不動産流通研究」（代表）
(社)不動産流通経営協会

研究助成金 「集団緑化と地産地消による環境バランス改善評価ツールの開発と適用～エコロジカル・フットプリント指標を応用して～」(代表)
公益信託エスベック地球環境研究・技術基金

研究助成金 「地域を超えて助け合う新しいコミュニティの創発、一震災復興支援の促進要因分析から一」(代表) 公益財団法人ユニバーサル財団

研究助成金 「『都市ドック』制導入による人口減少社会での都市空間再生に関する研究」(代表) 一般財団法人国土技術研究センター

◆ 著書・論文等：

★ 著書

Chen, H., Ise, S. and Taniguchi, M.: Concepts of an ecologically balanced area based on Ecological Footprint, Sustainable development and planning VI, pp. 79-86, WIT PRESS, 2013. 5.

Nakagawa, Y., Ochiai, J. and Taniguchi, M.: Effect of electric power interchanges using a smart grid, -In terms of city characteristics-, Sustainable city VIII, pp. 835-844, WIT PRESS, 2013. 12.

★ 査読付き論文

谷口守・森英高・西山真利江：被災地に見る移動販売の利用実態とその今後について、交通工学、Vol. 33、CD-Rom、2013. 9.

落合淳太・中川喜夫・松橋啓介・谷口守：全国の市区町村における太陽光発電による電力自給自足の潜在的可能性、一居住地でのスマートグリッド導入を踏まえ、環境システム研究論文集、Vol. 41、pp. 217-226、2013. 10.

森英高・山口裕敏・谷口守：被災地域の買い物行動と意識にみる車依存社会のレジリアンス、都市計画論文集、No. 48-3、pp. 435-440、2013. 11.

富永透見・谷口守：スマートフォンに着目したインフォメーションギャップに関する研究- 集客施設へのアクセスに関する情報発信と検索の視点から -、都市計画論文集、No. 48-3、pp. 429-434、2013. 11.

山口裕敏・土居千紘・谷口守：災害時自治体間援助の全国の実態とその特徴、一東日本大震災を対象に、地域安全学会論文集、No. 21、pp. 179-188、2013. 11.

森英高・山口裕敏・谷口守：「仮のまち」構想を踏まえた転入転居者の今後の居住地選択意向、地域安全学会論文集、No. 21、pp. 129-136、2013. 11.

谷口守・山口裕敏・山室寛明：個人の類型からみる他地域援助の実態とその意向、土木学会論文集D3、Vol169、No. 5、pp. 47-56、2013. 12.

谷口守・肥後洋平・落合淳太：地方分権時代における自動車CO₂排出量低減政策の可能性、-都市計画マスタープランを対象に、土木学会論文集D3、Vol169、No. 5、pp. 613-620、2013. 12.

宮木祐任・根本拓哉・陳鶴・谷口守：都市サービスの変遷から見た集落の存立状況、一高齢者が容易に歩けるスケールから考える、土木学会論文集D3、Vol169、No. 5、pp. 275-282、2013. 12.

尾高慎二・神田佑亮・西ノ原真志・飯野公央・谷口守：地方都市圏におけるモビリティ・マネジメント施策の継続効果の分析、土木学会論文集D3、Vol169、No. 5、pp. 753-760、2013. 12.

★論説

谷口守・肥後洋平：コンパクトシティを再考する、一最近の動向を踏まえて一、土地総合研究、特集：コンパクトシティの現在、Vol. 21、No. 2、2013. 5.

谷口守・肥後洋平：都市計画マスタープランにおけるコンパクトシティ政策の変遷、一交通まちづくりの基礎制度として一、総合都市交通計画に関する研究、日本交通政策研究会、日交研シリーズ A-576、pp. 1-10、2013. 6.

谷口守：震災復興と地域間援助、東日本大震災 復興まちづくりのこれからに向けて(12)、新都市、Vol. 68、No. 1、pp. 56-57、2014. 1.

谷口守：スマートシティ VS. コンパクトシティ、～交通の視点から都市の「かたち」を見直す～、日本交通政策研究会、日交研シリーズ B-163、2014. 2.

◆ 学会発表等：

★口頭発表

肥後洋平・山室寛明・谷口守：買い物行動・サービス利用のサイバー空間移行特性に関するレトロスペクティブ調査、都市計画報告集、No. 12-1、pp. 1-6、2013. 5.

森英高・西山真利江・西山敦・谷口守：いわき市に見る震災前後の交通手段と生活の変化、一何を取り戻せばよいのかを考える一、第8回 JCOMM、2013. 7.

谷口守・富永透見・太田恒平・高田加奈子：スマホ時代の MM を考える、第8回 JCOMM、2013. 7.

太田恵梨子・中村肇・新井仁・谷口守：転入者MM導入によるさいたま市の CO₂ 削減ポテンシャルについて、第8回 JCOMM、2013. 7.

川村竜之介・谷口綾子・谷口守・大森宣暁：公共交通車内における協力行動と社会規範に関する国際比較、第8回 JCOMM、2013. 7.

飯野公央・足立保・加納克浩・中島 正信・山本 俊彦・井場 英雄・山東信二・尾高慎二・神田佑亮・谷口守：松江市における公共交通利用促進市民会議を中心とした職場MMの継続的实施と新たな展開、第8回 JCOMM、2013. 7.

落合淳太・中川喜夫・松橋啓介・谷口守：スマートグリッド導入を想定した電力の市区町村間融通による自給率向上効果、土木計画学研究・講演集、Vol. 48、2013. 11.

伊勢晋太郎・陳鶴・谷口守：環境バランスエリア概念の提案とその試行、土木計画学研究・講演集、Vol. 48、2013. 11.

陳鶴・伊勢晋太郎・谷口守：エコロジカル・フットプリントを用いた集落の環境バランス改善ツールの開発、一集落スケールでの検討一、土木計画学研究・講演集、Vol. 48、2013. 11.

谷口守・富永透見・外薮宏介：立地政策に配慮したポイントアクセシビリティ指標の開発と適用、一集客施設を対象に一、土木計画学研究・講演集、Vol. 48、2013. 11.

谷口守・森英高：買い物活動困難化に関するリスク認知構造分析、土木計画学研究・講演集、Vol. 48、2013. 11.

尾高慎二・神田佑亮・飯野公央・谷口守：職場モビリティ・マネジメント継続実施による行動変容要因の分析、土木計画学研究・講演集、Vol. 48、2013. 11.

肥後洋平・宮木祐任・谷口守：拠点の階層性に関する計画と実態、一都市計画マスタープランに着目して一、不動産学会学術講演集、No. 29、2013. 11.

森英高・谷口守：被災地域における不動産流通の実態に関する一考察、不動産学会学術講演集、No. 29、2013. 11.

小田佳代子・森英高・陳鶴・谷口守：ハレの場では費用便益を考えるのか？、一花火大会の開催傾向に見る地域差から一、都市計画報告集、No. 12-4、pp. 138-142、2014. 2.

中川喜夫・松橋啓介・谷口守：都市構造の違いからみるスマートグリッドによる余剰電力の街区間融通効果一、都市計画報告集、No. 12-4、pp. 164-168、2014. 2.

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
学務・カリキュラム委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
修士論文委員長、入試委員、人事懇談会世話人

4. 学外の社会貢献

- ◆ 学会活動（役員/委員）
IFHP(International Federation of Housing and Planning) 評議員
日本都市計画学会 学術委員会 委員長、常務理事
運輸政策研究 編集委員会委員
International Planning Studies 編集委員
日本モビリティ・マネジメント会議 理事
JASOPH(Japanese Society for Planning and Housing) 理事
土木学会 交通まちづくりの実践研究小委員会 副代表、制度設計部会長
- ◆ 学外から委嘱された委員、兼業など
内閣府 「今後の跡地利用施策の展開方策に関する検討委員会」 委員
内閣府 「総合特別区域の専門家評価」 委員
国土交通省 「社会資本整備審議会 都市計画制度小委員会」 委員
国土交通省 「先導的都市環境形成促進事業に係るアドバイザー会議」 委員
国土交通省 「都市構造の評価手法に関する研究会」 委員
国土交通省 「健康・医療・福祉政策と連携したまちづくり研究会」 委員
環境省 「地域における地球温暖化対策検討業務『地域づくりWG』」 委員

環境省 「地域における地球温暖化対策検討業務『狭域(地域)・定量化 SWG』」 委員長
環境省 「交通低炭素化技術開発分野分科会」 委員
道路環境・道路空間研究所 「道路空間高度化研究会」 委員
国土交通省中国地方整備局 「明日の高梁川を語る会(仮称)」 委員
国土交通省中国地方整備局 「明日の吉井川を語る会(仮称)」 委員
和歌山県 「和歌山県都市計画審議会」 委員長
埼玉県 「埼玉県都市計画審議会」 委員長
茨城県 「茨城県都市計画審議会」 委員
福岡県 「福岡県都市計画基本方針検討委員会」 委員
静岡県 「沼津高架 P I プロジェクト」 技術検討アドバイザー
つくば市 「つくば市公共空間活用検討委員会」 委員長
日立市 「ひたち B R T まちづくり計画策定委員会」 委員長
倉敷市 「倉敷市地域公共交通会議」 議長
福山市 「福山都市圏交通円滑化総合計画推進委員会自動車交通対策部会」 部会長
宇都宮市 「ネットワーク型コンパクトシティ有識者会議」 委員

| | | | |
|------------|-------------------------|-----|----|
| 氏 名 | 張 勇兵 | 職 名 | 教授 |
| 専攻（博士後期課程） | 社会システム・マネジメント専攻 専任 | | |
| 専攻（博士前期課程） | 社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任 | | |
| 担当学類 | 社会工学類 専任 | | |
| 研究分野 | 情報処理、通信ネットワーク、性能評価 | | |

1. 教育

◆ 担当授業科目：

社会工学類：情報工学情報実習／情報ネットワーク／情報技術実験／情報リテラシー／社会工学における戦略的思考・理論・実験及び演習

大学院：情報ネットワーク論

◆ 指導学生数：

社会工学類 1 人／社会システム工学専攻 5 人／社会システム・マネジメント専攻 1 人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

平成25年度国立情報学研究所共同研究「モバイルクラウド構築手法の研究」（代表）

平成23～25年（2011-2013） 科学研究費基盤（A）「患者の満足とスタッフの適正労働を実現する地域基幹病院の医療サービス科学」（分担）

◆ 著書・論文等：

Y. Tao, Y. Zhang, and Y. Ji: Flow Balanced Routing for Multi-Hop Clustered Wireless Sensor Networks, *Ad Hoc Networks Journal*, Vol. 11, No. 1, pp. 541-554 (January 2013).

◆ 学会発表等：

- Z. Liu, J. Feng, Y. Ji, and Y. Zhang: Adaptive *Energy-aware Free Viewpoint Video Transmission over Wireless Networks*, *Proc. IEEE Int. Conf. Computing, Networking and Communications (ICCNC2014)*, 6 pages, Honolulu, Hawaii (Feb. 2014).
- P. Gao, W. Xiang, J. Billingsley, and Y. Zhang: Error-Resilient Multi-view Video Coding for Next Generation 3-D Video Broadcasting, *Proc. IEEE Int. Conf. ICT Convergence 2013 (ICTC 2013)*, 5 pages, Jeju Island, Korea (Oct. 2013).
- H. Takagi, Y. Kanai, Y. Zhang, and K. Misue: Analysis and Visualization of Inpatient Flow at the University of Tsukuba Hospital, *Proc. 2013 Frontiers in Service Conf.*, Taipei, Taiwan (Jul. 2013).

- Y. Tao, Y. Zhang, and Y. Ji: Optimal Data Cache Allocation for Mobile Devices in Sensor-Cloud, IPSJ SIG Technical Report, Vol. 2013-MBL-69, No. 13, 8 pages (Dec. 2013).
- 鈴木俊裕、張勇兵、計宇生: 移動端末からクラウドサービスを利用するためのプロキシサーバ構築に関する研究, 情報処理学会研究報告, Vol. 2013-MBL-69, No. 13, 6 pages (2013 年 12 月).
- 倉田久、高木英明、張勇兵: 社会人・学生協働型研修の提案 ～筑波大学「サービスカイゼン研修コース」の取り組み～、平成 25 年度工学教育研究講演会、2013 年 8 月.
- Z. Liu, J. Feng, Y. Ji, and Y. Zhang: Energy-aware Multi-view Video Streaming over Wireless Networks, IEICE Technical Report, CQ2013-3, pp. 13-18 (April 2013).

◆ その他：

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

大学ネットワーク管理委員会委員、大学インシデント対応室員、システム情報系情報環境委員会副委員長、理工学群ネットワーク委員会委員長、文修サテライト運営委員

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

コンピュータ委員長

4. 学外の社会貢献

Associate Editor (2007～), Journal of Peer-to-Peer Networking and Applications, Springer.
Program Committee, 2013 Int. Conf. Connected Vehicles & Expo (ICCVE2013), Las Vegas, December 2-6, 2013.

Program Committee, IEEE Int. Conf. Computer Communications (INFOCOM2013), Turin, Italy, April 14-19, 2013.

Program Committee Co-Chair, The 11th Int. Symp. Modeling and Optimization in Mobile, Ad hoc, and Wireless Networks (WiOpt2013), Tsukuba, Japan, May 13-17, 2013.

Program Committee, Wireless Networking Symposium, IEEE Int. Conf. Commun. (ICC2013), Budapest, Hungary, June 9-13, 2013.

Program Committee, The 6th Int. Conf. Contemporary Computing, JIIT, Noida, India, August 8-10, 2013.

Referee for IEEE Trans. Parallel and Distributed Systems

| 氏 名 | 堤 盛人 | 職 名 | 教授 |
|------------|-------------------------------|-----|----|
| 専攻（博士後期課程） | 社会システム・マネジメント専攻 専任 | | |
| 専攻（博士前期課程） | 社会システム工学専攻 専任 経営・政策科学専攻 専任 | | |
| 担当学類 | 社会工学類 専任 | | |
| 研究分野 | 応用空間統計学、土木計画学 | | |

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 線形代数Ⅱ・国土・地域・都市の政策評価（プロジェクトの評価とファイナンス）・
都市計画マスタープラン策定実習（共同）・東京の都市学（分担）・都市構造論（分担・
責任者）

大学院 プロジェクト評価論・プロジェクト評価演習

◆ 指導学生数：

社会工学類 2人／社会システム工学専攻 4人／社会システム・マネジメント専攻 2人

◆ 学生の受賞：

2013年10月 村上大輔 2013年度地理情報システム学会学会賞 研究奨励部門

2013年11月 爲季和樹 2013度 S-PLUS 学生研究奨励賞 優秀賞（賞金5万円）
「局所探索法を用いた空間重み行列の構造決定」

2013年11月 吉田崇紘 2013度 S-PLUS 学生研究奨励賞 佳作（賞金1万円）
「空間効果を考慮した多項離散選択モデルによる土地利用分布の推定」

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

研究代表者 日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究(B) 『空間従属性を考慮した
新たな面補間法の開発とその実用化』

研究代表者 国土交通省国土技術政策総合研究所（審議会等公募型） 受託研究 『道
路資本の市町村別ストック推計に関する研究開発』

研究代表者 株式会社タス 奨学寄付金 『不動産証券化サービスに関する研究』

研究分担者 日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究(A) 『地理情報科学と都市
工学の空間情報解析融合技術の戦略的活用』（代表：鈴木勉）

研究分担者 日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究(A) 『老朽化する都市イン
フラの選択集中整備に関する理論・実証研究』（代表：大澤義明）

◆ 著書・論文等：

i) 著書

1) 瀬谷創・堤盛人：『空間統計学 自然科学から人文・社会科学まで』，朝倉書店，2014.

ii) 審査つき論文

1) Kazuki Tamesue, Morito Tsutsumi, and Yoshiki Yamagata: Income disparity and correlation in Japan” , Review of Urban and Regional Development Studies, Vol.25, Issue 1, pp.2-15, 2013.

2) Hsin-Ti Chen, Morito Tsutsumi, Kiyoshi Yamasaki and Kazuki Iwakami: An Impact Analysis of the Taiwan Taoyuan International Airport Access MRT System: Considering the interaction between land use and transportation behavior, Journal of the Eastern Asia Society for Transportation Studies, Vol. 10, pp.315-334, 2013.

◆ 学会発表等：

1) Sho Kuroda and Morito Tsutsumi: Spatial clustering for property valuation with hedonic pricing, (poster session) presented at Japan Geoscience Union Meeting 2013, Makuhari Messe International Conference Hall, Chiba, Japan, 22 May 2012. (“H-TT (Human Geoscience(H) / Technology & Techniques(TT))” 09 GIS) (講演番号:HTT09-P04)

2) Takahiro Yoshida and Morito Tsutsumi: Estimation of land use maps considering spatial dependence using a spatial filtering framework , (poster session) presented at Japan Geoscience Union Meeting 2013, Makuhari Messe International Conference Hall, Chiba, Japan, 22 May 2012. (“H-TT (Human Geoscience(H) / Technology & Techniques(TT))” 09 GIS) (講演番号:HTT09-P03*)

3) 堤盛人・山木浩平・嶋田章：「茨城県を対象とした市町村別道路資本ストック推計の新たな試み」，『土木計画学研究・講演集』，Vol. 47, (CD-ROM 講演番号：419)，2013.

4) 吉田崇紘・堤盛人：「土地利用データを対象とした多項ロジットモデルへの固有ベクトル空間フィルタリングの適用」，『土木計画学研究・講演集』，Vol. 47, (CD-ROM 講演番号：189)，2013.

5) 爲季和樹・堤盛人：「空間的相関と異質性から見た日本の経済集積の探索的空間データ分析」，『土木計画学研究・講演集』，Vol. 47, (CD-ROM 講演番号：187)，2013.

6) Sho Kuroda and Morito Tsutsumi: Geographic segmentation considering spatial heterogeneity for hedonic property valuation, (poster session) presented at the Spatial Statistics 2013, Ohio State University, Columbus, Ohio, USA, 4-7 of June, 2013.

7) Daisuke Murakami and Morito Tsutsumi: Sampling design problems in land price assessment systems in Japan: an empirical study applying spatial statistics, (poster session) presented at the Spatial Statistics 2013, Ohio State University, Columbus, Ohio, USA, 4-7 of June, 2013.

- 8) Sho Kuroda and Morito Tsutsumi: , (poster session) presented at the Spatial Statistics 2013, Ohio State University, Columbus, Ohio, USA, 4-7 of June, 2013.
- 9) Kazuyuki Fujii, Yoko Hozumi, Tomoyasu Iida and Morito Tsutsumi: The Effect of Vacancy Rate and Economic Trends Index: The Rent Adjustment Factors for Rental Apartment in Tokyo' s 23 Wards, presented at 2013 AsRES International Conference in Kyoto, Kyoto University, Japan, 28 June- 1 July 2013.
- 10) Kazuki Tamesue and Morito Tsutsumi: Local averaged hedonic land price model: geographically weighted regression with weighted average least squares, presented at 2013 AsRES International Conference in Kyoto, Kyoto University, Japan, 28 June- 1 July 2013.
- 11) Sho Kuroda and Morito Tsutsumi: Geographical Segmentation for Hedonic Pricing in the Real Estate Market, presented at 2013 AsRES International Conference in Kyoto, Kyoto University, Japan, 28 June- 1 July 2013.
- 12) Takahiro Yoshida and Morito Tsutsumi: Application of eigenvector-based spatial filtering approach to a multinomial logit model for land use data, presented at the Seventh World Conference of the Spatial Econometrics Association, Key Bridge Marriott Hotel, Washington, DC, US, 10-12 of July, 2013.
- 13) Kazuki Tamesue and Morito Tsutsumi: Geographically weighted regression for origin-destination flows, presented at the Seventh World Conference of the Spatial Econometrics Association, Key Bridge Marriott Hotel, Washington, DC, US, 10-12 of July, 2013.
- 14) Daisuke Murakami and Morito Tsutsumi: A Geographically Weighed Regression-based Approach for the Change of Support Problem, presented at the Seventh World Conference of the Spatial Econometrics Association, Key Bridge Marriott Hotel, Washington, DC, US, 10-12 of July, 2013.
- 15) Takahiro Yoshida, Morito Tsutsumi, Yoshiki Yamagata Hajime Seya and Daisuke Murakami: Prediction of past land use using a spatial filtering approach, presented at the IGU 2013 Kyoto Regional Conference, Kyoto International Conference Center, CS18-9, 9 August, 2013.
- 16) Hajime Seya, Sho Kuroda, Daisuke Murakami, Yoshiki Yamagata and Morito Tsutsumi: Hedonic analysis of flooding risk in Tokyo using a spatial econometric model with endogenous explanatory variables, presented at the IGU 2013 Kyoto Regional Conference, Kyoto International Conference Center, CS18-10, 9 August, 2013.
- 17) Hsin-Ti Chen, Morito Tsutsumi, Kiyoshi Yamasaki and Kazuki Iwakami: An Impact Analysis of the Taiwan Taoyuan International Airport Access MRT System ? Considering the interaction between land use and transportation behavior,

- 18) 吉田崇紘・堤盛人：「固有ベクトル空間フィルタリングを用いた空間的依存性を考慮した多項離散選択モデル」,『地理情報システム学会講演論文集』, Vol. 22, E-5-3, (CD-ROM), 2013.
- 19) 爲季和樹・堤盛人：「局所空間統計量を用いた日本の経済集積の空間分析」,『地理情報システム学会講演論文集』, Vol. 22, C-5-5, (CD-ROM), 2013.
- 20) 爲季和樹・堤盛人：「LQ 法による地域投入係数の推定精度の比較」, 第 27 回応用地域学会, 12 月 14 日～15 日, 2013, 京都大学.
- 21) 瀬谷創・堤盛人：「空間情報を利用した欠損データの復元」, 第 27 回応用地域学会, 12 月 14 日, 2013, 京都大学.
- 22) 村上大輔・瀬谷創・山形与志樹・堤盛人：「空間統計モデルを用いた建築物ストックの詳細推計」, 第 27 回応用地域学会, 12 月 14 日, 2013, 京都大学.
- 23) 黒田翔・堤盛人：「不動産投資信託市場における情報開示についての一考察」, 日本不動産金融工学学会, 日本不動産金融工学学会, 2 月 22 日, 2014, 早稲田大学大学院ファイナンス研究科 (コレド日本橋) .

◆ その他：論説

- 1) 堤盛人・村上大輔：「空間計量経済モデルを用いた面補間法の実用化」,『ESTRELA』, No230, pp. 38-43, 2013.

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

- 全学： 1) 国立大学法人筑波大学資金運用委員会委員
2) 職員宿舍整備に関するタスクフォース・メンバー

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

社会システム・マネジメント専攻/社会システム工学専攻/経営・政策科学専攻：

- 1) 広報委員会委員
2) 社会工学ルネサンス検討会委員

社会工学類：

- 1) 運営委員
2) 広報委員会委員

4. 学外の社会貢献

◆ 学会活動（役員/委員, 論文査読等）

- 1) 一般社団法人 日本写真測量学会 評議員
2) 日本不動産金融工学学会 評議員
3) 土木計画学研究委員会土木計画学・学術小委員会委員
4) 査読委員/査読者：Spatial Statistics, Spatial Economic Analysis, 土木計画学研

究・論文集 Vol. 30, ジャレフ・ジャーナル（不動産ファイナンス・不動産経済学研究）,
都市住宅学会, 運輸政策研究, 都市計画学会, 日本経済研究, 日本リモートセンシング学
会誌

5) 表彰等の審査員：都市住宅学会賞・2014 年論文賞審査員, 日本不動産学会・業績賞ワ
ーキンググループ委員, 日本不動産学会・学会賞（湯浅賞（研究奨励賞））審査委員

◆ 社会的活動

- 1) 総務省 『政策評価・独立行政法人評価委員会』 臨時委員
- 2) 国土交通省 『道路構造物の維持管理に関する検討会』 委員
- 3) 国土地理院 『総合評価委員会』 委員
- 4) 国土地理院 『電子国土賞選考委員会』 委員
- 5) 環境省 『狭域・定量化 SWG』 委員
- 6) 茨城県 『河川整備計画検討委員会』 委員
- 7) 相模原市 『小田急多摩線の延伸計画に関する研究会』 委員
- 8) 公益社団法人日本測量協会 「地理空間情報専門技術委員会」 委員

◆ その他兼業

株式会社タス 非常勤顧問

| | | | |
|------------|-------------------------|-----|----|
| 氏 名 | 中村 豊 | 職 名 | 教授 |
| 専攻（博士後期課程） | 社会システム・マネジメント専攻 専任 | | |
| 専攻（博士前期課程） | 社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任 | | |
| 担当学類 | 社会工学類 専任 | | |
| 研究分野 | 不確実性下の意思決定理論、数理心理学 | | |

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：学類 意思決定論、
大学院 社会経済の課題と方法、意思決定理論、ミクロ経済学
- ◆ 指導学生数：社会工学類 2 人／社会システム工学専攻 2 人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
科学研究費 挑戦的萌芽研究(近代効用理論における公理的基礎の再構築—統一的な公理体系の構築に向けて—)
- ◆ 著書・論文等：
- ◆ 学会発表等：
Fujii, Y. and Nakamura, Y. : ``Regret choice and equity premium' ', presented at IJIE 2013 (17th International Conference on Industrial Engineering: Theory, Applications and Practice, Pusan National University, Busan, Korea, October 6-9, 2013)
- ◆ その他：
Nakamura, Y. (2013) Axioms for regret under risk, Working paper.
Nakamura, Y. (2014) State-dependent strength-of-preferences, Working paper.

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：システム情報系人事委員会委員、システム情報系運営委員、システム情報工学研究科運営委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：社会工学類長

4. 学外の社会貢献

- ◆ Journal of Mathematical Psychology の Action Editor

| | | | |
|------------|-------------------------------------|-----|-----|
| 氏 名 | 永易 淳 | 職 名 | 准教授 |
| 専攻（博士後期課程） | 社会システム・マネジメント専攻 専任 | | |
| 専攻（博士前期課程） | 社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任 経済学専攻 兼担 | | |
| 担当学類 | 社会工学類 専任、国際総合学類 兼担 | | |
| 研究分野 | 国際金融論、応用経済学 | | |

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類：経済学入門Ⅰ、国際公共システム演習、国際金融論、経済政策分析

大学院：国際金融論

◆ 指導学生数

筑波大学 0人（8月まで長期海外出張）／University of Strathclyde (UK) 1人（PhD）

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 基盤 (C)「ダイナミック階層ファクター・モデルによる為替レートの変動と伝播効果の解明」（研究代表者）

◆ 著書・論文等：

[1] Time-varying conditional correlations in Asia-Pacific stock returns around the Lehman Shock and beyond, 2013, *Journal of Economic Integration* 28(3) 9月, 412-440 単著

[2] A dynamic factor approach to domestic capital mobility, 2013, *Empirical Economics* Vol. 44(2) 4月, 685-700 単著

[3] Currency forecast errors at times of low interest rates: evidence from survey data on the yen/dollar exchange rates, 2014, *Nippon Finance Association Proceedings* 共著 R. MacDonald (近刊)

[4] 地域データ：賃金センサス, 2014, 多目的統計データバンク年報 7-20 単著

[5] Co-movements in real effective exchange rates: evidence from the dynamic hierarchical factor model, 2013, SIRE Discussion Papers 2013-66, Scottish Institute for Research in Economics (SIRE)英国 単著

[6] UK house prices: convergence clubs and spillovers, 2013, SIRE Discussion Papers 2013-101, Scottish Institute for Research in Economics (SIRE)共著 A. Montagnoli

[7] An investigation of housing affordability in the UK regions, 2013, SIRE

Discussion Papers 2013-64, Scottish Institute for Research in Economics (SIRE)英国 共著 A. Montagnoli

[8] The forward premium puzzle and the euro, 2013, SIRE Discussion Papers 2013-65, Scottish Institute for Research in Economics (SIRE)英国 単著

- ◆ 学会発表等：
秋季日本経済学会
秋季日本金融学会

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
理工学群長及び副学群長にかかる意向調査委員会委員
データバンク委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会工学類 4 年次クラス担任
卒業論文梗概集編集員

4. 学外の社会貢献

国際協力銀行（JBIC） コンサルタント
独立行政法人経済産業研究所（RIETI） 研究評価外部員
University of Strathclyde（UK） 客員研究員
University of Strathclyde（UK） PhD international advisor
学術論文査読：Journal of Money, Credit & Banking, Economic Modelling ほか

| | | | |
|------------|-------------------------|-----|----|
| 氏 名 | 橋本 昭洋 | 職 名 | 教授 |
| 専攻（博士後期課程） | 社会システム・マネジメント専攻 専任 | | |
| 専攻（博士前期課程） | 社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任 | | |
| 担当学類 | 社会工学類 専任 | | |
| 研究分野 | 社会システム、システム評価決定論 | | |

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
社会工学類 評価と決定／線形代数 I／戦略行動システム演習／プログラミング実習
大学院 システム評価論
- ◆ 指導学生数：
社会工学類 3人／社会システム工学専攻 2人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
科学研究費 基盤研究(C) 「国の安定性の量的評価：冷戦終結前後の実証分析」（代表）
- ◆ 著書・論文等：
橋本昭洋 『DEA フレックス総合評価法：社会システム分析への適用』
- ◆ 学会発表等：
- ◆ その他：
Biographee Marquis Who's Who in the World 2013 (30th ed.)

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
全学 社会工学類専門教育用計算システム仕様策定委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会工学域 人事懇談会世話人
社会工学類 運営委員／カリキュラム委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ レビューア
Journal of Cleaner Production, Technological Forecasting and Social Change, International Regional Science Review, Journal of Optimization
- ◆ 独立行政法人 物質・材料研究機構 契約監視委員会委員長

| | | | |
|------------|-------------------------|-----|-----|
| 氏 名 | 八 森 正 泰 | 職 名 | 准教授 |
| 専攻（博士後期課程） | 社会システム・マネジメント専攻 専任 | | |
| 専攻（博士前期課程） | 社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任 | | |
| 担当学類 | 社会工学類 専任 | | |
| 研究分野 | 離散数学、組合せ論、トポロジー的組合せ論 | | |

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 社会工学実習／情報リテラシー・演習／シミュレーション／情報技術実験／国際企業論（世話人）／社会工学特設講義（民法）（世話人）／社会工学特設講義（商法）（世話人）
大学院 離散数理／経営工学における課題と方法／ビジネス数学

◆ 指導学生数：

社会工学類 0 名／社会システム工学専攻 1 名／社会システム・マネジメント専攻 1 名（研究生 1 名）

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 若手研究（B）「単体的複体の部分構造および極小反例に基づく位相幾何学的組合せ論の研究」（代表）

科学研究費 基盤研究（C）「実問題への適応能力のあるネットワーク最適化アルゴリズムと構造解析手法の発展的展開」（分担、代表：繁野麻衣子）

科学研究費 基盤研究（B）「錐最適化における新たなパラダイム：二重非負行列錐上の最適化とソフトウェアの開発」（分担、代表：吉瀬章子）

科学研究費 基盤研究（B）「インターネットにおけるロコミ効果の国際比較」（分担、代表：住田潮）

◆ 著書・論文等：

応用数理ハンドブック（薩摩順吉・大石進一・杉原正顕 編），pp. 306-307，「単体的複体」，朝倉書店，2013.

書評「格子の幾何学から広がる数学のダイナミズム」（枘田幹也・福川由貴子著「格子から見える数学」書評），数学セミナー2013年12月号，p. 96.

書評「新入生のための数学書ガイド」（R. J. ウィルソン著「グラフ理論入門」，伊藤大雄・宇野裕之編著「離散数学のすすめ」，J. マトウシエック著「離散幾何学講義」書評），数学セミナー 2013 年 4 月号，p. 14, 20, 28.

◆ 学会発表等：

日本数学会 2014 年度年会，学習院大学，2014 年 3 月 15-18 日，「単体的複体の

Hereditary-shellability と vertex decomposability」(柏原賢二氏と共著)

25th Workshop on Topological Traph Theory (TGT25), 横浜国立大学, 2013 年 11 月 18-22 日, ``Hereditary-shellable simplicial complexes and extendability of shellings''

(Joint work with Kenji Kashiwabara)

日本数学会 2013 年度秋季総合分科会, 愛媛大学, 2013 年 9 月 24-27 日, 「任意の制限がシェラブルな単体的複体とシェリングの拡張性」(柏原賢二氏と共著)

組合せ論サマースクール 2013(COS2013), 岩手(盛岡市、ホテル大観), 2013 年 9 月 2-5 日, 「任意の制限がシェラブルな単体的複体とシェリングの拡張可能性」(柏原賢二氏と共著)

組合せ論とその応用研究集会 2013, 山形(山形市保健センター), 2013 年 8 月 8-10 日, 「任意の制限がシェラブルな単体的複体におけるシェリングの拡張可能性」(柏原賢二氏と共著)

◆ その他:

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献:

全学 社会工学類等専門教育計算機システム仕様策定委員

◆ 専攻組織の業務への貢献(委員会等):

学類 コンピュータ委員、2 年クラス担任

大学院 コンピュータ委員、障害学生支援室連絡窓口教員(社会システム・マネジメント専攻)

4. 学外の社会貢献

◆ Graphs and Combinatorics 誌 Editorial board

◆ 日本数学会 応用数学分科会委員

◆ 「数学セミナー」誌 書評委員

◆ 組合せ数学セミナー(COMA ゼミ) 幹事

◆ JCCA メーリングリスト&ホームページ管理

| | | | |
|------------|-------------------------|-----|-----|
| 氏 名 | 原田 信行 | 職 名 | 准教授 |
| 専攻（博士後期課程） | 社会システム・マネジメント専攻 専任 | | |
| 専攻（博士前期課程） | 社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任 | | |
| 担当学類 | 社会工学類 専任 | | |
| 研究分野 | 中小企業経済学、計量経済学 | | |

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 統計Ⅰ／金融論／東京の都市学

大学院 応用計量経済学演習／社会経済演習

◆ 指導学生数：

社会工学類 1名／経営・政策科学専攻 3名／社会システム・マネジメント専攻 2名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費補助金 若手研究（B）「経済環境の激変と中小企業の役割」（研究代表者）

筑波大学プレ戦略イニシアティブ「工学・デザイン・感性工学に基づく革新的プロダクトデザイン基盤の構築」（中核教員）

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

筑波大学 TWINS&KdB 課題整理ワーキンググループ

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

社会工学関連 3 専攻 運営委員会委員

社会工学関連 3 専攻 博士論文委員会委員

社会工学関連 3 専攻 改組検討委員会委員

社会工学類 カリキュラム委員会委員

◆ 指導学生の受賞：

茗溪賞（茗溪会） 経営・政策科学専攻学生

| | | | |
|------------|--------------------------------------|-----|-----|
| 氏 名 | 藤井 さやか | 職 名 | 准教授 |
| 専攻（博士後期課程） | 社会システム・マネジメント専攻 専任 | | |
| 専攻（博士前期課程） | 社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任 環境科学専攻 兼任 | | |
| 担当学類 | 社会工学類 専任、芸術学群 兼任 | | |
| 研究分野 | 都市計画、土地利用計画、まちづくり法制、住環境整備 | | |

1. 教育

◆ 担当授業科目：

- ・ 学類：総合科目「都市・地域・環境を探るⅠ・Ⅱ・Ⅲ／総合科目・Japic 連携リレー講義「社会基礎学Ⅰ」／土地利用・地区整備計画／現代まちづくりの理論と実践／都市計画事例講義及び実習／住環境計画実習／視点構築演習／チャレンジ学外演習
- ・ 大学院：大学院共通科目・Japic 連携リレー講義「社会基礎学Ⅰ」／都市空間のフィールドワーク演習／国際交流ワークショップⅠ／国際交流ワークショップⅡ

◆ 指導学生数：

- ・ 社会工学類：0名／社会システム工学専攻：1名／環境科学専攻：1名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- ・ 2013 年度(財)日本財団・国際フェローシッププログラム「カナダにおける PPP を活用した公的住宅団地の再生に関する研究」（研究代表者）
- ・ 平成 25-28 年度科学研究費・基盤研究（A）・「老朽化する都市インフラの選択集中整備に関する理論・実証研究」研究分担者（研究代表者・大澤義明）
- ・ 平成 23-25 年度科学研究費・基盤研究（B）・「都市プランナーの職能・専門性の変容と再構築に関する国際比較研究」研究分担者（研究代表者・有田智一）

◆ 著書・論文等：

査読付学術雑誌掲載論文

- ・ 樋野公宏，石井儀光，藤井さやか：周辺環境が夜間歩行時の犯罪不安に与える影響とその構造：筑波研究学園都市の歩行者専用道路を対象として，日本建築学会計画系論文集，79(696)，pp. 445-450，2014-02.
- ・ 吉川重和，有田智一，藤井さやか：郊外戸建住宅地における高齢期の住み替えの課題と民間事業者による促進策の可能性に関する研究：多摩田園都市を対象として，都市計画論文集，48-3，pp. 963-968，2013.
- ・ 岩倉圭介，有田智一，藤井さやか：葬儀場の立地調整における条例等の役割に関する研究：用途地域制の補完機能に着目して，都市計画論文集，48-3，pp. 645-650，2013.

- ・ 小田真太郎，有田智一，藤井さやか：土地分有方式を活用した市街地再開発事業に関する研究：住工混在地区の事例を対象として，都市計画論文集，48-3，pp. 291-296，2013.
- ・ 松浦きらら，藤井さやか，有田智一：児童の遊び場としての UR 団地屋外空間の設計指針と利用実態に関する研究，都市計画論文集，48-3，pp. 285-290，2013.
- ◆ 学会発表等：
 - ・ Sayaka FUJII: From Housing Corporation to Urban Renaissance Agency: The Changing Role of the Semi-public Development Agency in Japan, 15th National Conference on Planning History, Society for American City & Regional Planning History, 2013.
 - ・ Speaker, Challenge of Reform and Renovation Projects of Public Housing in Japan: And What Can Be Learned from Toronto's Experience?, Human Geography Speaker's Series, Dep. of Human Geography and City Studies, University of Toronto, 2013/10/31, University of Toronto.
- ◆ その他：
 - ・ 2012 年度日本都市計画学会年間優秀論文賞（2013 年 5 月 24 日）太田尚孝・エルファディング ズザンネ・大村謙二郎・有田智一・藤井さやか「ドイツの都市計画における国際建築展（IBA）の役割と存在意義に関する研究」

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 - ・ 2012-13 年度 教育社会連携推進室室員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - ・ なし

4. 学外の社会貢献

- ◆ 社会貢献
 - ・ 主題解説・パネルディスカッションコーディネーター・全体企画，「公務員宿舎のこれまで、これから～宿舎一斉廃止を考える～」筑波大学・まちづくりシンポジウム，2013 年 7 月 6 日，つくば国際会議場（エポカル）.
 - ・ 平成 25 年度筑波大学社会貢献プログラム「つくば市の公務員宿舎一斉廃止による地域・都市への影響分析とまちづくり提案の検討」研究代表者
- ◆ 学会活動
 - ・ 都市住宅学会 編集委員会委員
- ◆ 査読実績
 - ・ 日本都市計画学会 査読 3 本
 - ・ 計画行政学会 査読 1 本

◆ 学術指導

- ・ つくば市都市計画課「つくば市地域まちづくり活動への支援に関する学術指導」
- ・ つくば市営繕・住宅課「つくば市空き家有効活用方策の検討に関する学術指導」

◆ 学外委員

- ・ 土浦市建築審査会 委員
- ・ 茨城県再生可能エネルギー導入促進事業評価委員会 委員
- ・ 板橋区都市計画審議会最高限度高度地区等検討部会 委員
- ・ 板橋区都市計画審議会 委員
- ・ 墨田区都市計画審議会高度地区特例の認定及び許可に係る専門部会 臨時委員
- ・ さいたま市都市計画審議会 委員
- ・ 八潮市都市計画審議会 委員
- ・ 柏市紛争調停委員会 委員
- ・ 柏市建築審査会委員
- ・ 守谷市景観審議会 委員
- ・ 神奈川県土地収用事業認定審議会 委員 等

| | | | |
|------------|-------------------------------------|-----|----|
| 氏 名 | 藤川 昌樹 | 職 名 | 教授 |
| 専攻（博士後期課程） | 社会システム・マネジメント専攻 専任 持続環境学専攻 兼担 | | |
| 専攻（博士前期課程） | 社会システム工学専攻 専任 環境科学専攻、経営政策科学専攻 兼担 | | |
| 担当学類 | 専 社会工学類 | 兼 | |
| 研究分野 | 日本建築史・都市史、保全型都市計画 | | |

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 都市計画の歴史／まちづくりと空間設計の歴史と思想／住環境計画実習／東京の都市学

大学院 都市形成史（環境計画史）

◆ 指導学生数：

社会工学類 2人／社会システム工学専攻 2人 /社会システム・マネジメント専攻 2人
生命環境科学研究科 環境科学専攻 0人 /生命環境科学研究科 持続環境学専攻 3人
社会システム工学専攻研究生 4人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- ・科学研究費 基盤研究(B)「江戸武家地の空間変容に関する文理統合的研究」(代表)
- ・科学研究費 研究成果公開促進費 学術図書「大名江戸屋敷の建設と近世社会」(代表)
- ・科学研究費 挑戦的萌芽研究「北関東の町並みの建築的構成とその展開過程に関する研究」(代表)
- ・科学研究費 基盤研究(A)「被災・破損を起因とする建設の技術革新と建築様式に関する歴史的研究」(分担)
- ・科学研究費 基盤研究 (A)「東アジアにおける植物資源の高度循環利用に基づく居住環境の地域特性に関する研究」(分担)
- ・科学研究費 基盤研究(C)「近代の橋本における製材と外材の流入」(分担)

◆ 著書・論文等：

- ・藤川昌樹「被災建築の復旧・復興から学ぶこと：茨城県の調査から」
(『災害への対応と対策：歴史的建築を未来に伝えるために』日本建築学会大会建築歴史・意匠部門研究懇談会資料、pp. 17-19、2013年9月)
- ・藤川昌樹「地域の文化的資源としての古民家とその再生」
(『農村計画学会誌』32-3、pp. 108-112、2013年9月)

- ・江本硯・藤川昌樹「中国青島市における並木道空間の形成(1891-1945)」
(『日本建築学会計画系論文報告集』、pp. 2321-2328、2013 年 11 月)
- ・作事記録研究会編『大名江戸屋敷の建設と近世社会』
(中央公論美術出版、全371頁、2013年12月)
- ・江本硯・藤川昌樹「戦前期中国青島市におけるクロマツとサクラの植栽」
(『ランドスケープ研究』77(5)、pp. 393-398、2014 年 3 月)
- ・高松花・藤川昌樹・黒田乃生「中国長白山麓における井幹式民家集落の現状と保存に関する研究」(『ランドスケープ研究』77(5)、pp. 689-692、2014 年 3 月)

◆ 学会発表等：

- ・海渡由紀子・藤川昌樹「つくば市北条における古代から現代にかけての空間形成」(『日本建築学会大会学術講演梗概集』[都市計画] pp. 17-18、2013 年 8 月)
- ・劉一辰・藤川昌樹「中国天津における英租界推広界の開発経緯に関する研究」(『日本建築学会大会学術講演梗概集』[都市計画] pp. 35-36、2013 年 8 月)
- ・江本硯・藤川昌樹「戦前期青島の公園における桜の植栽」(『日本建築学会大会学術講演梗概集』[都市計画] pp. 405-406、2013 年 8 月)
- ・曾天然・藤川昌樹「中国四川省瀘州市において酒造業の発達が都市形成に与えた影響」
(『日本建築学会大会学術講演梗概集』[都市計画] pp. 961-962、2013 年 8 月)
- ・高屋麻里子・藤川昌樹「萩藩江戸上屋敷の井戸と給排水設備の整備」(『日本建築学会大会学術講演梗概集』[建築史・意匠] pp. 313-314、2013 年 8 月)
- ・柘植大輔・藤川昌樹「茨城県内の醤油醸造元の立地と建築」(『日本建築学会大会学術講演梗概集』[建築史・意匠] pp. 899-900、2013 年 8 月)

◆ 講演ほか：

- ・「あなたの町は何才？ 町並みの魅力と保全」(藤川昌樹、夢ナビ LIVE2013[主催:FROMPAGE、後援:文部科学省]、みやこめっせ、2013 年 6 月 8 日)
- ・「真壁の震災被害と復興：「備えあれば憂いなし」か？」(藤川昌樹、気仙沼・尾形家修復保存会主催シンポジウム「故郷で守りたいものがある。」、山梨県甲州市「甘草屋敷」、2013 年 7 月 14 日)
- ・「歴史的町並みと建築の調査：常陸太田市鯨ヶ丘を事例に」(藤川昌樹、いばらき地域文化財専門技術者育成研修 2013、下妻市光明寺、2013 年 8 月 24 日)
- ・「桜川市真壁伝統的建造物群保存地区と東日本大震災」(藤川昌樹、全国伝統的建造物群保存地区協議会関東甲信越静岡ブロック会議研修会、真壁伝承館、2013 年 8 月 29 日)
- ・「被災建築の復旧・復興から学ぶこと：茨城県の調査から」(藤川昌樹、日本建築学会大会・研究懇談会「災害への対応と対策：歴史的建築を未来に伝えるために」、北海道大学、2013 年 9 月 1 日)

- ・” The Formation of Qingtao’ s Parks During the Colonial Period (1898-1914) ”
(Benyang Jiang and Masaki Fujikawa, The Fifteenth National Conference on Planning History, Courtyard Marriot, Toronto, CANADA、2013 年 10 月 5 日)
- ・「桜川市真壁町の歴史を活かしたまちづくり」(藤川昌樹、筑波山麓古民家シンポジウム [アイラブつくばまちづくりキャンペーン支援事業]、華の幹、2013 年 12 月 21 日)
- ・「社会工学学位プログラム」と「サービス工学学位プログラム」(藤川昌樹、社会工学専攻発足記念シンポジウム「学位プログラムにより我が国の大学院教育を牽引する」、筑波大学大学院システム情報工学研究科、エポカルつくば、2014 年 2 月 15 日)
- ・「鯨ヶ丘の歴史を活かしたまちづくり」(藤川昌樹、鯨ヶ丘商店会・NPO 結合同企画「鯨ヶ丘の歴史的建造物保全活用から地域の活性化を考えよう!」、常陸太田市商工会館、2014 年 2 月 19 日)
- ・「歴史的建造物を活かしたまちなみ探検」
(パネラー [藤川昌樹他]、茨城県建築士会主催、下妻市光明寺、2014 年 2 月 22 日)
- ・「吉良川のこれから」
(藤川昌樹、重伝建選定 15 周年記念行事、吉良川公民館、2014 年 3 月 8 日)
- ・「歴史まちづくり法と梅津会館：総括」(藤川昌樹、鯨ヶ丘商店会・NPO 結合同企画「鯨ヶ丘の歴史的建造物保全活用から地域の活性化を考えよう!」、常陸太田市商工会館、2014 年 3 月 20 日)

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 - ・つくば・地域連携推進室員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - ・社会システム工学専攻長
 - ・社会システム・マネジメント専攻 施設委員長
 - ・社会工学類 施設委員長

4. 学外の社会貢献

- ◆ 学会活動
 - ・建築史学会編集委員
 - ・日本建築学会・論文集委員会部門幹事
 - 〃 都市計画学会論文査読
- ◆ 学外から委嘱された委員
 - ・富岡市世界遺産まちづくり専門家会議委員（群馬県）
 - ・室戸市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員（高知県）

- ・つくば市文化財保護審議会会長
- ・桜川市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員
- ・史跡真壁城跡整備検討委員会委員（桜川市）
- ・桜川市歴史的風致維持向上推進協議会会長
- ・土浦市文化財保護審議会委員
- ・土浦市都市計画審議会会長
- ・文化財建造物を活用した地域活性化事業に係る協力者会議委員（文化庁）
- ・芸術文化振興基金運営委員会文化財専門委員会委員
- ・笠間城跡調査指導委員会委員（笠間市）

◆ 兼業

東京大学大学院新領域創成科学研究科

| | | | |
|-------------|-------------------------|-----|----|
| 氏 名 | 藤原 良叔 | 職 名 | 教授 |
| 専攻 (博士後期課程) | 社会システム・マネジメント専攻 専任 | | |
| 専攻 (博士前期課程) | 社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任 | | |
| 担当学類 | 社会工学類 専任 | | |
| 研究分野 | 組合せ理論とその応用 | | |

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
シミュレーション，経営工学情報実習，情報技術実験，情報リテラシー・演習
- ◆ 指導学生数：
研究生 1 名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - [1] 科学研究費 基盤研究 (C) 多重構造を持った組合せ的デザインの統合と統一的構成法の研究 (代表)
 - [2] 科学研究費 基盤研究 (C) 組合せ論的マルチメディア指紋符号とその不正者追跡アルゴリズムの研究 (分担)
 - [3] 科学研究費 基盤研究 (C) コントロールをもつネステッド分割型 2 因子実験の構成法の研究 (分担)
- ◆ 著書・論文等：
 - [1] Ryoh Fuji-Hara, Vector Representation of Descendant Sets and Binary Fingerprinting Codes RIMS 講究録 “Designs, Codes, Graphs and Related Areas” 2013 (to appear)
 - [2] Ryoh Fuji-Hara, Descendant Sets and Fingerprinting Codes of Binary Case, Designs Codes and Cryptograph (submitted)
- ◆ 学会発表等：
 - [1] Ryoh Fuji-Hara, Descendent Sets and Codes, Designs, Codes, Graphs and Related Areas
RIMS, July 1- July 3 , 2013 (招待講演)
 - [2] Ryoh Fuji-Hara, The Unification of Combinatorial Designs with Multi-Structures, International Conference on Interdisciplinary Mathematics 2013 (FIM 2013), Kitakyushu International Conference Center, Kitakyushu, Japan, November 10 - 12, 2013 (招待講演)
 - [3] Ryoh Fuji-Hara, Descendent Sets and Codes, The 11th International Conference on Finite Fields and Their Applications (Fq11),, 22-26 July 2013,

Otto-von-Guericke-University, Magdeburg, Germany

- [4] Ryoh Fuji-Hara, Descendant Vectors and Frameproof Codes of Binary Case, The 3rd Taiwan-Japan Conference on Combinatorics and its Applications,, National Chayi University, Taiwan, March 21-23 , 2014 (招待講演)

◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会工学類コンピュータ委員，社会工学専攻カリキュラム委員，社会工学域総務委員

4. 学外の社会貢献

Editor: Journal of Combinatorial Mathematics and Combinatorial Computing

Reviewing: American Mathematical Society Review

Refereeing: IEEE IT, J of Combinatorial Designs, Discrete Math その他

| | | | |
|------------|-----------------------------|-----|-----|
| 氏 名 | 松原 康介 | 職 名 | 准教授 |
| 専攻（博士後期課程） | 社会システム・マネジメント専攻 専任 | | |
| 専攻（博士前期課程） | 社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任 | | |
| 担当学類 | 国際総合学類 専任、社会工学類 兼任 | | |
| 研究分野 | 中東・北アフリカ地域の都市計画史、国際協力プロジェクト | | |

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 住まいと居住環境の計画／まちづくりと空間設計の歴史と思想／都市文化共生
計画／国際社会の持続可能な発展
大学院 居住環境計画論

◆ 指導学生数：

国際総合学類 13人／社会工学類 3人／社会システム・マネジメント専攻 1人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費（若手A）「「多様性と共生の知恵を育む中東・北アフリカ地域の都市計画史」
（代表）」

◆ 著書・論文等：

Philippe Bonnin, Nishida Masatsugu, Inaga Shigemi et Collectif (ed.),
Vocabulaire de la spatialité japonaise, CNRS, 605p., 2014.

Kosuke Matsubara, *Conservation et Modernisation de la ville historique de Fés, Maroc*, Recherches sur les langues et les cultures d'Asie et d'Afrique, Serie monographique ; 54, 252p., 2014.

Kosuke Matsubara, "Japanese Cooperation for Urban Planning in the Old Capital of Damascus", *Journal of Civil Engineering and Architecture*(ISSN1934-7359), Volume 7, No. 4 (Serial No. 65), pp.487-505.

松原康介「戦災復興都市計画によるベイルート旧市街の変容過程 -中東都市多層ベスマップシステムによる分析から-」都市計画論文集、2013年11月、48-3号、213-218頁。

◆ 学会発表等：

Kosuke Matsubara, Urban Planning Projects in Developing Countries based on International Cooperation -Focusing on the Case of Damascus, Syria, Guest Lecture for the Faculty of Architecture, Hunan University, 19 April, 2013

Kosuke Matsubara, The History of Urban Planning in Middle Eastern Cities as Seen Using a Multi-layered Base Map System -Toward War Damage Reconstruction-, 58th International Conference of Eastern Studies Tokyo, 24 May, 2013

Kosuke Matsubara, *Habitat Evolutif*, version Gyoji Banshoya in Algiers -Two testimonies and Temporary Housing for Slum Upgrading Projects-, The Tunisia-Japan Symposium on Science, Society and Technology, Hotel El Mouradi Hammamet, 15 - 19 November, 2013

Kosuke Matsubara, MBS, Self Introduction and Urban Planning History, 1st Meeting of the Project "Human Mobility and Multi-ethnic Coexistence in Middle Eastern Urban Societies (2)", 25-26 Feb. 2014

◆ その他：

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

社会・国際学群全学FD委員

北アフリカセンター学内共同研究員

中央アジア事務所運営委員

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

国際総合学類運営委員

国際総合学類FD委員長

国際総合学類クラス担任（3年生）

社会システム・マネジメント専攻入試実施委員

4. 学外の社会貢献

◆ 主な共同研究

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究員

（中東都市社会における人間移動と多民族・多宗派の共存（第2期））

◆ 学会活動

日本都市計画学会 学術委員 国際委員

国際都市計画史学会

国際開発学会

日本建築学会 論文査読委員

日本中東学会

地中海学会

都市史学会

日仏東洋学会 広報担当幹事

| 氏 名 | 繆 瑩 | 職 名 | 教授 |
|-------------|---------------------------------|-----|----|
| 専攻 (博士後期課程) | 社会システム・マネジメント専攻 専任 | | |
| 専攻 (博士前期課程) | 社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任 | | |
| 担当学類 | 社会工学類 専任 | | |
| 研究分野 | 組合せデザイン理論、情報セキュリティ、情報通信、遺伝子情報解析 | | |

1. 教育

- ◆ 担当授業科目 :
学類 社会工学実習/線形代数 II/情報ネットワーク
大学院 情報セキュリティ管理
- ◆ 指導学生数 :
社会システム工学専攻 1 人/社会システム・マネジメント専攻 2 人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要 :
科学研究費 基盤研究(C)「組合せ論的マルチメディア指紋符号とその不正者追跡アルゴリズムの研究」(代表)
科学研究費 基盤研究(C)「多重構造を持った組合せ的デザインの統合と統一的構成法の研究」(分担者)
- ◆ 著書・論文等 :
[1] X. Wang, Y. Miao and M. Cheng, Finding motifs in DNA sequences using low-dispersion sequences, Journal of Computational Biology 21 (2014), 320-329.
[2] J. Chen, D. Wu and Y. Miao, Bounds and constructions for $(v, W, 2, Q)$ -OOCs, Discrete Mathematics 328 (2014), 16-22.
- ◆ 学会発表等 :
[1] Y. Miao, Beyond separable codes (Invited talk), The 3rd Taiwan-Japan Conference of Combinatorics and its Applications, Science and Engineering Hall, National Chiayi University, Chiayi, Taiwan, March 21-23, 2014.
[2] Y. Miao, Group testing in multimedia fingerprinting, Department of Applied Mathematics, National Chiao Tung University, Hsinchu, Taiwan, March 17, 2014.
[3] Y. Miao, Fingerprinting codes and related extremal bipartite graphs, Department of Mathematics, Tamkang University, Taipei, Taiwan, March 11, 2014.
[4] Y. Miao, Separable codes and their variations, School of Mathematical Sciences, Suzhou University, Suzhou, China, February 16, 2014.
[5] Y. Miao, Expanded separable codes, The 11th International Conference on Finite

Fields and Their Applications, Otto-von-Guericke University, Magdeburg, Germany,
July 22-26, 2013.

- ◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
全学 外国語センター学類代表
システム情報工学研究科 早期修了プログラム実施委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
大学院 博士論文委員長/留学生支援委員長

4. 学外の社会貢献

- ◆ Editor: Graphs and Combinatorics, Springer, April 2002 - present.
- ◆ Editor: Journal of Combinatorial Designs, John Wiley & Sons, January 2004 - present
- ◆ Editor: Journal of the India Society of Agricultural Statistics, August 2009 - present

| | | | |
|------------|----------------------------------|-----|-----|
| 氏 名 | 村上 暁信 | 職 名 | 准教授 |
| 専攻（博士後期課程） | 社会システム・マネジメント専攻 専任 持続環境学専攻 兼担 | | |
| 専攻（博士前期課程） | 環境科学専攻、社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任 | | |
| 担当学類 | 社会工学類 専攻 | | |
| 研究分野 | ランドスケープ・プランニング、都市農村計画、緑地計画 | | |

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 都市環境評価論／東京の都市学／総合科目「都市・地域・環境を探る」／都市緑地計画／都市計画マスタープラン策定実習／社会工学実習
大学院 景観計画論／Landscape Planning／都市景観論

◆ 指導学生数：

社会工学類 2人／社会システム工学専攻 5人／環境科学専攻 7人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

委託研究 独立行政法人科学技術振興機構戦略的創造研究推進事業 分担（研究開発プロジェクト「いのちを守る沿岸域の再生と安全・安心の拠点としてのコミュニティの実装」研究代表者：石川幹子 研究題目：「ひと」と「コミュニティ」の力を生かした復興まちづくりの実装）

受託研究 「常総市地域防災計画変更業務」（常総市）

人間文化研究機構・総合地球環境学研究所 Full Research 研究プロジェクト 分担（コアメンバー）（研究代表者：村松伸 研究課題名：「都市をめぐる循環と多様性：人類と地球環境を架橋する巨大で複雑なシステムの未来可能性」）

◆ 著書・論文等：

小森美咲，村上暁信：屋敷林の変遷と民家の空間構成に関する研究—つくば市洞下集落を事例に—．日本都市計画学会都市計画論文集，48，363-368，2013

Hara, Y., Murakami, A., Tsuchiya, K., Palijon, A. M., Yokohari, M. : A quantitative assessment of vegetable farming on vacant lots in an urban fringe area in Metro Manila: Can it sustain long-term local vegetable demand? Applied Geography, 41,195-206, 2013

王彦，村上暁信：下草管理が里山の夜間冷気の移流に与える影響．ランドスケープ研究，76(5)，543-546，2013

◆ 学会発表等：

Akinobu Murakami : "Bridge ecologically sound city and social amenity" (4th Jakarta

Megacity (JABODETABEK) Study Forum Seminar, “RESILIENT MEGACITIES: IDEA, REALITY, AND MOVEMENT”), Bogor, Indonesia, (招待講演), 2013.10.08.

- ◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
スーパーグローバル大学事業タスクフォース委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会システム・マネジメント専攻運営委員
環境科学専攻予算委員会委員長
環境科学専攻入試実施委員会副委員長
社会工学類カリキュラム委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 日本学術会議連携会員（第 22 期連携会員）
- ◆ 米軍子弟教育高大連携プロジェクト講師
- ◆ 守谷市都市計画審議会委員
- ◆ 東海村舟石川近隣公園整備検討委員会委員
- ◆ 東京都港区生物多様性地域戦略策定委員会委員
- ◆ 日本都市計画学会国際委員会委員
- ◆ 日本造園学会学術委員会委員
- ◆ 農村計画学会査読委員会委員，同評議員
- ◆ 環境情報科学センター学術委員，同評議員

| | | | |
|------------|-------------------------|-----|-----|
| 氏 名 | 桃田 朗 | 職 名 | 准教授 |
| 専攻（博士後期課程） | 社会システム・マネジメント専攻 専任 | | |
| 専攻（博士前期課程） | 社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任 | | |
| 担当学類 | 社会工学類 専任 | | |
| 研究分野 | マクロ経済理論、人口経済学 | | |

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 財政学、公共システム演習

大学院 マクロエコノミクス（経営・政策専攻）、マクロ経済学（社会システム専攻）、
財政政策

◆ 指導学生数：

社会工学類 2人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 基盤研究 (C)「少子・高齢社会におけるマクロ経済理論の研究」(代表)

科学研究費 基盤研究 (C)「現代の政策課題と動学的マクロ経済学の応用可能性」(分担)

科学研究費 基盤研究 (C)「ユーザー・チャージと世代間差別に関する研究」(分担)

◆ 著書・論文等：

Akira Momota, Ryo Horii, “Timing of childbirth, capital accumulation, and economic welfare,” Oxford Economic Papers, 65(2), 494-522, 2013.

◆ 学会発表等：

討論者 日本経済学会秋季大会（神奈川大学）：論文 Asset Bubbles in Endogenous Fertility に対するコメント

◆ その他：

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

なし

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

学類 クラス担任（2年生）

4. 学外の社会貢献

◆ 論文査読

Japanese Economic Review、International Economic Review

◆ 出張講義

岩手県立釜石高等学校（2013 年 10 月 29 日）

| | | | |
|------------|-------------------------|-----|----|
| 氏 名 | 山本 幸子 | 職 名 | 助教 |
| 専攻（博士後期課程） | 社会システム・マネジメント専攻 専任 | | |
| 専攻（博士前期課程） | 社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任 | | |
| 担当学類 | 社会工学類 専任 | | |
| 研究分野 | ストック活用計画、住宅計画、地域計画 | | |

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類： 設計演習Ⅰ／住環境計画実習／住まいと居住環境の計画／総合科目Ⅱ
 創造的復興：視点構築演習・チャレンジ学外実習／現代まちづくりの理論と実践
 大学院：住環境計画論（環境科学専攻）／都市空間のフィールドワーク演習
 都市・地域経営とまちづくり

◆ 指導学生数：

社会工学類 2名／環境科学専攻 1名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

若手研究B：「体験・就業支援と空き家活用を組み込んだ包括的移住支援システムの構築」
 （代表）

基盤研究B：「過疎地域における廃校・空き家を活用した地域主導型福祉サービスネットワークの構築」（分担）

◆ 著書・論文等：

- ① 中園真人、三島幸子、山本幸子：木造民家を再利用した高齢者デイサービス施設の空間構成と使われ方－農山漁村地域における高齢者福祉施設整備に関する研究：山口県阿武町を対象として－その2－，日本建築学会計画系論文集，第79巻，第696号，pp. 491－499，2014. 2
- ② 中園真人、初崎竜太郎、清水聡士、山本幸子：山口県における公立小学校の児童・学校数の推移(1949－2011)，日本建築学会技術報告集，第20巻，第44号，pp. 237－240，2014. 2
- ③ 中園真人、平蔡大雅、三島幸子、山本幸子、牛島朗：高齢者通所介護施設の利用圏構成と施設利用水準－山口県の事例報告（2010）－，日本建築学会技術報告集，第19巻，第43号，pp. 1139－1142，2013. 10
- ④ 山本幸子、吉岡絢香、伊藤優里、中園真人：子育て支援施設の設置動向と校区単位の整備水準評価－山口県の事例報告(1993－2011)－，日本建築学会技術報告集，第19巻，第42号，pp. 695－698，2013. 6

- ⑤ 山本幸子、中園真人：地方自治体の空き家改修助成制度を導入した定住支援システムの運用形態，日本建築学会計画系論文集，第 78 巻，第 687 号，pp.1111－1118，2013.5

◆ 学会発表等：

- 1) Sachiko Yamamoto, Mahito Nakazono: Reuse Project of Abandoned Cultivated Land by the inhabitant group in the Mountainous Village -Case study on “Kiwanosatoni-tsudoukai” -, Proc. 9th Int. Sympo. on City Plann. And Environ. Management in Asian Countries, pp.219-224, 2014,1 (査読有)
- 2) Madoka Komine, Sachiko Mishima, Mahito Nakazono, Akira Ushijima and Sachiko Yamamoto: The Relationship between Location Characteristics and Established Organizations of Day Care Centers for the Elderly, Proc. 9th Int. Sympo. on City Plann. And Environ. Management in Asian Countries, pp.327-331, 2014,1 (査読有)
- 3) Takehiro Konishi, Ryutaro Hatsuzaki, Mahito Nakazono, Akira Ushijima and Sachiko Yamamoto: Analysis of the closed public schools in units of local governments in Chugoku District, Proc. 9th Int. Sympo. on City Plann. And Environ. Management in Asian Countries, pp.131-135, 2014,1 (査読有)
- 4) Akira Ushijima, Satoshi Shimizu, Mahito Nakazono, Ryutaro Hatsuzaki, Takehiro Konishi and Sachiko Yamamoto: Reorganization Process of Elementary/Junior High Schools and Actual Conditions on the Operation Form of Closed Schools in Mountainous Regions -Case Study on 5 Municipalities in Yamaguchi Prefecture(1960-2010)-, Proc. 9th Int. Sympo. on City Plann. And Environ. Management in Asian Countries, pp.125-129, 2014,1 (査読有)
- 5) Yumiko Fukuda, Fumika Kobayashi, Aya Ishigaki, Sachiko Yamamoto and Reiko Shimokura: A Study on the housing supply by community for continued existence of a local school, International Association for People Environment Studies International network symposium, pp.82-83, 2013.6.25-28, Spain (査読有)
- 6) ○山本幸子、伊藤優里、中園真人：農家住宅を再利用した地域型つどいの広場の使われ方－山口県における子育て支援施設整備における研究 その 2－，日本建築学会大会学術講演梗概集，2013.9

◆ その他：

住総研研究奨励（共同研究、2013 年 6 月）

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：なし

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

社会工学類 3 年生クラス担任

社会工学類入試委員

社会工学類建築士受験資格運営委員会

社会システム工学専攻 FD 委員

改組に伴う施設整備の改修計画・設計担当

4. 学外の社会貢献

◆ 学会活動

- 1) 日本建築学会建築社会ストック委員会・住宅の地方性小委員会「住宅市場政策WG」メンバー（2013 年 4 月～）
- 2) 日本建築学会住宅系研究報告会運営幹事（2013 年 8 月～）

◆ 学外から委嘱された委員

- 1) 高萩市本庁舎再建（災害復旧）工事基本・実施設計業務委託に係る受託者選定委員会副委員長（2013 年 11 月 25 日～）
- 2) 県北地域の活性化方策に関する検討会専門家会議（2013 年 9 月 26 日～）
- 3) 土浦市かわまちづくり計画策定委員（2013 年 7 月 19 日～11 月 26 日）
- 4) つくば市空き家の有効活用施策に関する学術指導（2013 年 4 月 23 日～2014 年 3 月 31 日）
- 5) つくば市ホテル等建築審議会委員（2013 年 2 月 1 日～）
- 6) 土浦市立学校給食センター再整備基本構想策定委員会副委員長（2012 年 11 月 8 日～2013 年 9 月 25 日）
- 7) 土浦市都市計画マスタープラン策定委員会委員（2012 年 9 月 27 日～2014 年 2 月 19 日）

◆ 講演，パネルディスカッション

- 1) 日本建築学会中国支部建築計画委員会シンポジウム「中国地方の中山間地域における住民主体による小学校存続の取り組み」課題解説、ワークショップ（2014 年 2 月 22 日）
- 2) 筑波大学・まちづくりシンポジウム「公務員宿舎のこれまで、これから ～宿舎一斉廃止を考える～」主催（2013 年 7 月 6 日）

| | | | |
|------------|-------------------------|-----|----|
| 氏 名 | 山本 芳嗣 | 職 名 | 教授 |
| 専攻（博士後期課程） | 社会システム・マネジメント専攻 専任 | | |
| 専攻（博士前期課程） | 社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任 | | |
| 担当学類 | 社会工学類 専任 | | |
| 研究分野 | 数理工学、最適化、オペレーションズ・リサーチ | | |

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類：微積分 II、計算機科学、数理工学モデル化実習、サービスの産業と組織、フレッシュマンセミナー

大学院前期課程：経営工学における課題と方法、最適化理論、ビジネス戦略：理論と実践

◆ 指導学生数：

社会工学類：0名／社会システム工学専攻：2名／社会システム・マネジメント専攻：3名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

大川情報通信基金「Majority Judgment の理論的研究と実験」

◆ 著書・論文等：

- N. Sukegawa, Y. Yamamoto and L. Zhang, “Lagrangian relaxation and pegging test for the clique partitioning problem,” *Advances in Data Analysis and Classification* **7** (2013) 4, 363-391; DOI 10.1007/s11634-013-0135-5.
- A. Igarashi and Y. Yamamoto, “Computational complexity of a solution for directed graph cooperative games,” *Journal of the Operations Research Society of China* **1** (2013) 3, 405-413.

◆ 学会発表等：

- 「一人一票から Majority Judgment の先へ」日本オペレーションズ・リサーチ学会「評価の OR」研究部会，大阪大学，2013 年 6 月
- 「戦略的操作を許さない弱単調な集約関数の話」日本オペレーションズ・リサーチ学会「最適化の理論と応用」研究部会「未来を担う若手研究者の集い 2013」筑波大学，2013 年 6 月
- 「有向グラフ上で定義された協力ゲームの解の計算複雑度」日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会，徳島大学，2013 年 9 月
- 「モジュラリティ最大化問題に対する切除平面法に基づく発見的解法」日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会，徳島大学，2013 年 9 月

- "Characterization of aggregation function in voting mechanism", Tsukuba Global Science Week, 筑波大学, 2013 年 10 月
- "Computational complexity of a solution for directed graph cooperative games", Tsukuba Global Science Week, 筑波大学, 2013 年 10 月
- "A cutting plane algorithm for modularity maximization with heuristics for separation problem", Tsukuba Global Science Week, 筑波大学, 2013 年 10 月

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
全学学群教職課程委員、全学学群教育課程委員、教養教育機構委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会システム・マネジメント専攻、社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻：運営委員
社会工学類：カリキュラム委員長、クラス担任

4. 学外社会貢献

- ◆ 日本オペレーションズ・リサーチ学会代議員
- ◆ Journal of the Operations Research Society of China の Associate editor
- ◆ Optimization and Engineering の Editorial board

| | | | |
|------------|-------------------------------|-----|----|
| 氏 名 | 吉瀬 章子 | 職 名 | 教授 |
| 専攻（博士後期課程） | 社会システム・マネジメント専攻 専任 | | |
| 専攻（博士前期課程） | 社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任 | | |
| 担当学類 | 社会工学類 専任 | | |
| 研究分野 | 数理最適化、オペレーションズ・リサーチ、サービスサイエンス | | |

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
- ◆ 学類 問題発見と解決／数理計画／数学の言葉
- ◆ 大学院前期課程 先端最適化特論
- ◆ 指導学生数：計 16 名
システム情報工学研究科
社会システム・マネジメント専攻 3 名／社会システム工学専攻 3 名／経営・政策科学専攻 4 名／理工学群社会工学類 6 名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 基盤研究 (B)「錐最適化における新たなパラダイム：二重非負値行列錐上の最適化とソフトウェアの開発」(代表)

科学研究費 基盤研究 (A)「患者の満足とスタッフの適正労働を実現する地域基幹病院の医療サービス科学」(分担)

科学研究費 基盤研究 (B)「連続最適化による混合整数計画問題の大域的解決と情報技術への応用」(分担)

科学研究費 基盤研究 (C)「ネットワーク構造解析アルゴリズムの開発とネットワークアルゴリズムの総合的展開」(分担)

共同研究（新日鉄住金ソリューション）「筑波大学附属病院病床割当支援システム・プロトタイプの作成」
- ◆ 著書・論文等：

田中彰浩，吉瀬章子「行列の共正値性を判定する新しいアルゴリズムの提案」，統計数理研究所共同研究リポート「最適化：モデリングとアルゴリズム」26（2014）191-204.

松川恭明，吉瀬章子「非対称錐上の最適化問題に対する非許容型内点法」，統計数理研究所共同研究リポート「最適化：モデリングとアルゴリズム」26（2014）106-121.

舟橋史明，吉瀬章子「円パッキング問題に対する半正定値緩和に関する考察」，統計数理

研究所共同研究リポート「最適化：モデリングとアルゴリズム」26（2014）60-72.

鵜飼孝盛, 吉瀬章子「病床自動割当システムの作成」, オペレーションズ・リサーチ 58 (2013) 634-640.

◆ 学会発表等：

横尾知孝, 田中彰浩, 吉瀬章子, 「円パッキング問題に対する半正定値緩和の改良に関する考察」, 学会等名：研究集会「最適化：モデリングとアルゴリズム」2013/3/16, 統計数理研究所

Akihiro Tanaka and Akiko Yoshise, "An LP-based algorithm to test copositivity", ICOTA 2013, 2013/12/15, National Taiwan University of Science and Technology, Taiwan.

Akihiro Tanaka and Akiko Yoshise, "An LP-based algorithm to test copositivity," ICCOPT 2013, 2013/7/31, Universidade Nova de Lisboa, Portugal

◆ その他：

特集企画：鵜飼孝盛, 吉瀬章子「データから読み解く医療サービス」, オペレーションズ・リサーチ 58 (2013) 620-668.

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
（全学）保育施設委員会委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
（社シマ専攻）経営政策科学専攻長
（学類）卒業生連絡委員会委員長

4. 学外の社会貢献

- ◆ 学会活動（役員/委員、論文査読等）
Pacific Journal of Optimization 編集委員
日中最適化会議運営委員
日本オペレーションズ・リサーチ学会表彰委員
日本オペレーションズ・リサーチ学会数理計画研究部会（RAMP）運営委員
論文査読：Mathematical Programming, SIAM Optimization, Journal of Computational and Applied Mathematics, Optimization Letters, Nonlinear Analysis Series A: Theory, Methods & Applications, 等
- ◆ 学外から委嘱された委員、兼業など
科学技術振興調整費評価作業部会委員

| 氏 名 | 吉野 邦彦 | 職 名 | 教授 |
|------------|--------------------------------------|-----|----|
| 専攻（博士後期課程） | 社会システム・マネジメント専攻 専任 持続環境学専攻 兼担 | | |
| 専攻（博士前期課程） | 環境科学専攻 専任 社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 兼担 | | |
| 担当学類 | 社会工学類 専任 | | |
| 研究分野 | 環境影響評価、リモートセンシング | | |

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類：都市計画実習，都市データ分析，環境科学とリスクマネジメント，都市計画情報実習

博士前期課程：地理情報演習，環境空間情報工学，環境共生科学概論，環境科学実習

◆ 指導学生数：

卒論生 0名

大学院前期課程（環境科学専攻） 3名

大学院後期課程（持続環境学専攻） 0名

研究生 2名（システム情報工学研究科1名，環境科学専攻1名）

短期交換留学生（環境科学専攻） 2名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- 1) JST 戦略的創造研究推進事業研究領域「二酸化炭素排出抑制に資する革新的技術の創出」（共同研究者）
- 2) 科研費 基盤研究（一般）(B)（代表）湿原生態系保全のためのリモートセンシング観測諸元の解明
- 3) 植物形態の3Dモデリング手法の開発
- 4) 科研費 基盤研究（一般）(A)（分担）農業および水環境におけるコロイド界面現象の工学的体系化

◆ 著書・論文等：

- 1) Pham Tien Dat and Yoshino, K., 2013. Comparing Mangrove Forest Management in Hai Phong City, Vietnam towards Sustainable Aquaculture, Procedia Environmental Sciences, Vol. 17, 109-118, Elsevier
- 2) Setiawan, Y. and Yoshino, K., 2013. Detecting land use change from seasonal vegetation dynamics in regional scale with MODIS EVI 250 m time-series imagery,

Journal of Land Use Science DOI:10.1080/1747423X.2013.786151, (published online on 2013.04.30) (refereed)

3) Yuri Yamazaki, Toshimi Muneoka, Sachiyo Wakou, Motoko Shimura, Kunihiro Yoshino, Osamu Tsuji and Toshio Tabuchi, 2013. The Difference of Agricultural Land Use in Watersheds and Long Term Fluctuation on the River Water Quality. Int. J. Environ. and Rural Development, Vol.4(accepted on April 2, 2013) (Refereed)

4) Toshimi Muneoka, Yuri Yamazaki, Sachiyo Wakou, Motoko Shimura, Kunihiro Yoshino, Osamu Tsuji and Toshio Tabuchi, 2013, The Nitrogen Runoff Characteristics in Agricultural Watersheds after Enforcement of Animal Waste Regulation. Int. J. Environ. and Rural Development, Vol.4(accepted on May 30, 2013) (Refereed)

5) Yudi Setiawan, Kunihiro Yoshino, Lilik Budi Presetyo, 2013. Characterizing the dynamics change of vegetation cover on tropical forestlands using 250 m multi-temporal MODIS EVI, International Journal of Applied Earth Observation and Geoinformation, 26, 132-144 (accepted on July 1, 2013)

6) Nyamsambuu, Khishigsuren and Yoshino, K. (2013). Characteristics of spatial distribution of aboveground biomass and vegetation index. Yearly Book: Journal of Geoecological Issues of Mongolia 2012, p.202-212

7) PHAM TIEN DAT, NGUYEN KIM ANH, KUNIHIKO YOSHINO, 2013. Mapping Wetland Cover Types Using Remote Sensing and GIS in Can Gio Mangrove Biosphere Reserve, Vietnam. Lecture Notes in Earth Sciences (accepted on Oct.4)

8) Yudi Setiawan, Ernan Rustiadi, Kunihiro Yoshino, Liyantono, Hefni Effendi, 2014, Assessing the Seasonal Dynamics of the Java's Paddy Field using MODIS Satellite Images, ISPRS International Journal of Geo-Information, Vol.3, p.110-129 doi:10.3390/ijgi3010110

9) Yoshino. K., Kawaguchi, S., Kanda F., Kushida, K., and Tsai, F., 2014. Very High Resolution Plant Community Mapping at High Moor, Kushiro Wetland. PE&RS, (accepted 2014/01/25 2:39)

◆ 学会発表等：

◆ その他：

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

全学委員： 留学生対応委員（+留学生連絡協議会委員）

システム情報工学研究科： FD 委員

社会工学類 1 年生クラス担任

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
運営委員，FD 委員長

4. 学外の社会貢献

- ◆ 茨城県環境影響評価審査会委員
- ◆ つくば市環境審議委員
- ◆ 日本写真測量学会論文集編集委員

| 氏 名 | 渡辺 俊 | 職 名 | 教授 |
|------------|-------------------------|-----|----|
| 専攻（博士後期課程） | 社会システム・マネジメント専攻 専任 | | |
| 専攻（博士前期課程） | 社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任 | | |
| 担当学類 | 社会工学類 専任 | | |
| 研究分野 | 建築計画、都市計画、空間情報科学、デザイン科学 | | |

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 都市空間の計画とデザイン／都市計画情報実習／
基本製図／住環境計画実習／
東京の都市学／アカデミックコミュニケーション
大学院 環境情報科学

◆ 指導学生数：

社会工学類 3人／社会システム工学専攻 3人／研究生 1人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 基盤研究(A)「地理情報科学と都市工学を融合した空間解析手法の新展開」
(分担)

科学研究費 基盤研究(A)「老朽化する都市インフラの選択集中整備に関する理論・実証研究」(分担)

◆ 著書・論文等：

Shun Watanabe and Yume Masuya: Spatial Cognition and Intentional Behavior in the Post-Sedentary Age, Journal of Asian Architecture and Building Engineering, Vol. 12 (2013) No. 2, pp. 285-291, 2013. 9

◆ 学会発表等：

堀之内志帆、渡辺俊：かおりを活かしたまちづくりの可能性 「かおり風景100選」選定事業を対象として、日本建築学会学術講演梗概集、191頁～192頁 2013年8月

渡辺俊・北田春華：研究学園都市のプロシージャルモデリング、第36回情報・システム・利用・技術シンポジウム論文集 pp. 285-288、2013. 12

藤井晴行；大崎純；渡辺俊；位寄和久；長坂一郎：デザイン科学の教育方法について、第36回情報・システム・利用・技術シンポジウム論文集/pp. 288-292、2013. 12

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
筑波大学・まちづくりシンポジウム「公務員宿舎のこれまで、これから」
TSUKUBA GLOBAL SCIENCE WEEK

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会システム工学専攻 コンピュータ委員、就職委員
社会工学類 3年担任、コンピュータ委員、就職委員、授業評価・FD委員
教育用計算機システム仕様書策定委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 国土技術総合研究所技術提案評価審査会委員
- ◆ 日本建築学会日本建築学会奨励賞選考委員会委員
- ◆ 日本建築学会デザイン科学教育方法研究小委員委員
- ◆ 日本建築学会設計情報検証WG委員

| | | | |
|------------|-------------------------|-----|----|
| 氏 名 | 渡辺 真一郎 | 職 名 | 教授 |
| 専攻（博士後期課程） | 社会システム・マネジメント専攻 専任 | | |
| 専攻（博士前期課程） | 社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任 | | |
| 担当学類 | 社会工学類 専任 | | |
| 研究分野 | 組織行動論、産業・組織心理学 | | |

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 経営組織論/社会調査実習/経営工学概論

大学院 組織行動論

◆ 指導学生数：

社会工学類 1人 / 社会システム工学専攻 4人 / 経営・政策科学専攻 4人

社会システム・マネジメント専攻 1人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 基盤（B）看護行動研究への組織心理学アプローチ（代表）

◆ 著書・論文等：

Watanabe, S., & Nishizawa, T. (2013). An S/T-O-R (Stimulus/Trait-Organism-Response) Model of Job Satisfaction. *Association for Psychological Science Poster Session, April 23, 2013* [podcast],
<http://www.psychologicalscience.org/index.php/video/a-stimulustraits-organism-response-st-o-r-model-of-job-satisfaction.html>

◆ 学会発表等：

Watanabe, S., Arakawa, K., Milovanovic, I., & Kanazawa, Y. (forthcoming). When nurses become emotionally attached to hospitals: Roles of trust and job satisfaction. To be presented at the 26th Annual Convention of *the Association for Psychological Science*, San Francisco.

◆ その他：

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

理工学群 体育センター運営委員

全学 FD 委員

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会工学類 予算委員

4. 学外社会貢献

- ◆ Cornell Admissions Ambassador Association Network 日本支部委員

| | | | |
|------------|--|-----|-----|
| 氏 名 | 渡邊 直樹 | 職 名 | 准教授 |
| 専攻（博士後期課程） | 社会システム・マネジメント専攻 専任 人文社会科学研究科経済学専攻 兼担 | | |
| 専攻（博士前期課程） | 社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任 人文社会科学研究科経済学専攻 兼担 | | |
| 担当学類 | 社会工学類 専任 | | |
| 研究分野 | ミクロ経済学、ゲーム理論 | | |

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：

学類 ミクロ経済学、社会工学実習、社会工学における戦略的思考
大学院 ゲーム理論
- ◆ 指導学生数：

学類 1名／大学院 前期課程 2名、後期課程 1名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：

日本経済研究センター 研究奨励金 代表者
「複数財および複数単位オークションの近似解法の実験経済学的評価」
文部科学省科学研究費 基盤研究C 代表者
「重み付き投票メカニズムにおける交渉過程の実験経済学的分析」
文部科学省科学研究費 基盤研究B 分担者
「組織間提携の形成、維持、拡大：気候変動枠組条約への応用」
- ◆ 著書・論文等：

“A Methodological Note on a Weighted Voting Experiment,”
Eric Guerci, Nobuyuki Hanaki, Naoki Watanabe, Gabriele Esposito,
Xiaoyan Lu, forthcoming in *Social Choice and Welfare*
“Coalition Formation in a Weighted Voting Experiment,”
Naoki Watanabe, forthcoming in *Japanese Journal of Electoral Studies*
- ◆ 学会発表等：

“The Kernel of a Patent Licensing Game,” Econometric Society Asian Meeting 2013,
August 4, 2013
“A Methodological Note on Weighted Voting Experiments,” 2013 Asia-Pacific Meeting

of the Economic Science Association, February 16, 2013
“A Methodological Note on a Weighted Voting Experiment,” 公共選択学会
November 23, 2013

◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
入試実施委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
入試実施委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 京都大学グローバル生存学大学院連携ユニット経済実験室 運営委員会委員